

令和二年度 文部科学省 次世代のライフプランニング教育推進事業

神大ワーク&ライフデザイン教育プログラム

～地域連携による男女共同参画推進を見据えたキャリア教育

報告書



神奈川大学

目次

I. はじめに.....	1
II. 事業の概要（令和二年度事業計画書）.....	3
1. 事業名.....	3
2. 委託期間.....	3
3. 実施組織の構成.....	3
4. 取組内容の趣旨・目的.....	4
5. 実施により得られることが見込まれる成果・効果.....	4
6. 具体的実施内容、実施方法等.....	5
7. 実施体制.....	6
8. 実施スケジュール.....	7
III. 2020年度各取組報告.....	8
1. 会議・実行委員会等報告.....	8
(1)会議等の実施(概要).....	8
(2)令和2年度 第1回実行委員会 記録.....	10
(3)令和2年度 第2回実行委員会 記録.....	18
(4)文部科学省令和2年度次世代のライフプランニング教育の推進に関する有識者会議における中間報告.....	31
2. 2020年度正課プログラム.....	35
(1)プログラムの概要.....	35
(2)2020年度前期実施準備.....	37
(3)実施報告.....	39
(4)プログラムの効果測定結果.....	90
(5)プログラムまとめ～意義と課題.....	102
3. 教材開発.....	105
(1)人生双六・人生双六データ資料2020年度版の作成.....	105
(2)サニー・S・ハンセンに基づく「4領域シート」、「統合シート」、「ステップアップシート」、「オンデマンド課題」の作成.....	108
4. ユニット型プログラム.....	109
(1)ユニット型プログラム_帝京平成大学.....	109
(2)ユニット型プログラム・専門科目「ジェンダーと法」組み込み型.....	118
(3)ユニット型プログラム2-共通教養科目組み込み型1.....	121
(4)ユニット型プログラム-共通教養科目組み込み型2.....	125
(5)ユニット型プログラム-高校向けプログラム.....	132
5. 地域開催講座に向けた調査および講座開催.....	134
(NPOかながわ女性会議).....	134
(1)M字カーブ調査および地域開催講座の目的.....	134
(2)ワーキンググループの実施.....	134
(3)M字カーブ調査.....	135
(4)M字カーブ調査報告書.....	135
(5)地域開催講座の実施.....	138
6. 地域連携に向けた取組（横浜市・神奈川県との連携）.....	149
(1)横浜市との連携.....	149

(2)神奈川県との連携	149
7. 地域連携による交流・発信 (かながわユースフォーラム)	151
(1)かながわユースフォーラムの概要	151
IV. 本事業の成果	152
1. 大学のキャリア教育	152
(1)キャリア教育をめぐる動向	152
(2)ライフキャリアの視点によるキャリア教育	153
(3)大学教育におけるキャリア教育の位置づけ	154
2. アクティブ・ラーニングの観点から見る本プロジェクトの評価と課題	156
(1)目的	156
(2)アクティブ・ラーニングの観点から見る本プロジェクトの評価	156
(3)課題	160
V. おわりに	164

I. はじめに

本書は、令和元年度・二年度、文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」において神奈川大学が受託・実施した「神大ワーク＆ライフデザイン教育プログラム～地域連携による男女共同参画推進を見据えたキャリア教育」の令和二年度報告書である。初年度の実施内容については令和元年度報告書に記しているが、本書は今年度実施内容を中心に二年間にわたり実施した本事業のまとめである。

（1）「次世代のライフプランニング教育推進事業」の概要

- 令和元年度本学が応募、採択された本公募事業の概要は、以下の通りである。
- 趣旨：若者が男女共同参画の視点に立って、自らの将来の職業や様々なライフイベント、社会において果たす役割等を含めたライフキャリアについて考える機会を充実させる教育プログラムを開発する
 - 事業内容：「職業」「ライフイベント」「生涯を通じた学び」を主な構成要素とし、固定的役割分担意識の解消等男女共同参画の推進に資する内容とする
 - 組織：大学等が中心となり、自治体、男女共同参画センター、NPO や産業界等による実行委員会を組織し実施する
 - 期間：2 年間（契約は単年度、継続には審査あり）

なお、教育プログラムは高校生・大学生向けのもの（本学は大学生向けとして応募）であり、大学の教育課程（教養・専門科目等）もしくは課程外（公開講座等）の展開を想定しつつ他大学等への普及をみすえたもの、かつ体験的なプログラム（仕事と家庭の両立体験ないし保育体験やワーク、振り返り等を含んだもの）であることが示されている。

（2）応募に至る経緯～本学の男女共同参画推進

本学では、「第二期中期計画」（2018～2028 年）において「『知の拠点』にふさわしい教育組織・教育研究環境を構築する」という目標のなかで「グローバル化とダイバーシティ推進」をかけ、2018 年 5 月には「ダイバーシティ宣言」を行っている。

男女共同参画推進事業としては、これに先立つ 2012 年度、就職講座としての男女共同参画プログラムを開始しその後授業への展開、また 2017 年度からはスリール（株）と共同企画・運営による「共働き家庭へのインターン」を実施してきた。さらに神奈川県ライフキャリア教育支援事業への参加やよこはまグッドバランス賞受賞企業との連携など、当初より神奈川県、横浜市、男女共同参画センター、地域の女性関係 NPO 等と連携協力をさせて頂きながら進めてきたことも大切な特徴である。

これらの活動を通して、また日ごろ学生たちと接しながら感じてきたことは、大学生の将来に対する不安の強さや、展望の描きにくさである。まず目先の卒業や就職が不安であり、その先の結婚・育児などのライフイベントは想像もしにくい。大学 3 年次となると具体的な就職活動が意識されるが、その前に、社会に出るとはどのようなことか、また長い人生を見据えた生き方＝キャリアを考える時間や機会が意外に限られていることを感じてきた。女子大学を中心に、女性を取り巻く労働環境をふまえたキャリア支援に力を入れる大学も多くこうした支援も必要である。一方共学の大学として、すべての学生が男女共同参画社会の担い手としての素養を身につけキャリアをデザインするための学修が重要と考えてきた。

また、男女共同参画社会におけるキャリアデザインにおいて、地域とのかかわりも重要と考えている。本学が所在する神奈川県は育児期女性のキャリア支援も課題の一つといえるが、学生達が地域の特徴や課題を理解し、地域と関わりながらキャリアを描く力を支援する必要性を感じてきた。大学が自治体や NPO 等と男女共同参画推進に向けたより良い連携のあり方を探ることもめざしている。

こうした問題意識やこれまでの経緯をふまえて本事業へ応募・採択に至り、本学におけるライフキャリア教育の推進をめざし2年間の活動を行ってきた。

（3）本報告にあたって

本事業一年目の活動は先述のとおり令和元年度報告書にまとめているが、大きくは今年度正課の実施に向けてプログラムの作成・試行、共働き家庭でのインターン（課外）実施、講演会や交流会等の普及啓発活動などを行った。二年目となる今年度は、正課授業の実施、教材等の作成、地域における調査、講座・交流等を行った。今年度報告にあたります最初に二点ほど申し上げておきたい。一点目は、以下の方々をはじめとする実行委員会、WGその他多くの方々に継続してご協力を頂きながら実施してきたことである。

- ・神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課
- ・横浜市政局男女共同参画推進課（よこはまグッドバランス賞受賞企業との連携を含む）
- ・公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 男女共同参画センター横浜
- ・スリール（株）（再委託）
- ・特定非営利活動法人かながわ女性会議（再委託）

二点目は、新型コロナウィルス感染症の流行による影響である。世界が大きく影響を受けているなか、大学も学事暦、授業方法（オンライン化）等の変更を行いながらこの一年を送ってきた。2年目の本事業実施においても、先の見えない状況のなか都度具体的な変更や対応を多く重ねつつ、一方基本的な計画・実施内容は大きく変えず遂行することに努めてきた。これらの点をふまえつつ本報告書をお読みいただければ幸いである。

II. 事業の概要（令和二年度事業計画書）

1. 事業名

「神大ワーク＆ライフデザイン教育プログラム
～地域連携による男女共同参画推進を見据えたキャリア教育」

2. 委託期間

委託を受けた日（令和2年5月21日）から令和3年3月15日まで

3. 実施組織の構成

① 実行委員会の構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
荻野佳代子	神奈川大学人間科学部教授	心理学（ジェンダー関連科目担当）
井上匡子	神奈川大学法学部教授	法学・男女共同参画政策（ジェンダー関連科目担当）
齋藤ゆか	神奈川大学人間科学部教授	社会教育・生涯学習
吉澤達也	神奈川大学人間科学部教授	学長補佐
鈴木紀子	日本女子大学現代女性キャリア研究所 客員研究員	
馬場洋介	帝京平成大学大学院教授	キャリア関連科目担当
山田ふみ子	神奈川県福祉子どもみらい局人権男女 共同参画課長	
大友喜一郎	横浜市政策局男女共同参画推進課長	
菊池朋子	公益財団法人横浜市男女共同参画推進 協会 事業本部長	
吉田洋子	特定非営利活動法人かながわ女性会議 理事長	
堀江敦子	スリール（株）代表取締役	内閣府男女共同参画局専門委員

② コーディネーター

氏名	所属・役職等	備考欄
荻野佳代子	神奈川大学人間科学部教授	

4. 取組内容の趣旨・目的

1. 趣旨：本学では県・市・NPO等との連携による「男女共同参画の視点による就職講座」および正課授業への展開、加えて2017年度から男女共修による「共働き家庭へのインターン」を実施してきた。インターンには横浜市の協力のもと「よこはまグッドバランス賞（働きやすい職場環境づくりに積極的な中小企業を表彰）」受賞企業協力による企画も含まれている。この実績から次の3点が明らかとなった。①ライフプランニング講座は女性向けが多いが、男性にも必要性が高い。かつ男女共同参画に向け「男女が共に学ぶ」意義もある。②大学でのキャリア講座は卒業後の就職に特化したものが中心だが、ワーク・ライフ（家庭・地域生活等）両面において、就職・結婚・育児等様々なライフイベントを理解しつつ生涯にわたるキャリアを展望する必要がある。③神奈川県ではM字カーブ（女性の年齢階級別労働力率）の高低差が全国1位（厚生労働省「平成28年度働く女性の実情」）であり、育児期女性のキャリア支援といった地域課題を踏まえた地域連携およびプログラムが必要である。

以上の問題意識をふまえ、①男女共修、②ワーク・ライフ両面における長期的視点でのキャリア展望、③地域連携を特徴とするプログラム開発を目指す。

2. 目的：本事業の目的は、前出の3点を特徴としたプログラムを地域自治体、NPO等と連携し、正課・ユニット型プログラムとして開発することである。2年目にあたる令和2年度は元年度に作成したプログラムをもとに、スリール（株）の協力による体験学習「共働き家庭へのインターン」を柱とし、事前事後学習および振り返り発表を含めた正課を実施する。ほか元年に開発したプログラムを、他大学での導入等を視野に入れ、汎用性のあるものとして改善・実施する。プログラムは、指導者向け資料、教材、普及ツールから構成され、効果測定により改善を加えて完成させる。また、地域との連携・交流については、よこはまグッドバランス賞受賞企業との連携、地域女性対象の調査・講座の実施、若者による地域参加プログラムへの学生の参加などによりワーク・ライフ両面における地域連携・交流のしくみづくりを目指すこととする。

5. 実施により得られることが見込まれる成果・効果

（成果・効果）

目指す効果としては、学生、大学、地域において、多様性を阻むアンコンシャスバイアスを低減し、自他ともに多様な生き方を認め合える大学づくり、そして地域づくりに貢献することである。

具体的に、まず学生に対しては、就職、結婚、育児等のライフイベントに対する理解が深まり、人の生き方＝ライフ・キャリアにおける固定的性別役割分担意識の影響を理解すること、また将来に対する不安が軽減され、キャリア選択に主体的に関わる意欲・行動が高まる効果、および現在の学修・学生生活に対する意欲が増す効果が期待される。大学としては、ワーク・ライフバランスに向けたキャリア教育・支援および地域連携による男女共同参画推進事業の一つのあり方を示し、さらなる機運の醸成が期待される。さらに地域に向けては、学生の地域に対する関心が高まること、育児期女性への支援を柱に子ども、世代間交流による大学と地域の連携の深化および新たな連携のかたちを提案することを目指す。

（目標、測定する指標）

○効果測定の方法：

・プログラム実施前後における質的調査（ポートフォリオ分析等）および質問紙調査 等

○測定指標（案）：

キャリアにおける不安（含む両立への不安）、キャリア意識（キャリアに向けての意識・行動、自己効力感等）、ライフイベントに対する理解・意識、性別役割分担意識、アンコンシャスバイアスに関する理解、学修および学生生活に対する意欲、プログラム満足度 等

6. 具体的実施内容、実施方法等

○実施内容

1. 実行委員会開催

- (1) 全体会(2回/年)全体計画作成・進捗管理等
- (2) ワーキンググループ(25回程度/年)プログラムの検討・運営、教材作成、地域連携検討等
- 2. 正課プログラム(14回構成:共働き家庭へのインターン含む)実施、効果測定
- 3. プログラム開発・改善、他大学含めた実施、効果測定
- 4. プログラム教材・指導者用資料・普及ツール等作成
- 5. (正課プログラム内)共働き家庭へのインターン実施
- 6. よこはまグッドバランス賞受賞企業連携企画(講師招聘等)
- 7. 地域連携に向けた講座企画等検討・実施
- 8. ワーク・ライフデザインにおける地域連携および本プログラムの普及を見据えた学内外への発信
- 9. 女性労働・キャリアデザイン等に関する専門家を招いた研究会開催
- 10. 記録および報告書作成

○具体的な実施方法

(1) 正課プログラム実施、効果測定

←令和2年度後期に共働き家庭でのインターンを含む正課授業プログラムを実施する。プログラムは法学、心理学の理論的背景に基づきキャリアデザイン、ジェンダー(多様性理解)の内容を中心とし、プレゼンテーションなど含むアクティブラーニングの手法を取り入れ、体験的に学ぶことを重視している。期間中に質問紙調査等により学びの効果を測定する。また家庭への体験に参加できない学生を想定し地域の子ども支援事業等家庭以外の体験活動についても検討する。

←受講生は24名限度に準備をしている。前期関連授業での告知や講演会(特別講義)実施、後期開講前の説明会により学生へ周知し受講者を集め。

(2) (1)以外のプログラム開発改善、他大学含めた実施、効果測定

←元年度に実施したプログラムを改善し、他大学を含めさらなる実施、効果測定を行う。実行委員等に協力を求め他大学で受け入れ可能な授業を打診・実施する予定である。大学・専門分野・学年・クラスサイズなど受講者や大学等の特性を踏まえてプログラムを調整し、より普及しやすい方法・内容を検討し実施する。

(3) 教材、指導者用資料、普及ツール等の作成

←ワーキンググループを中心として教材、指導者用資料、普及ツール等の作成を行う。作成した教材等を授業等で実施し改善を加えていく。

(4) 共働き家庭へのインターン

←スリール(株)の再委託事業として(1)に記載したとおり、2年度後期実施の授業の一環として実施する。元年度は正課外のプログラムで実施したが、正課で実施するうえでの課題も確認された。例えば、欠席者への対応や評価の問題等であるが、こうした点に対し準備検討を重ねたうえで実施する。

(5) よこはまグッドバランス賞受賞企業連携企画

←(1)のプログラム内でグッドバランス賞企業より講師を招聘した講演を企画する。個人のキャリアとしてだけでなく、構成員のワークライフバランスを支援する企業の取組や、地域への理解を深めるねらいを含めた内容を検討する。

(6) 地域開催講座に向けた検討実施

←NPO 法人かながわ女性会議への再委託事業として、M字型カーブの底の年代にある育児期女性を対象とした探索的調査をもとに、地域開催講座を検討実施する。さらに、支援を行っている団体等にも調査を行い講座や施策に関して具体的な提案・実施をめざす。

(7) 地域連携およびプログラム普及を見据えた学内外への発信

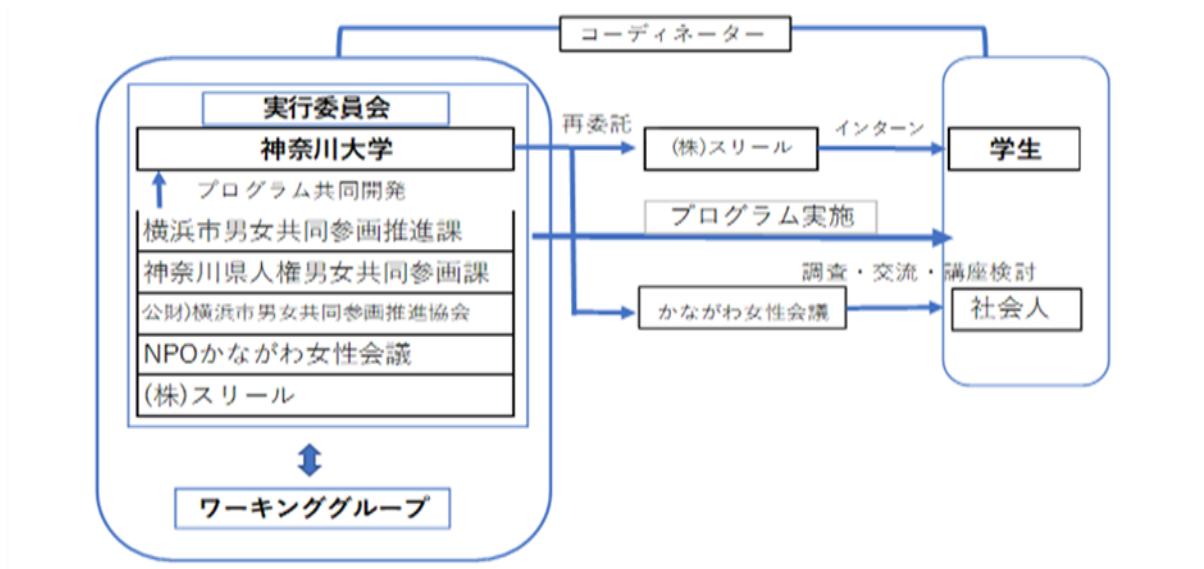
←ライフ・キャリアの趣旨をふまえた地域連携およびプログラム普及に向け、交流や発信を積極的に行う。令和2年度は、本学において若者による地域参加プログラム「かながわユースフォーラム」（ジェンダー、子どもの居場所等6つの分科会を含む）を地域団体との連携により開催予定である。その他、学生が参画してライフ・キャリアの趣旨や学びを発表し地域や多様な社会人と交流する機会を得ていく。

なお、現在新型コロナウィルス流行の影響により、大学の年間予定・運営等に変更が生じている。今後上記実施内容や計画に変更もあり得るが、状況をふまえ適切に実施をしていきたいと考える。

7. 実施体制

○実行委員会は、大学・自治体・NPO・企業から、男女共同参画、キャリア、地域連携等の専門的知見を得られるように組織した。各機関の主な役割は以下の通りである。

- ・神奈川大学…プログラム開発・実施、効果測定、教材等開発、他大学・地域との連携検討、実行委員会運営含む全体の統括
 - ・横浜市男女共同参画推進課…プログラム共同開発、よこはまグッドバランス賞企業との連携協力、男女共同参画センター連携協力
 - ・神奈川県人権男女共同参画課…プログラム共同開発、地域連携協力
 - ・公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会…プログラム共同開発、地域連携協力
 - ・NPO法人かながわ女性会議…プログラム共同開発、社会人対象調査・講座企画実施等
 - ・スリール(株)…共働き家庭インターン実施、プログラム共同開発等
- ※ワーキンググループ…プログラム開発・実施、効果測定、教材等開発、他大学・地域との連携等実行グループ



8. 実施スケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実行委員会						6月全体会					2月全体会	
正課授業実施						9月学生履修登録、9月～1月授業、評価、1～2月評価・総括						
共働き家庭へのインターン						9月～1月授業内でのインターン、事前事後指導						
プログラム開発・他大学含む実施					4月～2月	プログラム検討・実施・改善、効果測定等、総括						
教材等作成					4月～9月作成、9～2月実施・改訂							
地域講座検討・実施					4月～2月講座検討、支援団体調査、講座実施、総括							
地域等への発信					4月～2月検討、6月地域交流イベント実施等							

III. 2020年度各取組報告

1. 会議・実行委員会等報告

(1) 会議等の実施(概要)

1. 文部科学省会議等への出席・実行委員会等の実施

①2020年5月21日 令和2年度契約、委託事業開始

②2020年7月29日 令和2年度第1回実行委員会開催 出席者17名

③2020年11月2日 文部科学省令和2年度次世代のライフプランニング教育の推進に関する有識者会議における中間報告

④2020年12月21日 プログラム最終プレゼンテーション会

文部科学省 高野智志様、平島由梨様、伊勢千乃様 オンライン視察

⑤2021年2月15日 令和2年度第2回実行委員会開催

⑥2021年3月(予定) 文部科学省令和2年度次世代のライフプランニング教育の推進に関する有識者会議(第2回)における報告

2. ワーキング会議の実施

今年度は、事業運営、正課、ユニット型プログラム検討、地域講座検討等に関するワーキンググループを別表のとおり実施した。オンラインでのプログラム実施対応等により、会議の回数を予定より多く実施している。

2020年度「神大ワーク&ライフデザイン教育プログラム」ワーキンググループ記録

※WGメンバー：実行委員(吉田洋子、鈴木紀子、井上匡子、荻野佳代子、堀江敦子)／島亜紀／スリール(株)喜多村佳美・小島一記(5月まで)／大野恵理(9月～)

	日時	出席者	主な内容
第1回	4月17日	吉田洋子・鈴木紀子・堀江敦子・喜多村佳美・小島一記・井上匡子・荻野佳代子	2020年度正課実施に向けたプログラム作成計画、コロナ感染症の影響に対する対応について検討した
第2回	4月28日	吉田洋子・鈴木紀子・堀江敦子・喜多村佳美・小島一記・井上匡子・荻野佳代子	プログラム事前説明会および第1回～第3回までの素案を検討し、課題を整理した。さらに今後のワーキング進行計画について検討確認した
第3回	5月19日	吉田洋子・鈴木紀子・堀江敦子・喜多村佳美・小島一記・井上匡子・荻野佳代子	プログラム事前説明会および第4、5回の素案を検討し、課題を整理した。さらに外部講師による講演会内容、および今後のワーキング進行計画について検討確認し
第4回	6月2日	吉田洋子・鈴木紀子・堀江敦子・喜多村佳美・井上匡子・荻野佳代子	プログラム第6～9回素案を検討し、家庭での体験についてオンラインでの実施可能性について検討した
第5回	6月16日	吉田洋子・鈴木紀子・堀江敦子・喜多村佳美・井上匡子・荻野佳代子・島亜紀・細井佳代	プログラム(指導案)様式について検討した。またプログラム内で実施する講演会について内容・講師の検討を行った。さらにオンライン授業対応について課題等洗い出しを行った。
第6回	6月30日	吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・井上匡子・荻野佳代子・島亜紀・細井佳代	プログラム第10～13回素案を検討した。実行委員会内容検討および後期授業の案内について検討を行った
第7回	7月9日	鈴木紀子・井上匡子・荻野佳代子・島亜紀	プログラムで使用予定の教材(人生すごろく)について、目的を確認し、案をもとにさらなる充実化に向けて検討を行った。
第8回	7月21日	鈴木紀子・吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・細井佳代・荻野佳代子	令和2年度第1回実行委員会の内容検討、教材(人生すごろく)経過報告、プログラム運営上の課題検討を行った。
第9回	8月11日	鈴木紀子・吉田洋子・堀江敦子・井上匡子・荻野佳代子・島亜紀・細井佳代	後期授業オンライン化かつ授業期間変更に伴うシラバス内容の変更、説明会の内容等について検討を行った。
第10回	8月28日	吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・荻野佳代子	後期授業説明会および初回授業について詳細な検討を行った。

第11回	9月4日	吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・荻野佳代子	応募希望学生に対する説明会実施、および事前事後の確認を行った。
第12回	9月8日	吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・島亜紀・細井佳代・荻野佳代子	第1回授業内容の確認およびオンライン化を含めた役割の洗い出し、役割分担の確認を行った
第13回	9月15日	吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・島亜紀・細井佳代・荻野佳代子	第1～3回授業内容の確認およびオンライン化を含めた役割の洗い出し、役割分担の確認を行った。また今後のWGの開催について検討を行った
第14回	9月17日	馬場洋介・喜多村佳美・荻野佳代子	他大学での短期プログラム実施に向けて内容・方法についての検討を行った。
第15回	9月29日	吉田洋子・堀江敦子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・島亜紀・細井佳代・荻野佳代子	第4～5回授業内容の再検討、履修状況をふまえた第1回授業実施の確認を行った
第16回	10月5日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	初回授業の内容・運営方法について、最終確認を行った
第17回	10月12日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	初回授業の振り返りおよび第2回内容・運営方法について、最終確認を行った
第18回	10月19日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	第2回授業の振り返りおよび第3回内容・運営方法について、最終確認を行った
第19回	10月26日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	第3回授業の振り返りおよび第4回内容・運営方法について、最終確認を行った
第20回	10月27日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・島亜紀・荻野佳代子	本事業まとめ、報告書作成を見据えた検討を行った
第21回	10月27日	馬場洋介・喜多村佳美・荻野佳代子	帝京平成大学で実施予定のショートプログラムについて、内容・運営上の検討を行った
第22回	11月2日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	第4回授業の振り返りおよび第5回内容・運営方法について、最終確認を行った
第23回	11月9日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	第5回授業の振り返りおよび第6回内容・運営方法について、最終確認を行った
第24回	11月15日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・荻野佳代子	第7回授業「実習」運営について最終確認を行った
第25回	11月16日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	実習の振り返りおよび第8回内容・運営方法について、最終確認を行った
第26回	11月17日	馬場洋介・喜多村佳美・荻野佳代子	帝京平成大学で実施予定のショートプログラムについて、振り返りを行った
第27回	11月24日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・島亜紀・荻野佳代子	文科省報告および最終報告についての検討を行った
第28回	11月29日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理	第9回授業「実習」前最終確認
第29回	11月30日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	実習の振り返りおよび第9回内容・運営方法について、最終確認を行った
第30回	12月7日	喜多村佳美・井上匡子・大野恵理・荻野佳代子	前回の振り返りおよび第10回内容・運営方法について、最終確認を行った
第31回	12月14日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	前回の振り返りおよび第11回内容・運営方法について、最終確認を行った
第32回	12月21日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・荻野佳代子	第12回内容・運営方法についての最終確認、および文科省の方ご視察によるご説明・意見交換等を行った
第33回	12月22日	吉田洋子・喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・島亜紀・荻野佳代子	授業実施についての総括、および最終報告についての検討を行った
第34回	1月18日	喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・島亜紀・荻野佳代子	最終報告についての確認・検討 および実行委員会に向けての確認を行った
第35回	2月1日	喜多村佳美・鈴木紀子・井上匡子・大野恵理・細井佳代・島亜紀・荻野佳代子	最終報告についての確認・検討 および実行委員会に向けての確認を行った

(2)令和2年度 第1回実行委員会 記録

日時：令和2年7月29日（水）13:00～14:30

場所：オンライン（Zoom）による開催

出席者：17名（詳細次頁）

議事概要：

1. 挨拶、出席紹介

神奈川大学ダイバーシティ担当副学長 山口和夫教授よりご挨拶、および出席者より自己紹介があつた。

2. 令和2年度事業の概要 資料1,4,5

神奈川大学 萩野教授より、令和元年度の振り返りと2年度事業の概要について説明があつた。とりわけ新型コロナウィルス感染拡大に伴い、今年度プログラムをオンラインで実施する旨説明があつた。

3. 令和2年度再委託事業の内容

- (1) スリール株式会社 資料2
- (2) かながわ女性会議 資料3

各再委託事業に関し令和元年度振り返りと2年度事業の概要について説明があつた。

4. 報告・意見交換等

【報告】

・11月に予定されていた神奈川県主催「SDGs アクションフェスティバル（仮称）」について、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、2021年3月末に延期予定であること、またオンライン等を活用しての開催を検討中であることの報告があつた。

【主な意見交換】

- ・新型コロナウィルスが感染拡大している状況だからこそ、オンラインのプログラム、社会人へのヒアリングの可能性が増している。
- ・コロナの影響により、在宅勤務が普及しワークライフバランスのあり方が変わるなど、キャリアに対する考え方そのものが変わる可能性がある。
- ・7月に実施した「かながわユースフォーラム」ではオンライン交流の可能性が示された。
- ・調査やヒアリングの実施方法について、オンラインと対面を織り交ぜるのではなく、オンライン一本に統一したほうがよいのではないか。
- ・横浜市の第5次横浜市男女共同参画行動計画では、若者の教育機会の充実を盛り込む予定であり若者のキャリア形成支援は重要と考えている。
- ・M字カーブの底に位置する方たちの中でも、就労している母親としていない母親等ターゲットを変えてヒアリング、調査を進めていくとよいのではないか。
- ・M字カーブの底に位置する方たちは当事者自身の社会的な位置を知らない。底に位置する方たちは注目するのではなく、社会全体としての位置に注目し、学生との交流可能性について検討するべきではないか。

【資料】

資料1. 「神大ワーク＆ライフデザイン教育プログラム」

資料2. 「キャリアデザイン～ワーク＆ライフデザイン教育プログラム 授業について」

資料3. かながわ女性会議資料

資料4. 後期授業「キャリアデザイン」シラバス

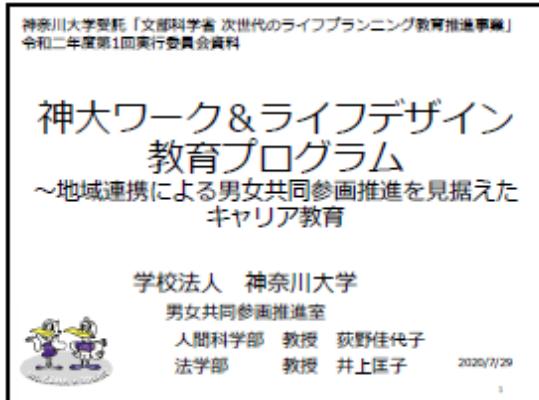
資料5. 令和2年度事業計画

文部科学省委託事業「次世代のライフプランニング教育推進事業」

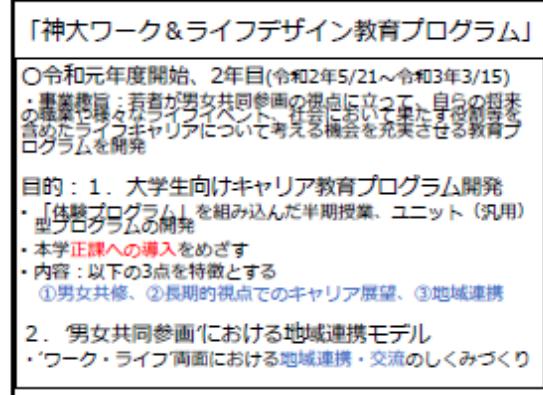
令和2年度 第1回実行委員会出席者名簿

	所属・役職等	氏名	出席
	神奈川大学副学長	山口 和夫	出席
実行委員	日本女子大学 現代女性キャリア研究所客員研究員	鈴木 紀子	出席
	帝京平成大学大学院臨床心理学研究科 教授	馬場 洋介	欠席
	神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課	山田 ふみ子	出席
	横浜市政策局男女共同参画推進課 課長	大友 喜一郎	出席
	公益社団法人横浜市男女共同参画推進協会 事業本部長	菊池 朋子	出席
	特定非営利活動法人かながわ女性会議 理事長	吉田 洋子	出席
	スリール株式会社 代表取締役	堀江 敦子	出席
	神奈川大学人間科学部 教授（学長補佐）	吉澤 達也	出席
	神奈川大学法学部 教授	井上 匡子	出席
	神奈川大学人間科学部 教授	荻野 佳代子	出席
	神奈川大学人間科学部 教授	齋藤 ゆか	出席
実行委員以外	神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課	田村 陽平	出席
ワーキングメンバー	新潟大学教育・学生支援機構コモンリテラシーセンター特任准教授	島 亜紀	出席
	スリール株式会社	喜多村 佳美	出席
事務局	神奈川大学学長室	野田 真	出席
	神奈川大学学長室	吉田 有希	出席
	神奈川大学男女共同参画推進室	細井 佳代	出席

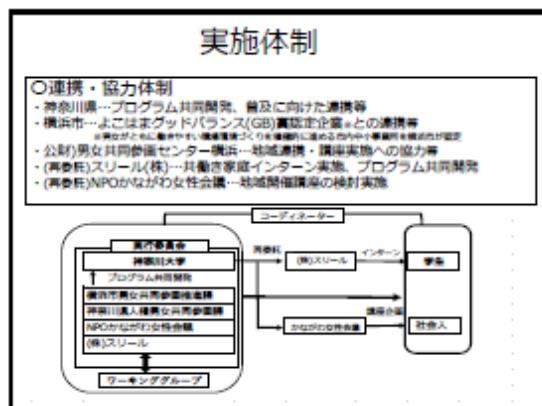
資料 1



1



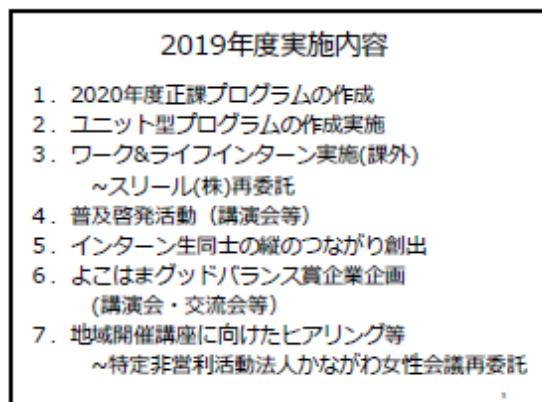
2



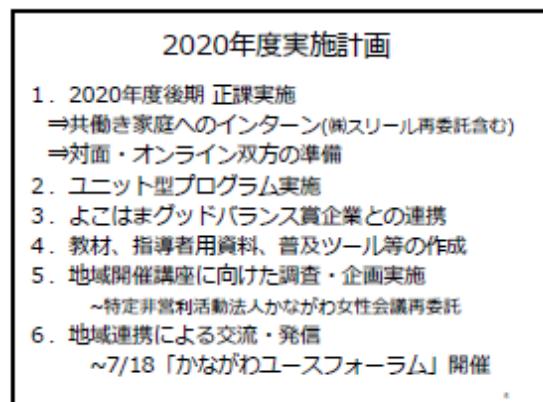
3



4



5



6

1. 2020年度後期共通教養科目 「キャリアデザイン ～ワーク&ライフデザイン教育プログラム」

○2019年度

- ・内容検討、試行、シラバス作成
- ・ワーク・ライフインターンの実施(正課外)

○2020年度前期（ワーキング8回(現地点)実施）

- ・体験含む授業オンライン化の検討、準備
- ・指導案、指導者用資料等作成
- ・教材（人生すごろく）作成（鈴木紀子先生）

7

1. (2) 「キャリアデザイン」講義【目的】

【講義の目的】

1. 現在と将来：生涯発達の視点でライフイベントについて理解したうえでプロセスとしてのキャリアを展望する。また将来を見据えつつ現在をどうえなおすことにより、主体的な大学での学修態度および生涯学び続ける姿勢を身につける。

2. 自己と社会：男女共同参画および多様性を尊重する視点に立ち、身近な地域の課題にも目を向けながら社会・職業への理解を深める。そのうえで自分らしいキャリアを構築するために、主体的に意思決定する力を養う。

3. 理論と体験：講義で得た知識や理論を体験によってより深い自己理解につなげ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を含めて他者や地域・社会と関わる力を養う。

8

1. (3) 「キャリアデザイン」講義【構成】

＜シラバス：半期14回授業の構成＞

授業回	テーマ	授業内容
1	自己理解	ガイドシス：キャリアの基礎、ワーク（自己紹介ワーク等）
2		ワーク（個別割の実習化）、講演に向けたピアリング練習
3		【外部講師講演1】：ロールモデルに学ぶキャリア
4	キャリアとジェンダー	ジェンダーの基礎、ハンセンの4領域（仕事・家族・学習・余暇、嗜好）と結合
5		ライフイベントとジェンダー
6		最初の学習：子どもの特徴、安全確保、子どもとの繋わり
7	共働き家庭での体験	1回向体験（6回終了後再び）
8		1回振り返り：「経験」の視点を実践しながら振り返り
9		2回向体験（8回終了後再び体験）
10		振り返り・課題発見グループディスカッション
11		【外部講師講演2】：多様な働き方
12		講演会振り返り、発表準備
13		発表
14	振り返りと発表	最終まとめ、ワーク（10年後の自分ワーク等）

9

2. 地域交流・連携に向けて 「かながわユースフォーラム2020」

- ・2020年7月18日(土)13:30～16:00 オンライン開催
- ・かながわを中心とするユース（大学生・高校生）による社会参画型交流
- ・主催：かながわユースフォーラム実行委員会
- ・実行委員長：人間科学部教授 斎藤ゆか先生
- ・参加：ボランティアに関心のある若者（大学生・高校生）を中心に約160名
- ・8分科会のうち1つ「ジェンダー」

10

3. 今後の予定

1. 正課プログラム実施(後期)に向け準備(前期)
 - 教材・評価方法の作成・改善
 - 指導者向け資料・普及ツールの作成
2. ユニット型プログラムの実施
 - プログラムの改善、他大学等での試行
3. 地域開催講座に向けて
 - 育児期女性対象調査のまとめ、講座企画

11

4. 連携・ご協力のお願い

- ・プログラム教材・評価・指導者用資料等作成
ワークへの参加・協力のお願い
- ・ユニットプログラム実施（他大学）紹介ご相談
- ・神奈川県・県ライフキャリア教育支援冊子の教材使用、SDG5イベントへの参加
- ・横浜市・授業内講演「ロールモデルに学ぶキャリア」
⇒よこはまグッドバランス賞企業への講師依頼
- ・男女共同参画センター横浜・・地域講座開催に向けた調査・企画ご相談

○第2回実行委員会=令和3年2月頃（予定）

12

13

資料 2

神奈川大学
キャリア・デザイン
ワーク＆ライフ・デザイン教育プログラム
授業について

1

授業について	
単位	2単位
曜日・時限	月曜日 第4限 ※11月9日・23日休講
実習	2回 11月15日(日)・29日(日) 10時~11時40分
授業形態	オンライン

特徴1：アクティブラーニング形式の授業
 特徴2：オンラインでのプレゼンスキル、ヒアリングス
 技力、対話力が身に付く
 特徴3：様々なオンラインツールを使用したワーク

【参加学生像】
 ディスカッションや実習に積極的に参加できる学生

2

授業の3つの目的

- 1 現在と将来**
ライフとワークの側面から
長期的なキャリアを考える
- 2 自己と社会**
男女共同参画・多様性を尊重する視点から社会理解を深めて、
主体的にキャリアを考える
- 3 理論と体験**
知識や理論を体験によって理解を深め
社会と関わる力につける

62

授業構成

- 1-3回 自己理解
- 4-5回 キャリアとジェンダー
- 6-9回 両立家庭での体験（実習）
- 10-14回 振り返りと発表

ライフとキャリアについて統合的に学ぶ

4

授業内容

＜自己理解＞

★キャリア基礎
自分の将来像を描き、
自分のことを発表する

★価値観の言語化
仲間と自分の大切にしている
価値観をあらわします

社会人による
パネルトーク



★社会人によるパネルトーク
仕事の話だけではなく、生活スタイルや育児・
子育てとの両立のお話を聞く

よこはまグッドバランス賞
受賞企業とのコラボ企画



ワークショップ

5

6

実習内容

＜両立家庭での体験＞

★帰宅後のご家庭の様子は？
動画を見て子どものいる生活をイメージ

★両立家庭ヒアリング体験
両立の実態やパートナーシップについてのヒアリング

★子どもとの関わり
親御さん同窓の元子どもとオンラインでお話したり遊んだりしてみる

オンラインで、ご家庭とつなぎます

【ご家庭スケジュール】

17:50	通勤
18:00	保育園お迎え
18:30	帰宅
19:00	ごはん、片付け
19:40	お風呂
20:00	遊び、準備
20:45	寝かしつけ

7

オンラインご家庭両立体験方法

＜講座＞

STEP 1 共働き家庭の「今」のイメージ共有

STEP 2 ご家庭の動画を視聴

STEP 3 感想を言語化

共働き家庭のイメージを事前に具体化

8

オンラインご家庭両立体験方法

＜ご家庭実習＞

1回目 ご家庭へのヒアリング

座学 振り返り 子どもの関わり講座

2回目 お子さんとオンラインコミュニケーション

共働き家庭や子どもとの関わりでリアルを知る

9

振り返りと発表

得た学び・体験から、自分の10年後の姿を描き
理想に向けて自分なりにできることを発表する

10

他大学への波及

両立体験のショートプログラム実施のお願い
仕事と育児の両立体験ミニワーク

★両立家庭のイメージは？
・ワーク＆ライフとキャリアデザイン
・現在のイメージ共有・具体化

★両立家庭の
帰宅後ご家庭の様子は？
・動画を見て子どものいる生活をイメージ
・両立家庭のイメージや感想をシェア

オンライン実施 講座時間 60～80分程度

11

学生自身の
ワーク＆ライフを
自分の力で
デザインする力を
一緒に身につける場に

12

資料 3

<p>2020年度第一回実行委員会</p> <p>神大ワーク＆ライフデザイン 教育プログラム</p> <p>～地域連携による男女共同参画推進を 見据えたキャリア教育</p> <p>特定非営利活動法人 かながわ女性会議</p> 	<p>Contents</p>  <ol style="list-style-type: none">1, 女性会議の役割の確認2, 2019年度再委託事業報告3, 2020年度再委託事業計画4, 今後にむけて
<p>1、本事業におけるかながわ女性会議の役割</p> <p>地域開催講座の検討・実施</p> <ol style="list-style-type: none">1) 具体的な講座の内容の検討 神奈川県内の女性労働に関する調査・研究 M字カーブと女性のニーズに関する調査 他の類似の講座の調査2) 具体的な講座開催のための検討 時期・方法・場所など3) 講座の開催 	<p>2、2019年度報告 1</p> <p>地域開催講座向けた調査と検討</p>  <p>○成果 多様な地域のニーズを踏まえた上で、講座を構成し、実施するための検討をおこなった。多様なニーズ理解するために、M字カーブ探索的調査の実施を企画・運営した。地域講座について、内容及び実現可能性に関する検討を行った。神奈川県男女共同センター・フォーラム横浜などとも共同し、企画・運営の可能性を探った。内容に関しても、いくつかのパターンその結果も踏まえ、来年度の実施に関しては、十分な実現可能性があると考へている。内容的な検討だけではなく、どういう場で、どういう参加者を想定して実施するか、またその実施可能性も含めて、検討した。</p> <p>2019年度事業報告書より</p>
<p>2, 2019年度報告 2</p> <p>○地域開催講座の検討について： WG(ワーキング・グループ)の開催 但し、コロナ禍の影響で、未実施の部分を残す。</p> <p>○M字カーブに関する探索的調査 日本の大企業の労働環境は、年齢、性別、出産をこなす女性に一概に下り、育児が落ち着いた時期に再び上昇するところである。M字カーブの底にいる女性にヒヤリックを行い、その原因を調査することを目的とした今年度は探索的調査を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 打ち合わせ2) 調査項目の検討・確定3) 調査先の取り込み・依頼・調整4) 調査の実施 成蹊大学法学部助教 棚橋典子 かながわ女性会議理事長 吉田洋子5) 結果の検討・分析 	<p>3、2020年度事業計画 1</p>  <ol style="list-style-type: none">1) 2019年度の補充的調査2) 地域開催講座の実施に向けた検討3) 地域開催講座の実施、今後に向けて
<p>3, 2020年度事業計画 2</p> <p>1) 2019年度の補充的調査</p> <p>当初の予定であった本調査は予算の減額などの理由により非実施。 2019年度の探索的調査の補充調査の実施と分析。 ニーズを抱えた人だけではなく、支援団体なども調査を実施。</p> <p>実施時期 8月</p> <p>※コロナ禍による制約は依然残っているが、逆にテレビ会議システムであるからこそ調査に応じてくださる方もおり、新しい可能性についても、探求したい。</p> <p>※インタビューが、コロナ禍の中とじこもりがちな方たちの生活に風穴をあけるものになるように、工夫したい。</p> 	<p>3, 2020年度事業計画 3</p>  <ol style="list-style-type: none">2) 地域開催講座の実施に向けた検討<ol style="list-style-type: none">① 2019年度にコロナ禍の影響で実施できなかった打ち合わせの実施・検討 (公財 フォーラム横浜、かなテラス、地域の子育てサークルなど) 実施時期 7月・8月② 内容の検討 女性会議の理事や会員との協議 研究者や実務家との協議③ 実施の方法の検討 コロナの状況を注視しつつ、検討 三拠点型の講座開催の可能性

3, 2020年度事業計画 4

3) 地域開催講座の実施に向けて

検討中の計画

時期 11月・12月のはじめ

対象者 M字カーブの底に位置する方たち

30人程度

実施方法 Zoom会議システム

三拠点方式

実施場所 検討中

託児 検討中

コロナ対策 ガイドラインの策定

神奈川県提供のアプリの導入(参加者へ)

課題 機材の調達、検温器などの確保



3, 2020年度事業計画 5

4) 今後に向けて

①大学生との交流の可能性

リアル・サイバーの両面で・・・

今年度の講座でも、テクニカルサポートなどを通じて、
参加の可能性

②地域の公民館などへの出講や教材の提供
の可能性



ご協力をよろしくおねがいします



資料4, 5は別掲のため掲載略

(3)令和2年度 第2回実行委員会 記録

日時：令和3年2月15日（月）13:00～14:30

場所：オンライン（Zoom）による開催

出席者：15名（詳細次頁）

議事概要：

1. 挨拶、出席紹介

神奈川大学ダイバーシティ担当副学長 山口和夫教授よりご挨拶、および出席者より自己紹介があつた。

2. 令和2年度事業の報告 資料1

神奈川大学 萩野教授より、令和元年度、2年度事業の報告があつた。今年度は新型コロナウィルス感染拡大の影響があり、今年度プログラムをオンラインで実施する等の変更が生じたが基本的に計画どおり終了した旨説明があつた。

3. 令和2年度再委託事業の報告

(1) スリール株式会社 資料2

(2) かながわ女性会議 資料3

各再委託事業に関し令和2年度事業の報告があつた。

4. 報告・意見交換等

【主な意見交換】

- ・今後のプログラム普及を目指し、その方法等に助言を頂きたい。
- ・大学の授業か講座かにより大学内でも扱う部署等が異なり、発信の仕方が異なるなど難しい点もある。今回の取組をグッドプラクティスとして広めていくことが出来るのではないか。
- ・大学の授業でも、この種のプログラムは教養科目として設置するところが多いが、本プログラムは専門科目を深める効果もあることが感じた。
- ・ユニット型プログラムを洗練させ、今後の普及を目指すとよいのではないか。その際も映像やゲスト講師などを工夫し、体験的、交流的な学びを含めることが大切。
- ・横浜市でも、市内の大学において企業の部長級の方々が登壇するキャリア教育プログラムを行っている。参考にしてもらえると思う。
- ・神奈川県では、今年度予定していた「SDGs アクションフェスティバル」が、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により開催形態を変更したため、本事業の参加がかなわなかつた。また県ではライフキャリア教育事業を展開しているが、大学から始まり高校、中学と若年層に向けて広げている。
- ・地域開催講座では、学生と社会人がリラックスしながら対等な関係で交流でき、それは社会人の学びにつながっていることを実感できた。
- ・今回の地域開催講座は、地域の育児期女性はじめ社会人が大学での学び直しを志向する契機としての意義もあったのではないか。

【資料】

資料1. 「神大ワーク＆ライフデザイン教育プログラム」事業報告

資料2. 「キャリアデザイン～ワーク＆ライフデザイン教育プログラム」授業実施報告

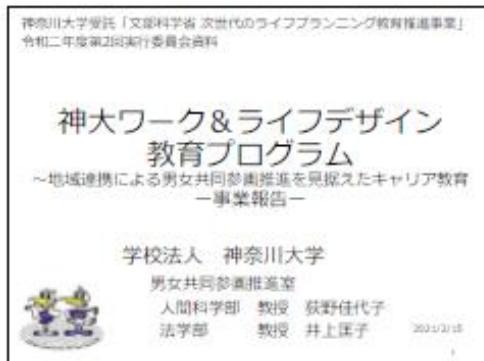
資料3. 地域開催講座等報告

令和2年度 第2回実行委員会出席者名簿

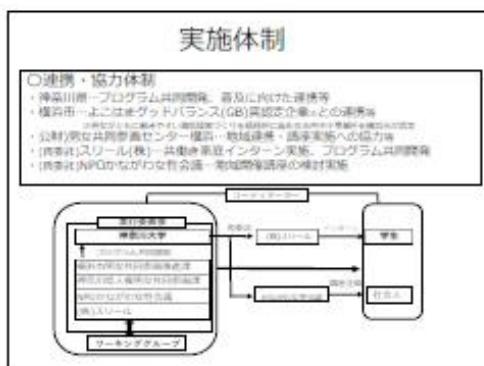
		所属・役職等	氏名	
実行委員	神奈川大学副学長	山口 和夫	出席	
	帝京平成大学大学院臨床心理学研究科 教授	馬場 洋介	欠席	
	神奈川県福祉子ども未来局人権男女共同参画課 課長	山田 ふみ子	欠席	
	横浜市政策局男女共同参画推進課 課長	大友 喜一郎	出席	
	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 事業本部長	菊池 朋子	出席	
	特定非営利活動法人かながわ女性会議 理事長	吉田 洋子	欠席	
	スリール株式会社 代表取締役	堀江 敦子	出席	
	神奈川大学人間科学部 教授(学長補佐)	吉澤 達也	欠席	
	神奈川大学法学部 教授	井上 匠子	出席	
実行委員・専門アドバイザー	神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課 グループリーダー	新井 香苗	出席	
	神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課 主事	田村 陽平	出席	
ワーキングメンバー	新潟大学教育・学生支援機構コモンリテラシーセンター特任准教授	島 亜紀	出席	
	スリール株式会社	喜多村 佳美	出席	
事務局	神奈川大学学長室	野田 真	出席	
	神奈川大学学長室	吉田 有希	出席	
	神奈川大学男女共同参画推進室	細井 佳代	出席	

(敬称略順不同)

資料 1



「神大ワーク＆ライフデザイン教育プログラム」	
○令和元・2年度事業	
・事業趣旨	若者が男女共同参画の視点に立って、自らの将来の職業や好きなライフイベントに社会において果たす役割等を含めたライフキャリアについて考える機会を充実させる教育プログラムを開発
目的1.	大学生向けキャリア教育プログラム開発
	・「体験プログラム」を組み込んだ半期授業、ユニット（汎用）型プログラムの開発
	・本学正課への導入をめざす
	・内容：以下の3点を特徴とする ①男女共修、②長期的視点でのキャリア展望、③地域連携
目的2.	「男女共同参画」における地域連携モデル ・「ワーク・ライフ」両面における地域連携・交流のしくみづくり



2019年度実施内容	
【期間：令和元年9/4～令和2年3/15】	
1.	会議等
2.	2020年度正課プログラムの作成・試行
3.	ユニット型プログラムの作成・実施
4.	ワーク＆ライフインターン実施(課外) ～スリール(株)再委託
5.	普及啓発活動（講演会等）
6.	インターン生同士の懇のつながり創出
7.	よこはまグッドバランス賞企業企画(講演会,交流会)
8.	地域開催講座に向けたヒアリング等 ～特定非営利活動法人かながわ女性会議再委託

2019年度実施:1	
1.	会議等
○	2019/9/5 第1回実行委員会
・	2019/12/12 文科省女性政策調整官毛利るみこ氏視察
○	2020/2/19 第2回実行委員会
○	WG会議（計18回）実施
2.	2020年後期正課プログラムの作成・試行
①	法学・政治学の観点からの検討
②	心理学の観点からの検討
③	ワーク・ライフ・インターンの実施(正課外)
=>	授業等で試行のうえ1つのプログラムとして統合

2019年度実施:2	
3.	ユニット型プログラムの作成・実施
(1)	「自己理解プログラム」
(2)	「ジェンダー/セクシュアリティとキャリアデザインプログラム」
(3)	「家庭内ジェンダー関係に焦点をあてたキャリアデザインプログラム」
(4)	「学部内キャリア教育に向けたプログラム」
4.	ワーク＆ライフ・インターン（スリール株再委託）
・	正課外プログラム、2019年10～12月全9日程
・	2回の共働き家庭での体験を含む

<p>2019年度実施:3</p> <p>5. 普及啓発活動(講演会等)</p> <p>10/1講演会:「先輩に学ぶ将来の描き方 ～ワーク＆ライフ・インターんから学んだこと」</p> <p>10/15講演会:堀江敦子氏 「これからのキャリアに向けて ～男女共同参画社会のその先へ」</p> <p>11/25:学術交流協定校教職員プログラム (14か国18大学から参加)における発表</p> <p>6. インターン生同士の縦のつながり創出</p> <p>11/2:神大フェスタ(学園祭) 「『先輩から学ぶ』交流会」</p>	<p>2019年度実施:4</p> <p>7. よこはまグッドバランス賞企業連携企画</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10/23講演会:住電オフコム㈱ 「ライフステージに応じた働き方」 • 10/29講演会:㈱ダッドウェイ 「男女が共に働きやすく子育てしやすい職場とは」 • 12/12「よこはまグッドバランス賞認定企業交流会」における学生の発表 <p>8. 地域開催講座に向けたヒアリング等</p> <ul style="list-style-type: none"> ～特定非営利活動法人かながわ女性会議再委託 ・地域開催講座の検討 ・M字カーブ探索的調査の実施
---	---

<p>2020年度実施内容</p> <p>1期間:令和2年5/21～令和3年3/15</p> <p>1. 会議等</p> <p>2. 2020年度後期 正課実施(オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒共働き家庭へのインターん(スリール再委託含む) <p>3. ユニット型プログラム実施</p> <p>4. よこはまグッドバランス賞企業との連携</p> <p>5. 教材、指導者用資料、普及ツール等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> →神奈川県ライフキャリア教育支援冊子の使用 <p>6. 地域開催講座に向けた調査・企画実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ～特定非営利活動法人かながわ女性会議再委託 <p>7. 地域連携による交流・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ～7/18「かながわユースフォーラム」オンライン開催 	<p>2020年度実施報告</p> <p>1. 会議等</p> <p>□7/29 第1回実行委員会(出席者17名)オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/21 文科省高野氏・平島氏・伊勢氏視察 <p>□2021/2/15 第2回実行委員会</p> <p>○WG会議(計35回)実施</p> <p>2. 前期:後期正課プログラム実施に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験会の授業オンライン化の検討・準備 ・指導案、指導者用資料、教材等作成 ・9/4 痛み説明会実施(オンライン) <p>□7/21オンライン講演会:堀江敦子氏(スリール(株)) 「なりたい自分に近づこう～自分らしいワーク＆ライフスタイル」</p>
---	---

<p>2. 後期授業「キャリアデザイン」概要</p> <p>○10月5日～半期12回+課題2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な内容:①自己理解、②キャリアとジェンダー、③共働き家庭での体験、④振り返りと発表 <p>○オンラインで実施(講演、家庭実習含む全回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング ～ワークショップ・グループワーク・対話 ・家庭実習 ～事前講義で両立家庭をイメージする講座 ～両立家庭でのヒアリング、子どもとの共通体験 <p>※オンライン化で得られること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭実習:同時に複数の家庭との交流が可能 ・様々なオンラインツールの使用 ・オンラインでのプレゼンスキル、ヒアリング力、対話力の向上 	<p>3. ユニット型プログラムの実施</p> <p>○対面での実施</p> <p>【帝京平成大学 11月10日(火)】 【相模原総合高校 12月18日(金)】</p> <p>○遠隔での実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目ジェンダーと法 3回プログラム 【成城大学法学院 5月21日、5月28日、7月23日】 【神奈川大学法学院 5月18日、5月25日、7月27日】 ・本学共通教養科目公共のあたらしい形をもとめて 2限100人 3回・4回プログラム 【初期:5月18日、5月28日、7月27日】 【後期:10月5日、10月12日、12月14日、12月21日】 ・本学共通教養科目公共のあたらしい形をもとめて 4限30人 4回プログラム 【初期5月18日前半、5月11日後半、5月25日、7月20日、27日】
--	---

4. よこはまグッドバランス賞企業との連携

10/19授業内(講演会)にて講師招聘

株式会社DADWAY
ダイレクトマーケティング事業部
イーコマースグループ
鶴谷佳代様



授業内にて社会人口ルールモデルとして登壇いただき、
学生より活発な質問が寄せられた。

5. 教材、指導者用資料、普及ツール等の作成



神奈川県ライフキャリア教育支援冊子「MEET ME BOOK」を使用した
オンラインマント教科(ロールモデルに学ぶ)含む

2~5. プログラム実施～成果と課題

○成果：正課・オンライン授業として、アクティブラーニングによる
「男女共同参画の視点によるキャリア」プログラムの体系化

○学生の学び：

- ・男女共同参画への理解、アンコンシャスバイアスへの気づき、
- ・将来におけるの立場の把握、両立的な目標設定
- ・視野の広がり—柔軟な思考・長期的な展望
- ・人の個性の大切さへの気づき
- ・特徴：学び・反応の多様性

○課題：

- ・内部：共働き家庭中心より多様な家族のあり方への理解
- ・ねらい：個人の意識変容→地域・環境（制度）への働きかけの視点
- ・評価の体系化
- ・オンライン：対話的な学びがなされた一方、実践での体験のあり方、
学生のグループ（協力関係）の育成にはさらなる検討の余地

6. 地域開催講座に向けた調査・企画実施

～特定非営利活動法人かながわ女性会議再委託事業

○M字カーブの底、
インタビュー調査

○12/8(火)オンライン開催
「小さな子どもを持つ女性が
いきいきと生活するために」

- ・男女共同参画センター横浜、
かなてラス、かなーちえ
- 3拠点をつないでの開催
世代を超えての意見交換



7. 地域連携・交流の場

～かながわユースフォーラム2020

○7/18(土) オンライン開催

・かながわを中心とする
ユース（大学生・高校生）
による社会参画型交流イベ
ント

・主催：かながわユース
フォーラム実行委員会
・実行委員長：人間科学部
教授 齋藤ゆか先生

○参加者141名

○6分科会のうち1つ
「ジェンダー」



プログラム成果と課題

1. 大学向け男女共同参画の視点によるライフキャリア
教育プログラムの開発

- ・成果：正課・ユニット型／アクティブラーニング
／対面・オンライン型 プログラムの体系化
- ・今後に向けて：
 - ・対面・オンラインそれぞれの良さを活かしたプログラム
 - ・大学での導入・位置づけの検討
 - ・普及に向けて、より受講者に添った内容へのカスタマイズ

2. 男女共同参画における地域連携モデル

- ・成果：学生が地域と関わる、多様な（異世代等）交流・学びの場
：男女共同参画社会に向けた地域課題への理解
(M字カーブ、多様な性の理解等)
- ・今後に向けて：学生と地域をつなぐコーディネート、
サポートの重要性

御礼と今後に向けて

○2年間の事業期間、皆様にはさまざまな連携・ご協力を頂きながら遂行できたことも一つの成果と考えております。

○事業は今年度で終了いたしますが、今後も普及に向けて努力していきたいと思います。

- ・プログラム紹介の機会（講演会・交流会等）
- ・ユニット型プログラムの実施（他大学・地域講座等）
ほか

○今後も機会がありましたらご相談ご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

事業を終えるにあたり、皆様には多大なるご協力を頂きましたことを心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。



資料 2

【2020年度共通教養科目】
キャリアデザイン(2020入)
公共の新しいかたちを求めて1(～2019入)
～神大ワーク＆ライフ・デザイン教育プログラム～

2月15日 委員会報告資料

Sourire

ワーク＆ライフ・デザイン教育プログラム【目的】 Sourire

【講義の目的】

1. 現在と将来

生涯発達の視点でライフイベントについて理解したうえでプロセスとしてのキャリアを展望する。また将来を見据えつつ現在をとらえなおすことにより、主体的な大学での学修態度および生涯学び続ける姿勢を身につける。

2. 自己と社会

男女共同参画および多様性を尊重する視点にたち、身近な領域の課題にも目を向けながら社会・職業への理解を深める。そのうえで自分らしいキャリアを構築するためには、主体的に意思決定する力を養う。

3. 理論と体験

講義で得た知識や理論を体験によってより深い自己理解につなげ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を含めて他者や地域・社会と関わる力を養う。

ワーク＆ライフ・デザイン教育プログラム【構成】 Sourire

＜シラバス：半期1・2回授業の構成＞

授業回	日程	テーマ	授業内容
1	2月4日㈭	自己理解	ワークシート「自己理解の自分ワーク書」 ワーク「自己理解の実践」、講義「自分らしいキャリアの視点」
2	2月11日㈭		「自己理解の実践」、ワークシート「自己理解の自分ワーク書」
3	2月18日㈭		「自己理解の実践」、ワークシート「自己理解の自分ワーク書」
4	2月25日㈭	キャリアデザイン	ワークシート「キャリアデザイン」 ワーク「キャリアデザイン」、講義「自己理解、自己実現、自己実現」
5	3月4日㈮		「自己理解」、ワークシート「キャリアデザイン」 「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
6	3月11日㈮		「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
7	3月18日㈮	実施予定での授業	「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
8	3月25日㈮		「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
9	4月1日㈫		「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
10	4月8日㈫	就労リート実務	「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
11	4月15日㈫		「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」
12	4月22日㈫		「自己実現」、ワークシート「キャリアデザイン」

授業のご紹介 Sourire

自己理解 10月5日・12日

【キャリア概論】
—共働きの歴史
—キャリアとは
【目標設定】
—10年後の
「なりたい姿」ワーク



現在の両立家庭を取り巻く事柄の背景
キャリアのあり方を考えた

振り返り Sourire

自己理解 10月19日

【社会人ゲストトーク】
—多様な生き方を知る
—鶴谷さん、豊田さん、中村さん



子育てに対する男女の意識や「働く」柔軟さ
就職するにあたっての意識の変化

振り返り Sourire

キャリア＆ジェンダー 10月26日

【ジェンダーとキャリアデザイン】
—ジェンダーVSセックスから性の四相へ
—LGBTQへの配慮からSOGIの視点へ
—多様性の持続のみでいいのか？



ジェンダー・キャリア・ライフイベントの関係性
を講義とすころくで実態感を持って学んだ

振り返り

Sour ire

キャリア&ジェンダー

11月12日

[ジェンダーとキャリアデザイン]
一ハンセンの4領域（仕事・家族・学習・余暇、地域）と統合

男女共同参画の視点から固定概念やキャリアについて考え、長期的な視点で捉えた

振り返り

Sour ire

両立家庭での体験

11月9日・15日・16日・29日

一両立家庭イメージ&ヒアリング
一共通体験プラン&実施

両立しているご家庭とオンラインで繋がった

振り返り

Sour ire

**最終
プレゼンテーション**

12月14日・21日

プレゼンテーション

ブレイクアウトルームでディスカッション

授業前後の意識変化

Sour ire

社会人になることが楽しみだ

● とてもそう思う
● そう思う
● そう思わない
● 全くそう思わない

13.4pt UP

肯定回答：66.6% → 肯定回答：80%

社会人になる上で、イメージがある学生が半数

授業前後の意識変化

Sour ire

仕事を続けながら子どもを育てたい
という意欲がある

● とてもそう思う
● そう思う
● そう思わない
● 全くそう思わない

13.3pt UP

肯定回答：66.7% → 肯定回答：80.0%

受講後、子育てに対して自信が出ている

授業前後の意識変化

Sour ire

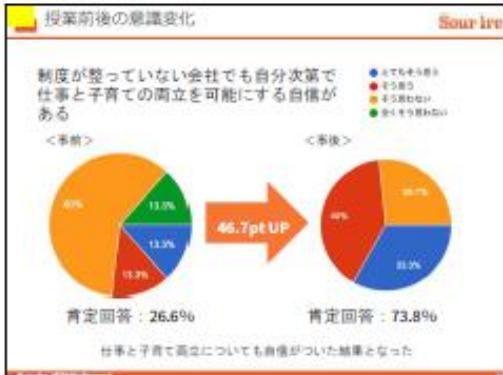
将来の子育てに対して、悩みながらも
こなしていく自信がある

● とてもそう思う
● そう思う
● そう思わない
● 全くそう思わない

13.3pt UP

肯定回答：66.7% → 肯定回答：80.0%

受講後、子育てに対して自信が出ている



2020年度第二回実行委員会

神大ワーク＆ライフデザイン 教育プログラム

～地域連携による男女共同参画推進を
見据えたキャリア教育

特定非営利活動法人
かながわ女性会議





Contents

1. 女性会議の役割の確認
2. 2019年度再委託事業報告
3. 2020年度再委託事業報告
 - 1) M字カーブ調査
 - 2) 地域開催講座の実施
3. 今後にむけて

1. 本事業におけるかながわ女性会議の役割

○地域開催講座の検討・実施

- 1) 具体的な講座の内容の検討
神奈川県内の女性労働に関する調査・研究
M字カーブと女性のニーズに関する調査
- 2) 具体的な講座開催のための検討
時期・方法・場所など
- 3) 講座の開催と今後への展開



2. 2019年度報告 1

地域開催講座向けた調査と検討

○成果

多様な地域のニーズを踏まえた上で、講座を構成し、実施するための検討をおこなった。多様なニーズ理解するために、M字カーブ実証的調査の実施を企画・運営した。 地域講座について、内容及び実現可能性に関する検討を行った。神奈川県男女共同センター・フォーラム横浜などとも共同し、企画・運営の可実性を探った。内容に關しても、いくつかのパターンその結果も踏まえ、来年度の実施に關しては、十分の実現可能性があると考へている。 内容的な検討だけではなく、どういう場で、どういう参加者を想定して実施するか、またその実施可能性も含めて、検討した。

2019年度審議報告書より



2. 2019年度報告 2

○地域開催講座の検討について：
WG(リーディング・グループ)の開催
①L、コロナ禍の影響、実施地の部分を踏まえ。

○M字カーブに関する検討的調査
日本の女性労働者、特に就労希望者に大きな影響に一因を丁寧に実況が落ち着いた時期に再び上昇するという、これまでの実証的調査では、M字カーブの傾向が見えていた。
M字カーブは、多くの場合M字カーブの傾向が見えていたときに、女性労働者の労働条件を改善するための政策を実施する場合を想定して作成した。

- 1) M字カーブ
- 2) 調査調査の検討・確定
- 3) 対象者の抽出・依頼・講座
- 4) 調査の実施
成蹊大学准教授の 健太郎子
かながわ女性会議事務局・実行委員会
- 5) 新規の検討・分析



3. 2020年度
事業報告

- 1) M字カーブ調査と分析
- 2) 地域開催講座の実施に向けた検討
- 3) 地域開催講座の実施
- 4) 今後に向けて



3. 2020年度事業報告 2

1) M字カープ調査

(1) 調査概要

M字カープ調査は2020年9月～10月に実施。

調査地対象：合計10名（子育て中の女性）

なお、2019年3月に4名に予備調査を実施した。

1名あたり1時間～一時間半程度。

調査体制：二名で実施

なお、予備調査は対面で実施、本調査は新型コロナウィルス感染症対策としてZoomを介して実施した。



(2) 対面調査

本調査は、半構造化インタビューで実施した。
主となる対面調査者は以下の通り。

・家族構成

・子ども開通の状況（子どもの人数、年齢、保育園など）

・換紙前後における働き方の変化の有無

・変化があった場合はその経緯

・出席前後における働き方の変化の有無

・変化があった場合はその経緯

・面面のサポート・環境について（実家・養育家、行政、友達、地域活動など）

・現在の就労状況について

・就労希望の有無とその理由について

・子育て家庭中に感じていること

・地域活動との繋がりについて

(3) 今回のインタビュー調査から見えてきた傾向

- ①増幅とキャリアとの関連
- ②出席とキャリアとの関連
- ③パートナーの在り方が女性のキャリアに及ぼす影響
- ④実家との関係
- ⑤親世帯（実家親）の就労状況の影響
- ⑥地域活動へのかかわり

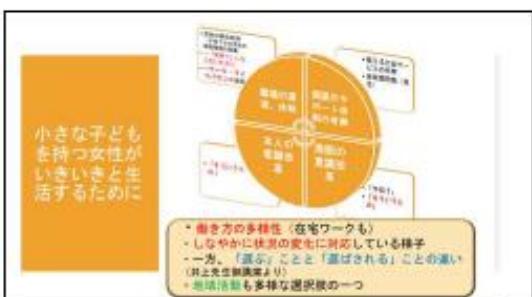
詳細は、2021年度報告書にて・・・

職場の環境、体制

面面のサポート体制の有無

本人の意識

周囲の意識



3. 地域開催講座の検討と実施

2) 地域開催講座の実施に向けた検討

① 内容の検討

女性会議の運営や会員との協議、

研究者や実務者との協議

② 実施の方法の検討

コロナの状況を考慮しつつ、検討

三点点型・遠隔（オンライン・オンライン）参加の講座開催の可能性

（ハイフレックス型）

③ 打ち合わせの実施・検討

テクニカルな検討、

（会員フォーラム検討、かなクラス、かなーも大）

3) 地域開催講座の実施

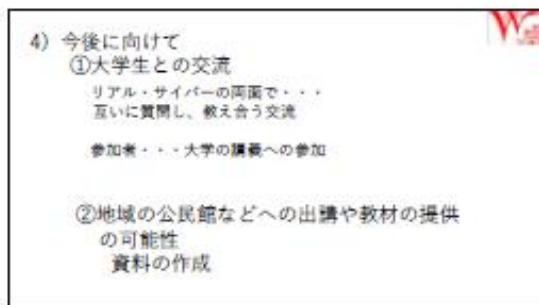
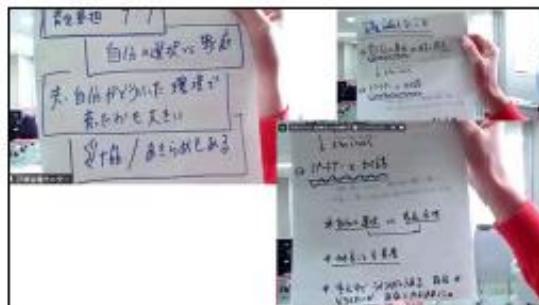
主催：神奈弁育利活動法人かながわ女性会議
 共催：神奈川大学男女共同参画推進室・男女共同参画センター横浜
 後援：かなテラス（神奈川県立かながわ男女共同参画センター）・
 かなーちえ（神奈川区地域子育て支援拠点）

内容
 基調講演「M字カーブを取り巻く福開拓」井上里子（神奈川大学法学部教授）
 題名：「子育て女性へのインタビューの報告」横場香子（成蹊大学法学部助教）
 グループワーク「子育て中だからこそ、今考えるこれからの生き方」
 コーディネーター
 かなテラス：手嶋明美（認定NPO法人藤沢市民活動推進機構理事長）
 女性共同参画センター横浜：森嶋美子（NPO法人こまちぶらす理事長）
 かなーちえ：原原泉（神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ・施設長）

参加者数

リアル会場参加者
 かなテラス 14名
 男女共同参画センター横浜 10名
 かなーちえ 6名
 および親子の広場参加者
 遠隔オンライン参加者
 16名
 遠隔ondeマンド参加者
 108名





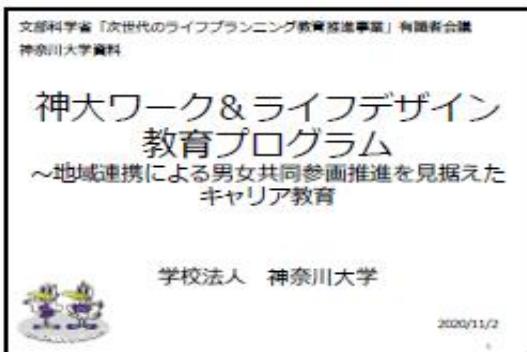
(4) 文部科学省令和2年度次世代のライフプランニング教育の推進に関する有識者会議における中間報告

日時：令和2年11月2日（月）10:00～12:00

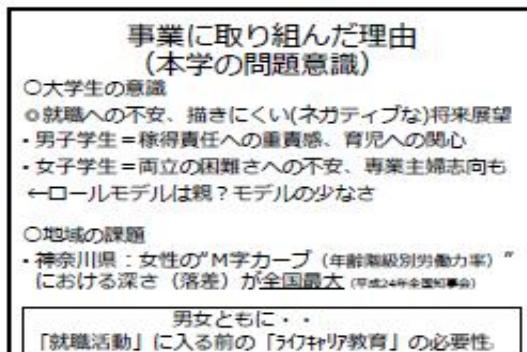
場所：オンラインによる開催

本学出席者：井上匡子（法学部教授）、荻野佳代子（人間科学部教授）、喜多村佳美（スリール（株））

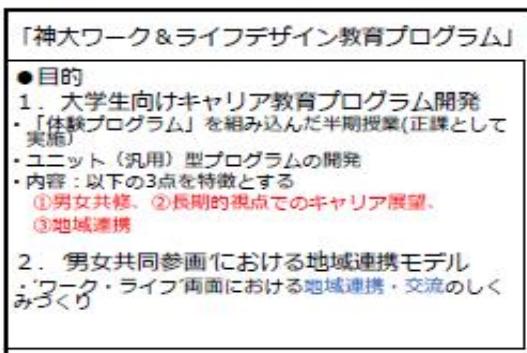
資料



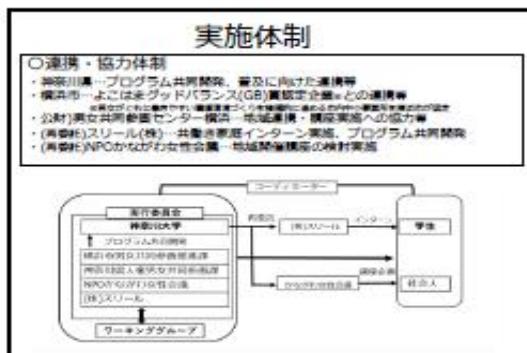
1



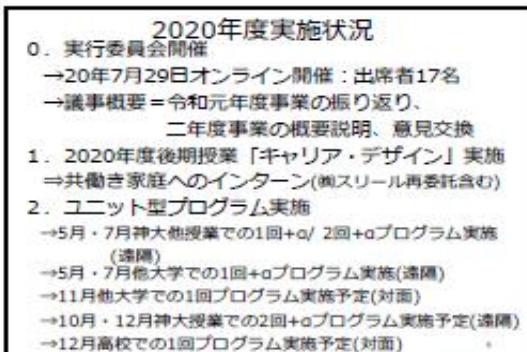
2



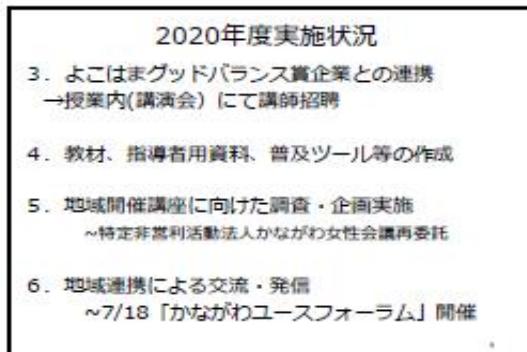
3



4



5



6

1. 2020年度後期共通教養科目 「キャリアデザイン ～ワーク&ライフデザイン教育プログラム」	
○2019年度 <ul style="list-style-type: none"> ・内容検討、試行、シラバス作成 ・ワーク・ライフインターンの実施(正課外) 	
○2020年度前期 (ワーキングによる検討) <ul style="list-style-type: none"> ・体験含む授業オンライン化の検討、準備 ・指導案、指導者用資料等作成 ・教材(人生すごろく)作成 	
○2020年度後期 実施 <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの実施。登録者26名 	

7

1. (2) 「キャリアデザイン」講義【目的】	
【講義の目的】	
1. 現在と将来 ：生涯発達の視点でライフイベントについて理解したうえでプロセスとしてのキャリアを展望する。また将来を見据えつつ現在をとらえなおすことにより、主体的な大学での学修態度および生涯学び続ける姿勢を身につける。	
2. 自己と社会 ：男女共同参画および多様性を尊重する視点にたち、身近な地域の課題に目を向けながら社会・職業への理解を深める。そのうえで自分らしいキャリアを構築するために、主体的に意思決定する力を養う。	
3. 理論と体験 ：講義で得た知識や理論を体験によってより深い自己理解につなげ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を含めて他者や地域・社会と関わる力を養う。	

8

1. (3) 「キャリアデザイン」講義【構成】																											
<シラバス：半期1・2回授業の構成>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業テーマ</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 キャリアの基礎</td> <td>カーブス：キャリアの基礎、ワーク（10年後の自分ワーク等）</td> </tr> <tr> <td>2 自己理解</td> <td>ワーク（自己理解の実践化）：講義に向けたヒアリング練習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【外相談相談会】：ロールモデルに学ぶキャリア</td> </tr> <tr> <td>4 キャリアとジョブ</td> <td>ウェンダーの基礎、ライフイベントとジョブセンター</td> </tr> <tr> <td>5 ジョブ</td> <td>パンセイの基礎（仕事・実習・学習・実習・実習）と就向</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>就向予習：子どもの発達・安全確保・子どもとの暮らし</td> </tr> <tr> <td>7 お書き参考での体験</td> <td>1回回り振り返り：「就向」の実践を実践しながら振り返り</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>く機会：実験心配の方</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2回回り振り返り</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>振り返り：就向何がグループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>く機会：実際準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>振り返り：就向まとめ、ワーク（10年後の自分ワーク等）</td> </tr> </tbody> </table>		授業テーマ	授業内容	1 キャリアの基礎	カーブス：キャリアの基礎、ワーク（10年後の自分ワーク等）	2 自己理解	ワーク（自己理解の実践化）：講義に向けたヒアリング練習	3	【外相談相談会】：ロールモデルに学ぶキャリア	4 キャリアとジョブ	ウェンダーの基礎、ライフイベントとジョブセンター	5 ジョブ	パンセイの基礎（仕事・実習・学習・実習・実習）と就向	6	就向予習：子どもの発達・安全確保・子どもとの暮らし	7 お書き参考での体験	1回回り振り返り：「就向」の実践を実践しながら振り返り	8	く機会：実験心配の方	9	2回回り振り返り	10	振り返り：就向何がグループディスカッション	11	く機会：実際準備	12	振り返り：就向まとめ、ワーク（10年後の自分ワーク等）
授業テーマ	授業内容																										
1 キャリアの基礎	カーブス：キャリアの基礎、ワーク（10年後の自分ワーク等）																										
2 自己理解	ワーク（自己理解の実践化）：講義に向けたヒアリング練習																										
3	【外相談相談会】：ロールモデルに学ぶキャリア																										
4 キャリアとジョブ	ウェンダーの基礎、ライフイベントとジョブセンター																										
5 ジョブ	パンセイの基礎（仕事・実習・学習・実習・実習）と就向																										
6	就向予習：子どもの発達・安全確保・子どもとの暮らし																										
7 お書き参考での体験	1回回り振り返り：「就向」の実践を実践しながら振り返り																										
8	く機会：実験心配の方																										
9	2回回り振り返り																										
10	振り返り：就向何がグループディスカッション																										
11	く機会：実際準備																										
12	振り返り：就向まとめ、ワーク（10年後の自分ワーク等）																										

9

1. (4) 「キャリアデザイン」講義【変更点】	
コロナウィルス 感染拡大抑制の観点より、大学方針を踏まえ、以下を変更した。	
1. 全講座、講演、家庭実習のオンライン化	
→ワークショップやグループワーク・対話をオンラインで実施	
2. 家庭実習オンライン化に伴うプログラムの変更	
→事前講義で両立家庭をイメージ化する講座実施	
→両立家庭でのヒアリング	
→子どもとの関わりのプランニング	
→オンラインシッター実施（子どもと共通体験）	
3. オンライン化に伴い得られること	
→オンラインでのアクティブラーニングの実施	
→オンラインでのプレゼンスキル、ヒアリング力、対話力	
→様々なオンラインツールの使用	

10

2. ユニット型プログラムの実施 1	
プログラム実施予定(対面)	
【平成帝京大学 11月10日（火）】	
(実施内容)	
-キャリア相談 -両立家庭のイメージ -10年後の姿を描く（4Lキャリアの統合）	
【相模原総合高校 12月18日（金）】	
(実施内容)	
-ライフイベントとジェンダー／・キャリアデザイン相談 -アンコンシャス・バイアスの発見 -10年後の姿（4Lキャリア）	
【神奈川大学 10月5日・12月14日・21日(月)】	
(実施内容)	
-ライフイベントとジェンダー・キャリアデザイン相談 -アンコンシャス・バイアスの発見 -10年後の姿(他の人のライフとの比較の中で4Lキャリア)	

11

2. ユニット型プログラムの実施 2	
既家庭	
【成城大学法医学部講義 5月14日・9日(木)】	
遠隔、受講者78名	
【神奈川大学講義1・2 5月11日・27日(月)】	
遠隔、1・・受講者174名、2・・30名	
(実施内容) 1回+a	
-キャリアデザイン相談／・ライフイベントとジェンダー -アンコンシャス・バイアスの発見 -10年後の姿(4Lキャリア)の描画	
【神奈川大学講義3 5月11日・7月13日27日(月)】	
遠隔、受講者100名 2回+a	
(実施内容)	
-他のキャリアから学ぶ／・キャリアデザイン相談 -アンコンシャス・バイアスの発見／・10年後の姿(4Lキャリア)の描画	

12

3. よこはまグッドバランス賞企業との連携

授業内(講演会)にて講師招聘

株式会社DADWAY
ダイレクトマーケティング事業部
イーコマースグループ
脇谷佳代様



授業内にて社会人モデルとして登壇いただき、
学生より活発な質問が寄せられた。

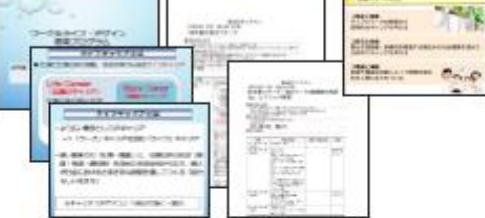
13

4. 教材、指導者用資料、普及ツール等の作成

投影教材・ワークシート

指導者用運営資料

プログラム紹介動画



プログラム実施と同時に作成、改変している

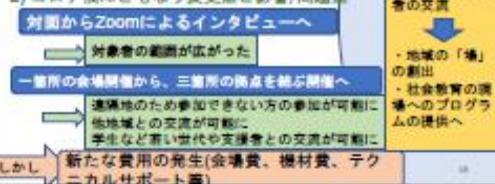
14

5. 地域開催講座に向けた調査・企画実施 ～特定非営利活動法人かながわ女性会議専委託事業

1) 実施状況

- ① M字カーブの底の世代女性へのインタビュー
- ② 地域開催講座の計画・実施
- ③ 検討・実施のための会議(WGなど9回)

2) コロナ禍にともなう変更点と影響/問題点



15

① M字カーブの底・インタビュー調査

2019年 4名の調査(含 子育て支援スタッフ)

2020年 テレビ会議によるオンラインインタビューに切り替え

10名に実施(2名は未実施)

横浜市在住 4名(未就労2名 就労2名)

藤沢市在住 5名(未就労2名(内アルバイト1名)
就労3名)

子どもは1人から3人

就労/未就労に分けそれぞれに質問項目を設定

一人1時間～1時間半程度

多様な聞き取り内容・・・現在、分析・検討中

16

② 地域開催講座 ポスター



17

6. かながわユースフォーラム

○7/18(土) オンライン開催

・かながわを中心とするユース(大学生・高校生)による社会参画型交流イベント

・学生主体で地域と関わる機会

○参加者141名

○分科会「ジェンダー」、「世代間交流」など



18

今年度事業成果の見込み
普及のための方策

1. 半期プログラム教材、指導者用資料、普及ツールの作成・実施・効果検討
2. 地域連携・プログラム普及を見据えた学内外への発信による連携強化、学生への意識づけ
3. 普及に向けて…他大学・高校等へのショートプログラム作成・実施・効果検討

19

期待される効果：

＜アンコンシャスバイアスの低減＞

- ・学生への教育効果：性別役割分担意識の変化、キャリア選択に主体的に関わる意欲、および大学での学修・学生生活への意欲が高まる

- ・大学における効果：ライフキャリア教育・支援および男女共同参画の機運の高まり、「ワークライフバランス」に向けた大学・地域間連携の深まり

- ・地域に向けた効果：地元企業および地域への学生の関心の高まり、大学と地域の新たな連携のかたちの提案

20

2. 2020年度正課プログラム

(1) プログラムの概要

本事業の主な目的である「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育プログラム」について、昨年度から内容の検討・作成を行ってきた（詳細は令和元年度報告書参照）。今年度は前期に内容・運営の具体的な検討、および急遽生じたオンライン化への対応を行い、後期にオンライン授業として実施した。

プログラムは主に以下の4つのテーマによる構成とした。

1. 自己理解、2. キャリアとジェンダー、3. 共働き家庭の体験、4. 振り返りと発表
- シラバスは以下のとおりである。

2020年度後期シラバス キャリア・デザイン～ワーク&ライフデザイン教育プログラム／公共の新しいかたちを求めて

【単位】2単位 【曜日・時限】後期月曜4時限

【到達目標】

本講義の到達目標は、教養教育のカリキュラムポリシーに従い、受講生が以下の3つの視点から自己・他者・社会への理解を深めつつ自らのキャリアをデザインすることである。ここではキャリアについて、職業のみならず、さまざまなライフイベントや社会における役割を含め、より広い視点すなわちライフ・キャリアについて考えることを重視している。

1. **現在と将来**：生涯発達の視点でライフイベントについて理解したうえでプロセスとしてのキャリアを展望する。また将来を見据えつつ現在をとらえなおすことにより、主体的な大学での学修態度および生涯学び続ける姿勢を身につける。

2. **自己と社会**：男女共同参画および多様性を尊重する視点にたち、身近な地域の課題にも目を向けながら社会・職業への理解を深める。そのうえで自分らしいキャリアを構築するために、主体的に意思決定する力を養う。

3. **理論と体験**：講義で得た知識や理論を体験によってより深い自己理解につなげ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を含めて他者や地域・社会と関わる力を養う。

なお、本講義は、文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」採択「神大ワーク&ライフデザイン教育プログラム～地域連携による男女共同参画推進を見据えたキャリア教育～」の一環として実施するものである。構想実施にあたっては、神奈川県、横浜市、男女共同参画センター横浜、NPO法人かながわ女性会議、スリール株式会社にご協力をいただいている。

この講義は、共働き家庭での体験活動「ワーク&ライフ・インターーン」（授業時間外×2回）を含むため、履修者数に定員を設けている。詳細は下記「授業運営」の欄を参照のこと。

【授業内容】

本講義では、共働き家庭において子育てと親・社会人の生活を学ぶ「ワーク&ライフ・インターーン」（時間外）を行う。さらに、講義・グループワーク等により自己・他者・社会への理解を深め、外部講師による講演等から現代社会における多様な働き方・ライフスタイルを学ぶなど、「ライフ」と「ワーク」両面からキャリアについて考察していく。最後に学びを振り返り、自らのキャリアデザインをより明確にしたうえで学びの成果についてプレゼンテーションを行う。

【授業計画】

講義前には予習として、配付もしくは指示により収集した資料を読み、不明な語句・事項について調べたり、指示された課題を行っておくこと。復習は毎回、講義で使用した資料等を参照し、行

ったワーク・体験を振り返るとともに、講義中に示す課題の作成および発表の準備を行う。そのため各回4時間以上の予習・復習を（時にグループで）行う。詳細については講義内で指示する。

I. 自己理解

1. ガイダンス：シラバス記載事項確認、インターン説明、キャリアに関する基礎的事項、ワーク
2. 自己理解に向けて：自己理解ワーク、講演に向けたヒアリング練習
3. 【外部講師講演】：ロールモデルに学ぶキャリア

II. キャリアとジェンダー

4. キャリアとジェンダー1：ジェンダーに関する基礎的事項、キャリアにおける4領域と統合
5. キャリアとジェンダー2：ライフイベントとジェンダー

III. 共働き家庭での体験活動

6. 事前学習：子どもの発達・安全確保・子どもとの関わり（インターン計画書・ヒアリングシート作成）
7. 1回目体験：11月15日（日）
8. 1回目振り返り：「統合」の視点を意識しながら振り返る
【課題1（オンデマンド）：多様な働き方から学ぶワーク＆ライフバランス】（11月23日）
9. 2回目体験：11月29日（日）

IV. 振り返りと発表

10. 振り返り：課題発見グループディスカッション
【課題2（オンデマンド）：発表資料作成】（12月7日）

11. 発表1
 12. 発表2、最終まとめ、ワーク（10年後の自分ワーク等）
- ※途中、2回の課題（オンデマンド）を予定しています。ただし、課題2の回は、授業時間内にZOOMで質問・相談を受け付けます。

【授業運営】

本授業は、オンライン型（ZOOM）で実施します。ワークを伴いますので、PCから受講しワークの際は画面をONにすることを求める。また、時間外に実施する共働き家庭での体験活動「ワーク＆ライフ・インターン」（11月15日、29日、両日とも日曜日：10時～）実施しますので、日程・内容的に体験への参加が可能であることはじめシラバス内容を十分確認したうえで履修してください。

授業は体験活動のほか、講義（ゲスト講師による講演を含む）およびグループでのワークやディスカッションにより進めます。講義における提出物、レポート提出のほかに、体験についての発表を行います。

使用するツールは、ZOOM, dotCampus, JINDAIメールのほかワーク用にGoogle ドライブも使用します。

なお、9月4日（金）昼休みにオンラインでの説明会を予定しています。履修を考える学生は説明会の詳細をウェブステで確認のうえ出席してください。本科目は定員24名の履修制限科目であるため、希望者は、履修制限科目応募期間に応募してください。

【評価方法】

時間外での体験を含め全て出席することを基本とする。3回以上の欠席は原則採点の対象としない。

平常点（提出物・授業への貢献度）40%、中間・期末レポート30%、プレゼンテーション30%により評価する。

【オフィスアワー】

授業前後（14時30分～15時および17時～17時30分）ZOOMで質問・相談を受け付けるが、詳細は初回授業にて周知する。問い合わせメールアドレス（careerdesign-wl@kanagawa-u.ac.jp）。

【使用書】

神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課 MEET ME BOOK（ライフキャリア教育支援冊子）ほか適宜プリントを配付する

【参考書】

青野篤子編「アクティブラーニングで学ぶジェンダー－現代を生きるための12の実践」ミネルヴァ書房[2016]

広岡守穂・井上匡子・吉田洋子・山本千晶・荻野佳代子他『ジェンダーと男女共同参画』[かながわ女性会議]2015

堀江敦子「新・ワーママ入門」ディスカヴァー・トゥエンティワン[2019]

ほか授業中に適宜紹介する

（2）2020年度前期実施準備

昨年度は、共働き家庭でのインターンおよび事前事後指導を正課外で実施し、他の授業内容は複数の授業内で試行を行ったものを、1つのプログラムとして統合した。到達目標、授業計画、評価方法等シラバスの内容を決定し、学内手続きを経て、今年度後期共通教養科目「キャリアデザイン～ワーク＆ライフデザイン教育プログラム」として開講することとした。

今年度は、コロナウィルス感染症流行により、前期授業が遅れて5月11日開始、そしてオンラインで講義を実施することが決定した。後期授業をオンラインで実施する方針が大学として定まったのは7月30日であるが、4月より状況を見つ検討を重ねた。

まず、最初の検討はインターンについてである。インターンは、学生が、小さな子供をもつ家庭を複数で訪問し保育園の迎えから夜間の時間帯をともに過ごすことが基本となっている。感染リスクの観点では、授業でのリスク、すなわち対面かオンラインかの判断よりも、一層高いハードルが存在する。一方、「共働き家庭の生活を体験する」ことが本プログラムの主要な要素であり、体験から学ぶことの重要性を鑑みると判断は容易ではなかった。しかし検討を重ねた結果、やはり感染リスクを避けることを重視し、まずプログラムの体験部分をオンラインで行うことを決定し、体験に代わる充実した内容をオンラインで提供することの検討・準備に入った。

次に体験をオンラインで実施すること、また時々の感染状況も踏まえ、プログラム全体をオンラインで実施する方向で準備に入った。まずは初回受講生募集について検討を行った。例年、インターン生を募集するにあたり、プログラムの主旨説明を兼ねて講演会を実施している。今年度も前期に講演会（再委託先であるスリール（株）代表堀江敦子氏による講演）を予定していたが、これもオンラインで実施することを決定した。さらに、当初より授業開講前に説明会を行う予定であったが、これもオンラインで実施することとした。

1. 堀江敦子氏講演 2020年7月21日（オンライン実施）

「なりたい自分に近づこう～自分らしいワーク＆ライフスタイル」

講演会は前期共通教養科目「公共の新しいかたちを求めて1～ジェンダー」月曜2時限を公開するかたちで行った。再委託先でもあるスリール（株）堀江敦子氏を講師として、今後のキャリア形成に向け、卒業・就職活動に留まらず、自らの価値観を明確にしつつ幅広い視点で将来を考えることの大切さ、および将来を見据えて大学生活を送る際の心構えについて講話が行われた。そのうえで、後期授業および共働き家庭へのインターンの案内を行った。

2. 授業履修説明会 2020年9月4日12:40～13:15（オンライン実施）

本授業は、全学共通教養科目に位置づけられている。これは学部・学年を問わず全学から多様な学生が参加することを重視したためである。一方、学生にとっては、学部の専門科目、必修科目に比べると履修へのコミットメントが低くなりやすい面もある。とりわけ本プログラムのように、学外での体験実習を設け、かつ授業時限以外に出席必須の時間があることは、学生が履修選択を行う前に十分理解しておく必要がある。なお、本授業に限らないが、学生が時間外に予定を合せ集合することの難しさは近年増していることを実感している。経済状況とも相まって、アルバイトを行う学生や遠距離通学者が増え、また学年が上がればインターン等にも参加するためである。こうした制約をふまえつつ、一方で体験的機会の少ない学生のニーズ、関心に応える募集のあり方について検討を行った。

より授業内容を理解し、コミットメントのある学生を募集するために、当初は履修者を選考する予定であった。説明会を実施し、エントリーシートの提出を求めその内容等で選抜する方法である。しかし、コロナウィルス感染症流行の影響により後期学事暦が変更となり、履修登録期間にその日程を組むことが困難となった。よって説明会を実施したうえで応募者は定員を超えた場合は抽選という、履修人数を制限する科目として本学が通常実施している方式を採用することとなった。そのため授業内容を理解した学生に履修してもらうために、説明会の重要性はより増したものと考え、内容検討および学生への周知に努めた。

説明会では、授業の主旨および日程、内容を説明し、時間外の体験や授業内もグループでのワークを行うため、出席が必須であることを強調した。またオンラインでワークを実施するために、スマートフォンの受講ではなくPCの受講、かつ画面をONにし自分の顔を出しながらの受講を求めGoogle ドライブでのツールを使用すること等を説明した。

説明会を実施した9月4日は履修登録直前の時期だが学生の夏休み期間中であるため、参加が限られた可能性があるが、19名の学生が参加した。また、関心があるが出席が出来なかつた学生には映像を視聴できるようにした。説明会時に行つたアンケートから見える学生の状況、ニーズは以下の通りであった。

（1）説明会への参加動機

「講演会や授業での案内を聞いて」と回答した者が61%と時間割やシラバスの情報のみで参加した者の割合を大きく上回っている。授業への動機づけとして、講演会や授業内で教員が紹介する方法が有効であったことが示された。

（2）履修意向

説明会時点での履修意向としては、44%が「履修する」、50%は「どちらともいえない」と回答した。その理由として「履修する」と回答した学生からは「家庭と仕事の両立のテーマに興味を持った」、「就職を含めてこれから的人生について考えたい」、「オンラインでもいろいろ人と関わりたい」、「社会人とコミュニケーションをとれる」、「教員免許を取りたいと考えており、小さな子供と触れ合える機会がよい」といった点が挙げられ、いずれも授業内容を理解した上で関心をもっていることが伺える。

一方「どちらともいえない」と回答した学生からは「別の授業（必修等）と重なる可能性がある」、「履修したい科目が他にもあり迷っている」など時間割調整上の問題、「PCトラブルがあり心配がある」などオンラインでワーク等を行う授業への不安も挙げられていた。

3. 後期授業実施に向けた検討

オンライン（ZOOM）での実施に向けて授業内容の再検討を行つたうえで、内容に関しては大きく変更しないことを基本方針とし準備を進めた。そのうえで、主な変更点としては以下の通りである。

（1）シラバスの改訂

本学の後期授業の実施方針として、当初の14回から、14回の内容を担保しつつ12回で実施することが示された。これに伴い再構成を行い、14回のうち2回分を課題形式とした。1回はオンデ

マンド型の課題を提示し、レポートの提出を求めた。1回は発表準備の時間とし、教員はオンライン上に待機し任意参加の質疑応答、発表練習の時間とした。

(2) ワークの実施方法

ワークはGoogle ドライブを使用することとし、Google スプレッド（エクセル形式のワークシート作成）、スライド（パワーポイント）、Jam board（付箋ワーク）を併用しながら実施することとした。Google ドライブ上に各学生のフォルダを用意し、学生は自分のフォルダからワークシートを入手、作成、提出する。グループディスカッションではシートを画面共有して示しながら話し合う、またフォルダは他の学生、教員も互いに見られるようにして共有を図った。

(3) 共働き家庭での体験

当初の予定では、学生は2名1組となり、平日実施する授業時間後に各家庭へ伺い、保育園へのお迎え、帰宅、夕食づくり、入浴、子どもや保護者とのコミュニケーションなどを行う予定であった。オンライン実施に伴い、体験日程を受け入れ家庭がPCに向かいやすい日曜日午前に変更し、受け入れ家庭・家族と受講者がオンライン上で一同に会するかたちとした。詳細は実施報告にて後述するが、全体で集合したのちに、ZOOMのブレークアウト機能により各家庭と学生が分かれて交流することとした。学生が保護者にヒアリングを行ったり、子どもたちへのレクリエーションを考え実施するなどして交流を図った。

（3）実施報告

1. 名称 神奈川大学

【2020年度共通教養科目】キャリアデザイン（2020入）公共の新しいかたちを求めてⅠ（～2019入）
～ワーク＆ライフ・デザイン教育プログラム～

2. 実施日程 令和2年10月5日（月）～令和2年12月21日（月）

3. 実施時間 15:20～17:00（4限） ※運営時間 14:30～17:30

4. 場所 オンライン

5. 教員 神奈川大学 萩野佳代子 井上匡子 大野恵理 吉田洋子 日本女子大学 鈴木紀子 講師 スリール株式会社 喜多村佳美

6. 事務局 神奈川大学 細井佳代 スリール株式会社 小松原康江

7. 実施内容 次頁以降に報告

【第一回 10月5日（月） 4限 15:20～17:00：ガイダンス・キャリアの基礎、ワーク】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	共同ホスト	・ファシリテーション ・	
井上先生・大野先生	ホスト	・プレイクアウト設定 ・ブロードキャスト ・チャット対応	
吉田先生	共同ホスト	・チャット対応	
細井さん	共同ホスト	・出欠確認 ・録画 ・講座内記録撮影	
喜多村	共同ホスト	・ファシリテーション	

●出席人数 20名

●実施内容

14:00	事務局最終確認	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定
14:50～ 15:20	オフィスアワー	●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す ●事前アナウンス —zoom の基本操作 —Google ドライブにアクセスできているか? 事前開放 15:20～
15:20～ 15:50	授業開始 (30分)	●録画開始 ①授業の説明 (15分) 荻野先生 —教員紹介 —シラバスの確認 —授業日程の確認 —目的の周知 —注意事項 (守秘義務) ②オンラインルールの確認 (10分) 喜多村 —受講ルール —ワークシートの共有確認
15:50～ 16:00	ライフキャリア について (10分)	喜多村
16:00～ 16:40	なりたい姿ワーク (40分)	【ワーク1】なりたい姿 WS (喜多村) ①ワークの説明 (5分) ②個人ワーク (15分) ：10年後の自分のなりたい姿について4領域で記入 (各項目に番号を振る) ③シェアの方法説明：質問する順番を決めておく。順番に質問していく、質問に詰まつたら乱数を使って出た項目に対して質問

		<p>【ブレイクアウト】15分設定 ブロードキャスト 終了1分前 「残り1分です」</p> <p>④シェア（3人／組）発表2分・質問2分（12分）</p> <p>⑤全体感想シェア（10分）</p>
16:40～ 16:50	ステップアップ シート説明（10分）	学びの目標を立てる 目的…目標の明確化 ・記入の説明 (記入は宿題)
16:50～ 17:00	次回に向けての説明	次回について（喜多村） ③アンケートの実施（開始前）（喜多村） ④誓約書署名（授業最後・事前配布資料）
17:00～ 17:30	オフィスアワー	学生からの質問への回答・振り返り

【振り返り】

- ・初回の授業ではあったが、後期授業ということもあり、ZOOM・Google ドライブへのアクセス、スプレッドシートの使用方法を伝えながら並行してワークを実施した。しかし、未だ ZOOM の画面共有の方法、画面の ON・OFF などの操作方法がわからない学生が見受けられた。また、Google ドライブへのアクセス方法、スプレッドシートへの記入方法がわからないといった学生もいた。授業によって使用ツールが異なること、一年生の受講も多いことから、今一度、ツールの使用方法やアクセス方法など、一動作ずつ、画面共有しながら丁寧に伝えて行く必要がある。
- ・次回、冒頭にツールの使用方法、画面共有できない場合の対処方法や提出物などの提出方法をいくつか明示することとする。
- ・そのほか、学生のネットワーク環境によるトラブルも見受けられた。オンラインでグループワークを実施している都合上、チームメンバーがダウンしてしまうと対話が成り立たない状況となることがある。また、対話時は画面を ON にして進めないと、対話が難しくワークが成り立たない。履修時に授業進行上の注意として画面を ON にするよう伝えたが、大学としてネットワーク環境は配慮事項であることから個人の判断に委ねざるを得ない。
- ・ネットワーク環境の問題はあるものの、チャットに積極的に記入したり、画面を ON にして対話を進めたりするなど、積極的に参加する姿も多く見受けられた。双方向の授業が少ない中で今の状況を吐露する学生もいた。グループ編成も学部、学年をあえて混ぜて編成したこともあり、お互いの年次から将来について真面目に積極的に語り、上級生が下級生にアドバイスする姿も見受けられ縦の繋がりもでき、有意義な時間となったことが感じられた。
- ・グループワークの中で、スポーツ系の部活に取り組む学生からはグループを気遣う関わりがあつたと感じられた。

【授業 PPT の抜粋】

授業の進め方

社会人の方や両立家庭の方にオンラインでヒアリング



- グループワーク
- ブレイクアウト

オンラインで子どもと共通体験をする

© sourire All Rights Reserved.

【両立不安】歴史的背景

【バブル崩壊後の日本】



子育て世代

子育てサポート

共働き家庭

保育サポート

育児体験 大人との関わり

近隣・親戚

子育て前

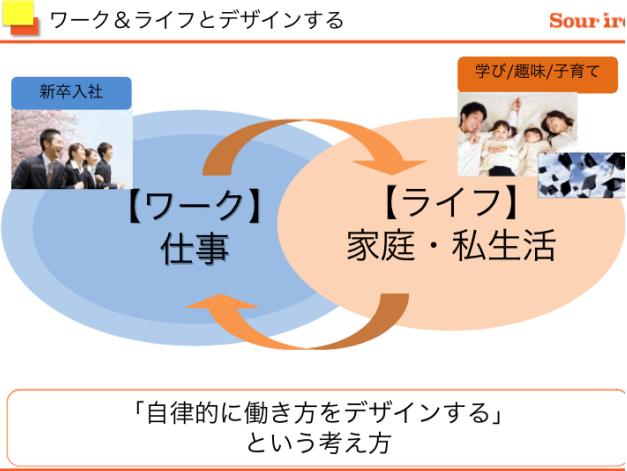
仕事も子育てもしないといけない
でも、誰も助けてくれない・・・
※女性60%が出産を機に仕事を退職
※男性育休取得率6.16% 平成30年度

仕事も子育ても両立している
イメージが湧かない。自分には無理
※60%以上が自分の赤ちゃんが、
初めて関わる乳幼児

不安の原因は「知らないこと」
ワークとライフのリアルを知ることから

© sourire All Rights Reserved.

ワーク＆ライフとデザインする



新卒入社

【ワーク】 仕事

【ライフ】 家庭・私生活

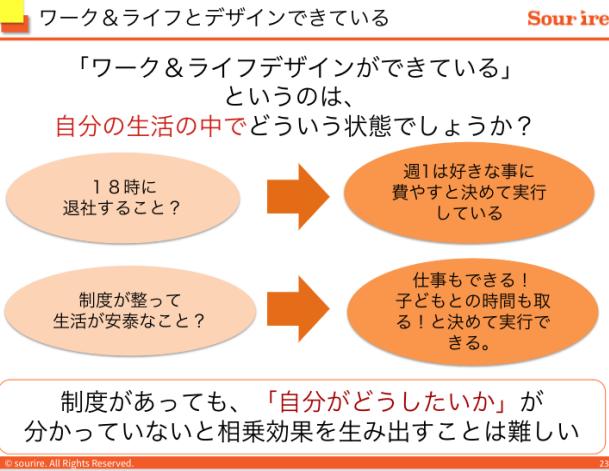
「遊び/趣味/子育て」

「自律的に働き方をデザインする」という考え方

© sourire All Rights Reserved.

ワーク＆ライフとデザインできている

「ワーク＆ライフデザインができている」というのは、
自分の生活中でどういう状態でしょうか？



18時に退社すること？

週1は好きな事に費やすと決めて実行している

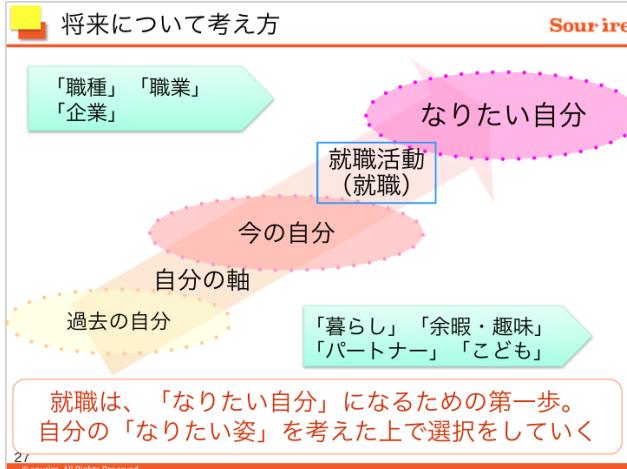
制度が整って生活が安泰なこと？

仕事もできる！子どもとの時間も取る！と決めて実行できる。

制度があっても、「自分がどうしたいか」が分かっていないと相乗効果を生み出すことは難しい

© sourire All Rights Reserved.

将来について考え方



「職種」「職業」「企業」

なりたい自分

就職活動 (就職)

今の自分

自分の軸

過去の自分

「暮らし」「余暇・趣味」「パートナー」「子ども」

就職は、「なりたい自分」になるための第一歩。
自分の「なりたい姿」を考えた上で選択をしていく

© sourire All Rights Reserved.

なりたい姿？行動できない！

～実は社会人も悩んでいます～



学校

企業

学生

若手社員

育児中社員

マネジメント層

ライフキャリア教育事業

女性活躍コンサルティング・研修

将来が不安 71.2%

両立が不安 92.7%

© sourire All Rights Reserved.

【第二回 10月 12日 (月) 4限 15:20 ~ 17:00 : 自己理解ワーク、ヒアリング練習】

● 当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーション ・グループ内サポート ・ブレイクアウト設定 ・ブロードキャスト 	
井上先生	共同ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット対応 ・グループ内サポート 	
大野先生	共同ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット対応 ・グループ内サポート ・録画 	喜多村とデモ
吉田先生	共同ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット対応 ・グループ内サポート 	
細井さん	共同ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認 ・ブレイクアウト 	
喜多村	共同ホスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーション ・グループ内サポート 	

● 出席人数 16名

● 当日進行

3名/グループ ブレイクアウトルーム 8ルーム

● 実施内容

14:30	事務局 最終確認	<p>事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ● ホスト：共同ホストに設定</p>
14:50～ 15:20	オフィスアワー	<p>● 参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ● スライド表示・音楽流す ● 事前アナウンス —zoom の基本操作 —Google ドライブにアクセスできているか？ 事前開放 15:20～</p>
15:20～ 15:25	授業開始 (5分)	<p>授業説明 荻野先生 ・欠席の扱い 事前メール連絡を入れること 欠席の場合は当日資料、動画資料をみて作成すること ・その他</p>
15:25～ 15:35	確認 (10分)	<p>・アンケート確認 ・誓約書</p>
15:35～ 16:35	授業開始 【ワーク】 強みのワーク (60分)	<p>● 録画開始 価値観ワーク説明 (5分) 喜多村 —ワーク説明 (5分) —ワーク 記入時間 (20分) —共有説明 (5分)</p>

		8分×3名（25分） 【ブレイクアウト】
16:35～ 16:55	メッセージ交換 (20分)	一メッセージ記入（10分） 一共有 4分×3名（15分） 【ブレイクアウト】
16:55～ 17:00	次回に向けての説明	次回について（荻野先生） ステップアップシート記入（宿題） 誓約書署名（授業最後・事前配布資料）確認
17:00～ 17:30	オフィスアワー	学生の質問に対応・振り返り

【振り返り】

- ・欠席者のいるグループへの対応が課題。3名／グループでワーク時間を設定しているため、欠席者がいるグループでは時間を持て余していた。欠席者のいるグループに講師やサポート教員が入りファシリテートをする必要がある。
- ・グループワークは2回目ということもあり、話が途切れるグループも見受けられたが、お互い少しづつ進めることができていた。ワークの記入内容が端的な記入に終始している学生が多く、さらに深堀ができるように促すことが必要。グループによっては対話が進まないグループ、時間管理がうまくいかないグループ、オンラインツール特有のタイムラグによりコミュニケーションがうまくいかないグループ、親密に仲良くやっているグループ、お互いサポートiveに進めているチームと様々。
- ・3名／グループの編成にしているが、4名にしても良い印象。
- ・また、しばらくはファシリテーションを置く、グループ内でのやることや役割分担を明確にして、グループワークが円滑に進められるように導く必要がある。

【授業 PPT の抜粋】

授業の進め方

「自分」で考える


オンライン上のワークシートに記入


画面を共有して、話す


②インタビュー

© sourire. All Rights Reserved.

ヒアリングの目的とポイント

目的：10年後のなりたい姿に向けて

①事前準備


②社会人登壇者・ご家庭インタビュー


③まとめ


ご家庭実習
体験のまとめ
プレゼンテーション

ステップアップ
シートの記載

今回の授業では短い間にたくさんのことを見聞きしてこなくてはいけません！

© sourire. All Rights Reserved.

取材の極意：「なんで？」を必ず解消すること





Q:なんで、このお仕事を選んだの？
Q:なぜ、結婚しようとおもったの？
Q:仕事のやりがいは？
Q:子どもの欲しかった？好きだった？
Q:どういう仕事内容なの？
Q:幼稚園と保育園の違いってなに？
Q:パートナーとはどうやって出会ったの？

他者とは違う強みを見つけるワーク

【質問1】
10人は嫌だと思うけど、自分にとって嫌ではないものはなんですか？

【質問2】
時間とお金を費やしてきたものと、その時間・お金

記入時間：20 分
目標：8 個以上

© sourire. All Rights Reserved.

軸ってなんだろう？

欲しい結果を得るために


過去の経験
今の状況から


© sourire. All Rights Reserved.

強み・軸・価値観・視点が違うのは当たり前！

「好き・嫌い」を決めているのは、自分の視点～エピソード編～

どうしてそう思うの？
貨物列車の運転手になりたい
スピードを出して走れる！
ダメ！
格好いい！

貨物列車

自分の価値観を「当たり前」と思わない
→聞いてみる・コミュニケーションを諦めない

© sourire. All Rights Reserved.

【第三回 10月 19日（月）4限 15:20～17:00：講演会：ロールモデルに学ぶキャリア】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生		・統括（最初・最後） ・ファシリテーション ブレイク内録画・ホワイトボード	
井上先生	共同ホスト	ブレイク内録画・ホワイトボード	
大野先生	共同ホスト	ブレイク内録画・ホワイトボード	
吉田先生		グループサポート	
鈴木先生		グループサポート	
細井さん		出欠確認→小松原へ	
喜多村	共同ホスト	・ファシリテーション	
SA 古居	共同ホスト	グループファシリ	
SA 土川	共同ホスト	グループファシリ	
スリール小松原	ホスト（メイン）	ブレイク作成 ブロードキャスト	

●出席人数 17名

●当日進行

【ブレイクアウトグループリスト】

登壇者&ファシリ ルーム移動

脇谷さん 古居さん →①→②→③

中村さん 喜多村 →②→③→①

豊田さん 土川さん →③→①→②

●実施内容

14:30	事務局最終確認	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定
14:50～ 15:20	オフィスアワー・登壇者参加	事前開放 15:20～ ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●ご登壇者と事前 mtg ●スライド表示・音楽流す ●事前アナウンス
15:20～ 15:30	授業開始	授業説明 荻野先生 グッドバランスご説明 話を聞く視点解説（10分）

15:30～ 15:45	社会人の方の ご紹介	社会人の方の自己紹介 (5分×3名) (15分)
15:45～ 16:45	インタビュー	<p>—20分×3回 (60分) 【ブレイクアウト】 各グループに専属ファシリテーター登壇者がルームを移動する</p> <p>(ブレイクファシリティ進め方)</p> <ul style="list-style-type: none"> 冒頭、社会人ゲストPPTを画面シェア —学生画面をONにするように促す —質問のある方と声かけ —残り時間、5分前になつたら最後の質問者 —20分になつたら、ファシリテーターと登壇者移動します ・時間があれば、全体で感想共有をします。 自チームで発表してもらう人を1名決めておいてください。 ・記録者・時間管理 ※グループの中でノートをシェアできるとよい <p>全体シェア (10分)</p>
16:55～ 17:00	次回に向けて の説明	次回について (荻野先生) ステップアップシート記入 (宿題)
17:00～ 17:30	オフィスアワー	

【振り返り】

●ルーム1

- ・遠慮しているのか、なかなか発言したり質問を投げかけたりすることが難しく、沈黙が長いチームだった。
- ・各自が事前に用意した質問が終了したら静かになってしまい、回答いただいたことからさらに詳細を聞く質問や、関連した質問をするなどの広がりが出なかつたことが残念。
- ・登壇者脇谷さんへの質問は企業が開催する会社説明会のような内容になっていた。例えば、企業内での子育ての父親参加率やグッドバランス賞を受賞した背景などといった質問が出ていた。
- ・登壇者豊田さんについては、転職理由と家族に反対されなかつたか?などといった、働くことと暮らすことにまつわるパートナーシップについての質問などが中心の話を伺つた。
- ・印象的な話は、男性稼ぎ主モデルとなつてゐる世の中の固定概念を指摘したことだ。夫婦で半分ずつ稼げる。家事も育児も男性も女性も共に行う。具体的な話は学生にとってインパクトがあつた。
- ・登壇者豊田さんの経験から、お金が全てではない大切なことを見つけることができ、価値観がアップデートされたというお話から、幸せの軸をどのように作るのか?といった話もでていた。

●ルーム2

- ・男子5名のチームであった。フリーランスとして働いている登壇者中村さんへの質問が多くつた。具体的には、フリーランスで働くことの難しさや、仕事の得方や管理の方法などに広がっていた。
- ・自分がやりたいと思える仕事をやっているが、仕事自体より、誰と一緒に仕事をするかが大事であると話していたことが印象深い。一方で、企業にお勤めの登壇者脇谷さんへの質問があまり出なかつた。社会人1年目でもあり、昨年まで一緒に学んでいた先輩でもあるから、積極的に質問がでると良かった。出た質問には的確に回答いただけた。
- ・登壇者脇谷さんの勤務先が、ワークライフバランスを大事にしている企業。ワークライフバランスとは共働きの方に対する制度などの印象があるが、若手社員にとっても会社の方々が優しいので、当事者以外にもいいという話を聞くことができた。会社に余裕があるからこそ今のような環境があるのだと、働いてみて感じた実体験を話してくださった。また、自分自身が楽しんで仕事をすることが一番大切との話が印象的。
- ・登壇者豊田さんのお話は社内ネットワーク、スパイスマイスターについてのお話から、ご夫婦の間での話、専業主婦だった配偶者との関係など赤裸々に、そして深い話があったが、学生たちに伝わったかが気がかり。

●ルーム3

- ・質問はできる学生たちだが、様々な角度や深掘りするような質問ができない。もう少し気軽に率直な質問が出るような場を作ることができるといいと感じた。一対一のQ&Aとなってしまって、さらに深める質問がなかなか出ない。関連した質問や深める質問ができるようになるように導きが必要。ただし、沈黙もなく、次々と質問が出てくる状態ではあった。SAがよいタイミングで質問を促したりしてくれた。
- ・登壇者豊田さんは、転職・移住をへて子どもとの関わりで楽しいことを、父親の目線でお話しくださった。育児休暇を取った経験から、妻への感謝の気持ちを持つようになったという話は学生にも伝わったのではないか？
- ・登壇者中村さんは眞面目に目の前のことをやっていくと次の仕事につながることや、人との繋がりこそ地域に目を向けるとよいという話など、生きて行く上でヒントになるような話を聞くことができた。
- ・登壇者脇谷さんについては、このチームも質問がなかなかでなかつた。会社説明会のような内容の質問や、就活の時の質問が少し出た程度。ワークライフバランスは会社に所属するみんなのものという話があり、みんながいきいき働いている様子がわかる話があつた。
- ・回数を経て質問が増えていく印象

学生より～印象に残った話～※学生より寄せられた内容をそのまま掲載

(学生からの質問)
コロナでフリーランスのお仕事は大変ではないですか?
(登壇者回答)
オンラインでできることもある。つながって広がりがある。

(学生からの質問)
仕事と子育ての両立のモチベーションを上げるものは?
(登壇者回答)
子育てと仕事のリンクを考えている。ライフスタイルと近い仕事をしている。
理解をしていただける環境にある。主催なので、子どものだけのためのものではない。
仲間に支えられている。人のためにと思いながら、自分が支えられていると感じている。

(学生からの質問)

独立して新しい活動するにあたりなんでやろうと思ったのか？新しいことをチャレンジしようと思ったきっかけは？

(登壇者回答)

こんなことがあつたらいいな～と思うものを実行した。スタートすることより、誰とやるのか？が大切。

(学生からの質問)

運営、管理が得意じゃないけど、とおっしゃっていたが、管理のコツは？

(登壇者回答)

デジタルが難しい、手帳を使ってやっているデジタルとアナログを併用している。ポストイットを使用し、定期的に見直すことで管理している。プロジェクトごとのファイル管理も実施している。

(学生からの質問)

子どもとの時間について

(登壇者回答)

子どもがイベントに行きたがる。子どもとのお出かけ先は、自分のイベント。

子どもが夢中になったものを見つけるまでは一緒に動く。

(学生からの質問)

フリーランスとして仕事を始めるきっかけの話が印象的だった。団体に入っているの？

(登壇者回答)

8つの活動でフリーランス任意団体がある。

プロジェクトごとの団体で、メンバーも活動ごとに異なる。

(学生からの質問)

団体・企業コラボは自分から提案？依頼？

(登壇者回答)

やってみたいという人に声かけている。現在は、企業から声かけてもらうことが多い。

(学生からの質問)

学生時代は？？

(登壇者回答)

サークル、活動はしていなかった。中学時代、新体操部・・・遊びだった。

学祭で実行したい内容のために、許可を得る方法を考えて動いていた。

その体験から、何かできるようになりたいと考え、企画会社に入ってバイト・・・企業の中を知る体験、お給料をもらう体験をした。

お金をもらいながらデザインを教えてもらいながら仕事をして何かをつくるなど、学生では知り合えないところに入ることができた。出来なかつた出会いがあった。

ライオンキングのコンペをしたり、キャツツをやったり。目の前のことをしっかりとやっていくようになっていた。

(学生からの質問)

営業時代がつまらない・・・

淡々としてつまらないに慣れてしまった時間という話をきいたが具体的に教えて欲しい。

(登壇者回答)

自分にとっての成長がなくなってしまった。本を読むことで、自分に足りないものに気がついた。

もっと成長したいから転職を決めた。

(学生からの質問)

ライフプランについて、結婚出産について考えていたことは？

(登壇者回答)

保育士さんになりたかったが現実が見えてきて、小説を読んでいた時にライティングに関わりたいと感じた。出版会社に勤めたいと思ったが、実際は大変で、何かを作り上げることが喜びになっていた。結婚、出産についてはとくに考えていなかった。保育士の夢は、自分の子育てで関わると思った。

(学生からの質問)

子どもとの接し方～叱ったり、褒めたり・・・の方法

(登壇者回答)

感情的に叱ることもある。ふと冷静になる自分がいて、一人の人間なので謝るし、誠実に接するようしている。

(学生からの質問)

人の繋がりの作り方について

(登壇者回答)

人の希望を聞いていく繋がり方がいいと思った。新しいことをやりたいと思っている人のエネルギーってパワーになる。家庭と、仕事と、第3の繋がり作るといいということに気がついた。

(学生からの質問)

イベントがどんなものが単純に気になった。

(登壇者回答)

ベジ&アートフェス、ママ&地元の商店&農家、親子のイベントなど、地元とつながることや地元野菜など。

(学生からの質問)

保険会社～マナビーナス設立

仲間、同僚を集めるのにはどうしたのでしょうか？大変だったことは？

(登壇者回答)

任意団体で、企業の時の方とは別の方とやっていることが大変でもある。

同じ境遇の方が集まることが多い。毎回チームが違う。

(学生からの感想)

川崎市川崎区出身だが団体の活動はしらなかった。興味がある。

設立前後で変化したことを伺い印象的だった。

・登壇者選出について

多様な働き方、多様な人生選択をしている登壇者が好ましい

例えば、男性育休取得者・パラレルキャリア・ライフステージの変化によるポジティブな働き方の選択をしている方、働き方に対する柔軟な取り組みをしている企業や企業内で制度改善などの取り組みをされたかた。

ライフ面で工夫をされている方。地域の子育てサービスの利用や子育てサークルなどコミュニティへ積極的に参加している人など。

男性・女性・就労形態など多様な方に依頼すると、幅広くヒアリングすることができる。

【登壇者感想】※登壇者より寄せられた内容を抜粋

中村様

他の講師の方のお話を少しでもお聞きしたいと思っていたので、私自身が参加できて嬉しかったです。今回、学生からの質問をメモしていたのですが、それが私にとっても大事な振り返りの時間となり、すごく勉強になりました。社会との繋がりが会社や友達だけでなく、地域までにも居場所を見つけていただけすると大変嬉しいです。川崎区の学生さん、学生のうちから地域に出てもらえると嬉しいなーと思います。本当に貴重な機会をありがとうございました！！

豊田様

話すことは、自身の思考の整理にもなりますし、今回もとても有意義な時間でした。

印象的だったのは『よく転職出来ましたね、家族の反対は無かったのですか！？』というやりとりがどの回もあったことですかね。

前提として、家計は男性が支えるものだというバイアスが皆さんあるのだろうなーと感じました！女性からすると、共働きなのに、女性ばかりが、家事育児をやりながら働くことを前提にされてしまっている…との不満があると思います

一方で、男性は男性で男が家計を支えなければならない前提を深く刷り込まれているせいで、やりたいことがあってもチャレンジングな転職がなかなか許されない、という呪縛があるなど、話しながら思いました。性別に固定された役割イメージは一端脇において、夫婦でその辺りをキチンと話し合えると良いと思います。

あとは、冒頭の豊田の自己紹介の仕方が伝わり難かったからだと思いますが、学生さんからの質問は表層的で、当たり障りの無いものが多くかった印象でした。豊田のような生き方は、まだ社会人経験が無く結婚もしていない学生さんにとっては、ちょっとピンと来ないのかも？と思いました。ただ、先生が途中途中で価値観を深掘りするような投げ掛けをしてくれたので(ジェンダーとかをテーマにしている先生にとっては、きっと聞きたいことがテンコモリだったと思います)、こんな生き方もあるのだよー、の一端は学生さんにもお伝え出来たかと思います！

社会人も結婚もしない学生さんが、いかに自分事として想像力を働かせながら、スリールさんのコンテンツに参加出来るか、しかもオンラインで。なかなか難しいとは思いますが、やりがいのあるチャレンジだと思います。

脇谷様

学生の時とは異なる立場で、改めて授業参加させていただき、多くを学ばせていただきました。また、学生たちの近況や悩みを聞くうちに、自分自身を振り返る良い機会となり、参加させていただいた事、大変嬉しく感じております。

コロナの影響で、以前とは異なる状況となり、教員・学生の皆様がオンライン授業という新たな試みに挑戦されている状況を体感し、オンラインでは難しい事もあるかとは思いますが、オンラインだからこそ出来る事も沢山あると感じました。

また、複数の生徒さんとお話をする中で、自宅での授業だと交友関係が広がらない、社会人の方と話す機会がない、等の悩みや不安も聞こえてきました。

私自身、学生時代に複数の社会人の方と関わさせていただいたのですが、もっともっと多くの方と関わり、多様なワークライフのお話を伺いたかったと感じております。

コロナの中で難しい状況下とは思いますが、今後、交流の機会が増え、学生たちの悩みや不安が少しでも解消することを願っております。

私の在学中は学内に学生、社会人が集いお話する機会があったのですが、今後は授業内もしくは学内の就活イベント等を通して、今回の授業のようにブレイクアウト ROOM を活用し、学生と社会人が個々で話す機会を設けるなど、大学と学生の両者にとって、より良い方策が出来ていけば何よりだと感じました。

【授業 PPT の抜粋：第三回】

ヒアリングの目的とポイント

Sourire

目的：10年後のなりたい姿に向けて

①事前準備 ②社会人登壇者・ご家庭インタビュー ③まとめ

ステップアップシートの記載

ご家庭実習 体験のまとめ
プレゼンテーション

今回の授業では短い間にたくさんのことを見せてはいけません！

©sourire. All Rights Reserved.

講演会の流れ

Sourire

全 体

1. 社会人の方から自己紹介 (5分/人)
ブレイクアウト

2. 学生からのインタビュー (20分×3回)
全 体

3. 全体感想シェア

この場は記者会見！
しっかりとお話を聞き出しましょう

©sourire. All Rights Reserved.

振り返り

Sourire

インタビューをしてみていかがでしたか？
印象的なことは？
自分の将来につながりそうなポイントは？

学生へメッセージ

©sourire. All Rights Reserved.

【第四回 10月26日（月）4限 15:20～17:00：ジェンダーの基礎、ライフイベントとジェンダー】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	Zoom ミーティングの設定 ホスト クラウドの録画管理	統括（最初・最後） ファシリテーション	
井上先生	共同ホスト (Zoom 設定は荻野先生 講義開始直前に井上をホストにする)	投票作成	
大野先生	共同ホスト・ホストサポート・録画	録画	
鈴木先生	共同ホスト	すごろくの解説	
吉田先生	共同ホスト	チャット対応	
細井さん	共同ホスト	チャット対応	
喜多村	共同ホスト		
SA（吉居・土川）	共同ホスト	すごろくゲーム実施	

●出席人数 16名

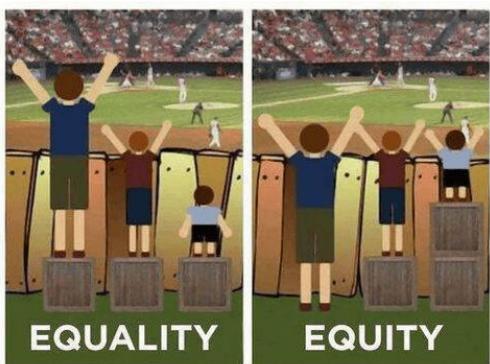
●実施内容

14:30～	事務局 最終確認	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定
14:50～ 15:20	オフィスアワー	事前開放 15:20～ ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
15:20～ 15:25	授業開始	開始のジングル（井上） Zoom で荻野先生のカメラをピン止め 授業説明 荻野先生 講義開始と本日の内容の案内
15:25～ 15:50 【AL形式 25分】	1, はじめに—何が問題か ジェンダーとキャリアデザインの架橋にむけた問いかけ 2つのポイント	ここから、井上が画面共有して、講義開始 アイスブレイク・・・投票 ワーク1 ワーク2 すごろく
15:50～ 16:20 【講義形式 20分】	2, ジェンダー論の展開 1 ジェンダーVSセックス図式の出発点とその限界 性の四相	
16:10～ 16:30 【講義形式 20分】	3 ジェンダー論の展開 2 LGBTIQ への配慮から SOGI へ	
16:30～ 16:55	構造としての権力 性のダブルスタンダード	

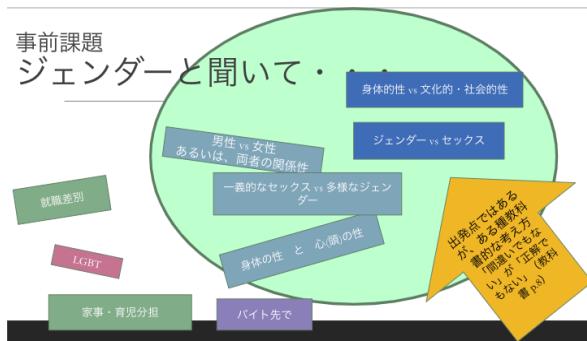
【講義形式 25分】	性別役割分業の強制 アンコンシャス・バイアスからジェンダー構造へ 課題の説明	
16:55～ 17:00 【講義形式 5分】	次回の連絡など	

【振り返り】

- ・普通の授業の3回分を詰め込んだので、伝えたいことが伝わっているのか心配ではある。特に、センターとキャリアとの関係が理解できたかが特に不安である。
- ・反省としては双六を実施したあと複層的な話がスタートするが、全体の授業の作りとしては、すみやかに真ん中あたりにするといいと感じた。
- ・すみやかにオンラインを利用しオンラインで学生と共に、双方で実施することができることがわかった。
- ・一方で、関わり、動きがあると楽しく学ぶことができると感じ、やはりリアルで実施したい。キャリアとセンターの接続を理解できない可能性があるが、次回荻野先生の授業で補完することができるのでは?すみやかに対比すると将来に実際にぶつかった事象の時に引き出しを作つておくといいと感じた。
- ・もう少し時間があるとセンター構造に縛られた選択と、そうでない選択があるとさらに分かりやすいしマジョリティじやない選択ではない選択を考えることができる。
- ・センター論、多様性ではなく、権力性の話を主にしても良かったのか?という印象も持つており、前回の社会人インタビューにつなげて行くことができそうだ。特に、「夫婦で話し合えばいいじやない」の結論になりがちのところを、社会問題として捉える話として多様性の話が理解できるといい。
- ・その上で、センターとキャリアの理解、プログラムの全体の流れをもう一度精査した方がいいのではないか?前提知識として、井上先生のお話があった上で社会人の方のお話を聞けると質問の内容も深まると感じた。
- ・すみやかに実施タイミングや使用時間を検討すると、学生にもさらに興味を持つてもらいやすいのでは?濃い内容であって特にLGBT、SOGIの話は重要である
- ・『塀越しに野球を楽しんでいる身長の異なる3人の人物の絵』が示す、「台の異なる使い方」が表現する公平と平等との違いがわかりやすかった。キャリアを考える文脈とでこれを思い出してもらえる場所があるといいなと思った。以前実施した授業内で、壁に穴を開けるという回答をした学生がいたことを思い出した。



【授業 PPT の抜粋：第四回】



1. 何が問題か？ ジェンダー平等とは何か？

結論～ジェンダー平等とは何かをライフイベント(での選択)に即して

平等とは・・・格差のない状態、差別のない状態

差別：不合理な・恣意的な理由に基づく不利な扱い

格差：人々の境遇・もっているものに差がある状態

ジェンダー平等・・・性に関係したことががらに即して、差別がない状態をつくりだすこと

性に関係したことがらに即して、差がない状態を作り出すこと

ジェンダー/セックス 図式の限界

1

出発点ではあるが、ある種教科書的な考え方
- セックス=生物学的性差/ジェンダー=社会的・文化的性差
- cf. 内閣府男女共同参画局の定義
- 「間違いでもない」が「正解でもない」

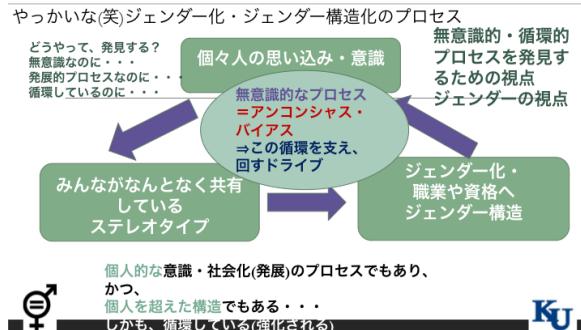
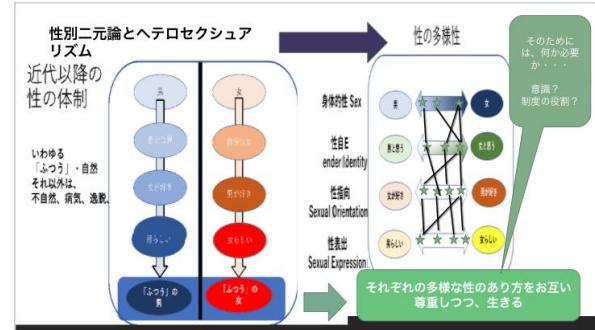
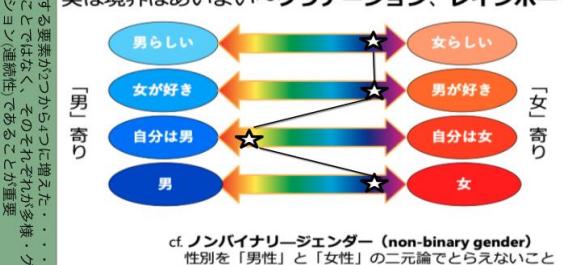
ジェンダー概念が登場した意義
- ジェンダーは、セックスによって決定され固定されているもの
ではなく、社会や文化によって様々な形を持ちうる
=「つくり変えていける」と考えられるようになった
- 男女の社会的不平等は偏見に過ぎず、不公正は是正していく

性の四相と、
そのそれぞれの多様性へ

この意義
は、失
わ
れ
て
い
な
い
が、
そ
れ
で
は
足
り
な
い
⇒
限
界



性の四相とそれぞれの多様性 実は境界はあいまい～グラデーション、レインボー



【第五回 11月2日（月）4限 15:20～17:00：キャリアとジェンダー2、ハンセンの4領域と統合】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	Zoom ミィーティングの設定	・統括（最初・最後） ・ファシリテーション	
井上先生	ホスト (Zoom 設定は荻野先生 講義開始直前に井上をホストにする)		
大野先生	ホストサポート		
鈴木先生	共同ホスト		
吉田先生	共同ホスト		
細井さん	共同ホスト		
喜多村さん	共同ホスト		
SA（古居・土川）	共同ホスト		

使用資料 1. 講義スライド、2. 課題シート、3. 人生すごろくデータ資料

●出席人数 14名

●実施内容

15:00	事務局 最終確認	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定
14:50～ 15:20	オフィスアワー	事前開放 15:20～ ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す ●事前アナウンス
15:20～ 15:25	授業開始 ブレークアウトグループリストの表示	開始のジングル（井上） Zoom で荻野先生のカメラをピン止め 授業説明 荻野先生 講義開始と本日の内容の案内
15:25～ 15:50 【講義形式 25分】	はじめに 1. 男女共同参画社会とライフキャリア ステレオタイプに関する心理学の知見を 紹介	荻野講義開始 【問1】シート記入&投票
15:50～ 16:00 【講義形式 10分】	2. ライフイベントとジェンダー論 データ集をもとに、ライフイベントにおいて男女がおかれた状況について説明、考察を促し、次のワークで共有する	人生双六データ集
16:00～ 16:30 【ワーク 30分】	2. ワーク 30分 ・個人 10分 ・話し合い 10分 ・シェア 10分	【問2】シート記入 ブレークアウトグループによる話し合い
16:30～ 16:50	3. これから生き方＝ライフキャリアを考える	ハンセン「4領域シート」と「統合シート」を参照

【講義形式 20分】	キャリアを考えるうえで、4領域の「統合」を新たな視点として説明する。	
16:50～ 17:00 【10分】	課題の確認・次回の連絡など	

【振り返り】

- ・今日は扱う内容が多く、ペースも早くなってしまったが、履修者が消化しきれたかどうか?
→早すぎる感じは受けず、ペースは適当だった。
→これまでの学びが積み重なっているために理解が可能だったと感じた。
- ・学生達は、データをもとに考えることが出来ていた。他のデータと結びつけて考えることや、自分の生活と関連させて考えることもできており、自分が経験していないことから学ぶ枠組みを得る効果があると感じられた。
- ・学生にとっては、特に、育休取得率の男女差や「結婚に求める条件」の男女の違いなどのデータが関心が高かったようだ。例えば、将来育児に関わりたいと考える男子学生は、育休取得率の低い現状を知り、現状をふまえ自分の仕事やキャリアをどう考えるか、具体的に考える契機になっている。また、ディスカッションで他の学生のキャリア観や家庭・保護者の価値観などに触ることで、多様な価値観があることの気づきにもなったようだ。
- ・第4回はジェンダーを特に制度（構造）の視点から扱い、今回第5回は個人の意識やキャリアとの関係で扱っている。この連関、伝え方はどうか?
→前回振り返りでも話題に出たが、第3回の社会人ヒアリングをこの回の後になると、キャリアについて考え、他者のキャリアをみる視点を得たうえでヒアリングが可能となり、より深まるかもしれない。一方、第3回ヒアリングを経たからこそ今回実感を持って学ぶことが出来た部分もある。今後の体験の際家庭をみる視点として活かすことが期待できる。
- 個人のキャリアとして考えると、性別役割分担も「夫婦で話し合う」、「お互い思いやる」など個人的なこととして社会の制度・構造の視点が抜け落ちる可能性がある。一方、社会制度・構造の話を自分のこと（自分のキャリアに影響すること）として具体的に考えることが難しかったり、所与のものとして受け入れてしまい、考察が深まらない場合もある。
- 今回、社会的・個人的視点を架橋する役割として、人生双六教材を使用した。第4回では、社会構造の話を中心としつつ、すくなくなり自分の人生と結びつける視点を提供した。第5回では、個人の生き方、キャリアを中心としつつ、すくなくデータ集により、社会状況と関係づけながら考察させるように工夫し、ねらいはある程度学生に伝わったように思われる。効果的な伝え方・構成をさらに検討する余地がある。

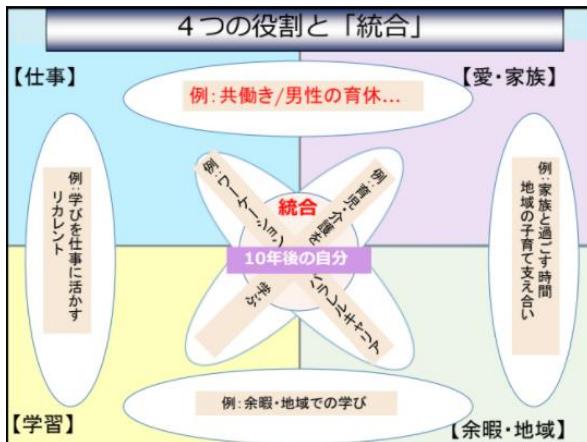
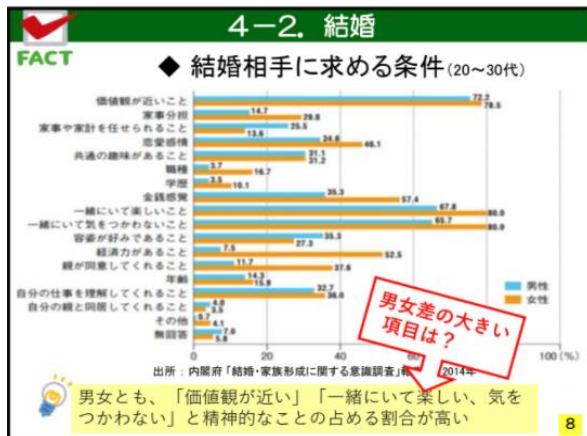
【授業 PPT の抜粋：第五回】

なぜ今“ライフキャリア”？

- なぜ今「ライフキャリア」？ =社会の急速な変化
 - グローバル化…人・もの・情報等地球全体がつながる
=>多様な価値観を持った人と関わっていく
 - 少子高齢化…‘人生100年時代’
=>社会を支えるしくみを変えていく必要
- 社会変化に応じて個人の生き方も変わっていく
=>変化・リスクに対応する強さを身に付ける
→これまでの価値観（思い込み）にとらわれずに生き方を考える必要

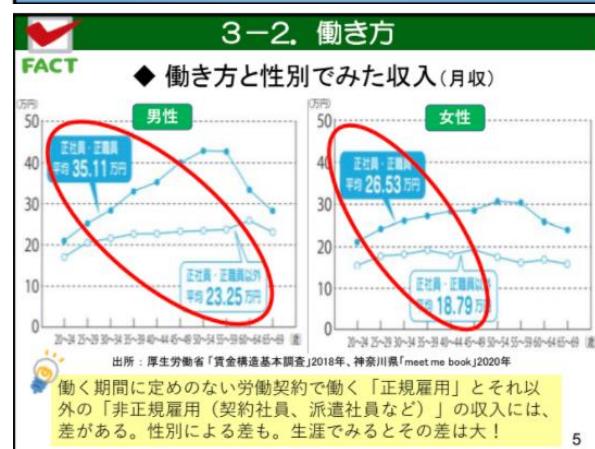
無意識の偏見 = アンコンシャス・バイアス

- 「過去の経験や習慣、環境から生じる、自分自身が気づかずに持つ偏った見方・考え方」
(行動経済学者ダニエル・カーネマン)
→直感、自動的、無意識的な思考が間違いを犯しやすい
- 【例】アメリカトップ5オーケストラの団員選抜
 - 1970年代女性奏者割合=5%、2000年代=25~45%
 - 選抜方法の変更 推薦制⇒公募制かつブライアンドオーディション（ついたてをおき姿は見えず、音だけで審査）
- どのようなアンコンシャス・バイアスがありますか？



ステレオタイプとは

- ステレオタイプ = 固定観念・紋切型
 - ある集団（性別・国籍・人種・・・）に共通していつもと「思いこまれている」特徴
- 思考の節約
 - すばやく人を判断する際の手がかり
 - 情報過多な現代社会に必須
- 一方、単純化され柔軟性を失いやすい
 - 集団内でその特徴と一致しない人がいても一致するものとみなされる／例外として扱われ、ステレオタイプは維持される



ライフキャリア = 生涯にわたる役割の連なり

ライフ・キャリア・レインボーパー(Super)

- 人生における「役割」 = ライフ・ロール
 - ①子ども ②学生 ③余暇人 ④市民 ⑤労働者 ⑥家庭人
→人は人生の各時点で、複数の役割を担っている。
- キャリアサイクル
 - 1成長: ~14歳
 - 2探索: 15~24歳
 - 3確立: 25~44歳
 - 4維持: 45~64歳
 - 5衰退: 65歳~
 - =役割の重みづけは人生の時々で変わっていく
- あなたは、今、どんな役割に時間や気持ち・エネルギーを注いでいますか？
- 将来は？どんな生き方をしたいですか？
- どんなふうに「キャリア」を「デザイン」しますか？

「統合」的キャリア発達(L.S.Hansen)

- 「統合」 = 個人のキャリアを仕事だけでなく、人生の役割全体との「バランス」から考える
- 「社会共通の『善』」 = 仕事を自分の充足だけでなく社会にも役立つ意義を考える
- 「統合」に向けて…
 - ・これまでの価値観・思い込みにとらわれない
 - 例: 男女の役割（男は仕事/女は家庭）⇒共働き・男性育休
 - ・社会の変化をとらえる、優先順位、具体的な工夫も大切

【第六回 11月9日（月）4限 15:20～17:00：家庭での体験：事前学習】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生		・統括（最初・最後） ・投票作成をお願いします ・画面共有設定確認	
井上先生	共同ホスト	ブレイク内サポート	
大野先生	ホスト	ブレイクアウト操作・録画	
吉田先生		ブレイク内サポート	
鈴木先生			
細井さん		出欠確認	
喜多村	共同ホスト	・ファシリテーション	
SA 古居	共同ホスト	ブレイク内サポート	
SA 土川	共同ホスト	ブレイク内サポート	

●出席者 14名

●実施内容

14:30～	事務局最終確認	<p>事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定</p> <p>15:20～：事前開放 ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す</p>
15:30～ 15:40	イントロ&アイスブレイク (10分)	<p>●録画開始 ●前回の振り返り 投票の設定（荻野先生お願いします）</p> <p>【問1】 保育園の先生から急な呼び出し「午後3時までにきてください！」 ママはクライアントとの会議・パパは月末の役員会議</p> <p>回答選択肢 ・ママがクライアントとの会議を変更 ・パパが上司に相談し、役員会議を欠席 ・お迎えの代理をお願いする</p> <p>【問2】 ママに海外赴任の話が会社からありました。 パパであるあなたはどうしますか？</p>

		<p>ママであるあなたはどうしたいですか？</p> <p>回答選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパが会社を休職して家族で帶同する ・ママが海外赴任を断る ・ママだけ単身で赴任・パパと子どもは日本に残る ・ママと子どもたちで海外赴任・パパは日本に残る <p>【問3】</p> <p>パートナーが子育て環境を理由に地方へIターンを希望 収入はこれまでの半分</p> <p>回答選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入＆キャリア維持のため、片親だけ単身赴任または2拠点生活 ・両親とも子育てを優先、転職、家族で移住
15:40～ 16:10	動画ワーク (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシート Google ドライブ チャットへ共有 ※個人ごとに作成 ●動画視聴方法解説 (10分) ●両立のイメージ 帰宅後のイメージ ↓ ●①帰宅シーン 1:45 ↓ 感想をチャット ●②夕食シーン 3:40 ↓ 感想をチャット ●③お風呂シーン 3:30 ↓ 感想をチャット <p>感想シェア 10分</p>
16:10～ 16:40	子どもとの共通 体験を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ●説明：5分 ●個人ワーク 5分 ↓ブレイクアウト (グループ) ●グループワーク 15分
16:40～ 16:50	次回実習について	<ul style="list-style-type: none"> ●スライド表示

【振り返り】

- ・動画視聴ワークは、兄弟の関わりについてもしっかりと見ていて、感想にも反映されていた。思いの外積極的に見て感じ取っていたことがわかった。

- ・グループワークについては、やることについては理解しているが、未だにドライブに入り方が分からずの学生がおり、引き続きフォローが必要。
- ・学生自身が子どもだった頃のことを思い出しながら、グループワークをしていた。いい機会になっていたと感じた。
- ・二つのご家庭担当になっていたため、複数企画を準備していた。家庭ごとではなくみんなで一緒にできるようにアドバイスをしたところ、いい企画となった。
- ・次回「インタビューしなければならない」というプレッシャーがあるように見受けられ、楽しいところまで行けていないことが残念。
- ・あるグループでは、お互いに、「実習の時に欠席する？参加するよな？？」というやりとりがあり、気になっている様子が見受けられた。グループ内でのさらなるコミュニケーションの醸成やコミュニケーション手段の確立などが必要。時間内にグループワークは実施しており、実習内容は決めていた。
- ・タイムラインってなんですか？という質問があり、言葉の使用に気を付ける必要がある。
ディスカッション時間が短いから詰めまで行かない。持ち帰りが必要となったが、それぞれがそれなりにやっていた様子。ディスカッション時間に再考が必要。
- ・子どもたちがどんなことに楽しいと感じるのか想像がつかないようだった。お稽古となどもやっている子が多いのでは？などと投げかけると、アイディアが膨らみ始めてグループワークを進めることができた。ちょっととしたヒントが必要だったが、最終的には心配なく実施ができた。
- ・オンラインでの実習ということもあり、子どもと接するので難しいのでは？と不安な様子。
グループワークが進む中、欠席者への対応に苦慮する。
- ・授業であることから一定数、単位認定を目的として受講を決めた学生の存在と、真剣に授業テーマに共感し取り組んでいる学生と目的が異なっていることを感じる。欠席した学生が及ぼすチームへの影響を考えると、単位をもらうことを目的にしている学生には、なんらかさらなるペナルティもしくは拘束力があっても良いのではないか。
- ・事前のアナウンスで、グループワーク形式であること、実習があることは伝えているが、モラルの問題であり、欠席することが周りに対してどのような影響を及ぼすのか、また欠席する際の連絡などのマナーも伝えて行く必要がある。
- ・授業前半から、積極的にグループでの時間を見る必要がある。また、日頃の連絡手段を決めて、コミュニケーションを持つように促す必要がある。手段としては、大学のメールアドレスやLINEの交換など。欠席者を補完する意味でも、学生同士の連絡手段が必要。
- ・オンライン授業は学生自身に計画性が求められ、セルフマネージメントが求められているが、一部学生はオンライン授業に疲れてきている印象を受けている。
- ・出席をしている学生を見ていると深い視点でのFBを得ていて、授業自体は良いものを感じている。

【授業 PPT の抜粋：第六回】

答えのない問題

Sourire

【問 2】

ママに海外赴任の話が会社からありました。

パパであるあなたはどうしますか？
ママであるあなたはどうしたいですか？



© sourire All Rights Reserved.

こんなこと、思っていませんか？

Sourire

「3歳までは、母親がみていないと、子どもの発達に影響がでるのは？」

⇒家庭の保育は「量より質」

【平成 16 年 厚生労働省研究班 5年間の追跡調査】

- 1998年から毎年、全国の夜間保育約 8 0 リ所の園児 3,000名前後の発達調査と親のアンケートを実施。
- 9 8 年と 2003 年の両調査に回答した 185 名の発達と保育時間、育児環境等の関連を分析。
- 保育時間の長さではコミュニケーションや運動発達の差はない
- 「家族で食事する機会」によって、コミュニケーションなどの差が生まれた



© sourire All Rights Reserved.



Sourire

【どんなことが起こっていましたか？】



食事の支度の工夫は？



電子レンジで温めても、離乳食の作り方は？



しょうくんは、どうやってごはんを食べている？



りーちゃんは、どんなお話ししていた？

人と仲良くなる 3 原則

Sourire

① 関心を持つ

② 共通点を見つける

③ 共通の体験をする

© sourire All Rights Reserved.

両立を取り巻く社会の考え方

Sourire

【キャリアについて】



母親が育児休暇・
時短勤務を取得するべき
キャリアを築く必要がない

父親は仕事を第一に
考えるべき
昇進を意識、管理職になる

© sourire All Rights Reserved.

「共働き」と一言で言っても、状況は様々

Sourire

【自分の特徴】

- キャリア・スキル
 - 体調・年齢
 - 値観
- キャリアへの考え方
-子育てへの考え方
-金銭感覚

【子どもの特徴】

- 性格
- 発達
- 人数

【サポート環境】

- パートナー
- 両親・親戚
- 会社
- 地域/サービス

「共働き」という画一的なものが
あるのではなく、環境因子を考える事が重要

© sourire All Rights Reserved.

双向のオンラインを使って子どもと遊ぶ

Sourire



▲オンラインシッターサービスKID'S LINE



▲親子でオンライン体験フェス 株ガイアックス



くぼたまさとさんと
ワクワクオンライン
工作教室

▲オンライン工作教室 Asovivit

共通の体験をつくる

Sourire

きいろのもの
を探して持つ
てきて！



【色さがしゲーム】
お家の中にある物を持ってこよう！

折り紙



「は～」っていうゲーム
→一緒に体験で仲が深まる
→子どもを取り巻く環境・家での教育が見える

© sourire All Rights Reserved.

【第七回 11月 15日（日）第1回実習 10:00～11:30】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生		ブレイク内サポート	
井上先生	共同ホスト	ブレイク内サポート	
大野先生	共同ホスト	録画ブレイク内サポート	
吉田先生		ブレイク内サポート	
鈴木先生			
SA 古居	共同ホスト	ブレイク内サポート	
喜多村	共同ホスト	全体ファシリテーション	
小松原	ホスト	ブレイクアウト操作・録画クラウド	
伊藤・由上	共同ホスト	ブレイク内サポート	

●出席人数 14名

●実施内容

9:00～	事務局最終確認 最終確認	事務局最終確認 ●事務局自己紹介 ～大学・スリール ～ご家庭 ～流れの確認 役割分担、出席者確認 ●ホスト：共同ホストに設定 9:50～：事前開放 ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
10:00～ 10:10	イントロ& アイスブレイク (15分)	●録画開始（神大）※手が空けば撮影 ●出欠確認（大野先生） ●アイスブレイク（5分） <ブレイクアウト：最初は学生・ファシリだけ> 一チームごとに分かれてチェックイン 今日ご家庭との話で必ず聞いておきたいこと ※家庭は、メインルームで待機 ●本日の流れを確認（5分）
10:15～ 11:05	家庭ヒアリング (50分)	●録画開始（スリール） ●家庭情報共有 ブレイクアウト（50分で設定）

		<p>ブロードキャスト</p> <p>—学生自己紹介</p> <p>—ご家庭から、1日のタイムライン&モチベーション グラフ ※学生もしくは先生方、画面共有をお願いいたします</p> <p>—学生からご家庭に質問</p> <p>残り 10 分（ブロードキャスト）</p> <p>—お子さんとの体験実習に向けてのヒアリングを始めてください</p>
11:05～ 11:25 (20 分)	振り返り ご家庭より感想	<ul style="list-style-type: none"> ●ご家庭より感想 一言 ●学生より一言 ～印象的だった話～
11:25～ 11:30	次回について	<ul style="list-style-type: none"> ●スライド表示 ●同意書確認

【振り返り】

A チーム・C チーム：

3 家庭の話を聞けて結果よかったです。バリエーションが聞けたこと、学生も各自が聞きたいことを聞くことができた。メンバーが欠席になり実習がひとりになることを不安がっていた。学生がよく理解できていたと感じる。ヒアリングもうまくいった。

B チーム：関心が就職活動だったが、ご家庭から地域のサービスや、マミートラックのキャリア支援になってしまったリアルな話が聞けた。シッターハウスのヒアリングで、時間が足りなかつたが、ヒアリングの内容から鬼滅の刃などの話で、組み立てられそうだと実感を得ていた。

D・E チーム：今回は、自分たちで効率的に進めることができていた。本来 1 チームで使える時間が 2 チームであり、時間配分が困難であったが仕事の話を中心に多くの質問ができていた。男子学生が多くいたからか、ワンオペの話などは興味ない様子だった。

G チーム：質問の準備をした上で、臨んでいた。自分の質問を広げるという部分はできていなかつたが、ご家庭の話をよく聞いていた。結婚・家族についての話となつた。結婚・子どもを希望している学生と、結婚を希望していない学生があり、結婚願望ない学生が父親の位置を知りたいとの質問が出て、なぜなのか深掘りしたいと思った。コロナの影響や、待機児童についてなどの話も聞いていた。ポケモンの話などで盛り上がっていた。

H チーム：男子学生 3 名、大人しい雰囲気で最後まで固いまま終わつたのが残念。2 家庭の幅広い話が聞けたが時間がもつと欲しかつた。学生の質問としては、仕事やキャリアの質問もあつたが、子どもとの関わり方や朝の忙しい中でのやりとりなど生活目線での質問が多かつた。お子さんについてのヒアリングに進むのが早かつた。学生に得意なことがあるか聞いたら、陸上やっていた、動物が好き、塾でバイトしているなど、お子さんに自己紹介していく、お子さんも興味を持っていたので、次につながる。

テレワークをされている方がいらして、オンラインで仕事をすることについて、単身赴任についてなど。パートから正社員から課長までキャリアアップされたという話もあつた。

海外に興味のあるご家庭だと、そういった方向にも話題が広がっていた。ヒアリングもちゃんとできていた。ポケモンやベイブレードなど、話のきっかけがあるのがよかったです。それ以外のチームは、うまく進んでいたように感じた。

【授業 PPT の抜粋：第七回】

【1日目】家庭ヒアリングの進め方

Sourire

9:00~ 顔合わせ

10:00~【全体】導入・ご家庭紹介

10:10~
【各ご家庭毎】ヒアリング

11:10~【全体】共有・振り返り

実習家庭8名

各ご家庭のブレイクアウトルームに移動後の流れ

①ご家庭からのお話し（10分）
・自己紹介：現在の状況 ※1日のタイムスケジュール使用
・自分の3大イベントについて ※モチベーションシート使用

②学生からの質問・深堀りに回答（40分）
▶学生は、質問したい方を指名していいこと、大変なこと工夫していることなど率直にお話しください
質問を投げかけてください

③お子さんについてヒアリング（10分）
→2日目のオンラインシッターハウス体験に向けて

意識してお話ししていただきたいこと
・お住まいの地域ならではの、子育て支援や子育てサービス、育児に関する機関・保育園・小児科など
・お仕事について
・ご自身のキャリアや価値観について

© Sourire. All Rights Reserved.

チェックイン

Sourire

各チームブレイクアウトに分かれます！

＜テーマ＞
今日期待すること
今日必ず聞いておきたいこと

5分

© Sourire. All Rights Reserved.

ヒアリングの進め方

Sourire

ブレイクアウト：学生ペア+実習家庭+メンター家庭

学生紹介：1分×2名

▶名前・学部・得たいこと

家庭紹介：5分×2名

▶お名前・家族構成・タイムライン
▶モチベーショングラフより、自分の3大イベント

ヒアリング：30分

▶学生は質問したい方を指名して質問を投げかけてください

お子さんについて：10分

© Sourire. All Rights Reserved.

振り返り

Sourire

【言葉にしてみよう！】

「仕事」「家族・愛」「学習」「余暇・地域」
話を聞いてみて、印象的だったことは？

© Sourire. All Rights Reserved.

実習計画

Sourire

共通体験計画と準備 29日実習日までに！

お子さんの特徴 年齢〇〇歳 あだ名：〇〇ちゃん

共通体験計画シート

①ペアの目標、②分担、③時間配分、

タイムライン 実施内容 必要なもの 担当

© Sourire. All Rights Reserved.

【第八回 11月16日（月）4限 15:20～17:00 第1回実習振り返り～統合の視点を意識しながら】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生		統括（最初・最後）	
井上先生	共同ホスト	ブレイク内サポート	ブレイク中にAチームと話をしていただけですか？
大野先生	ホスト・録画	ブレイクアウト操作	ワークシート画面共有入力
吉田先生		ブレイク内サポート	
細井さん		出欠確認	
喜多村	共同ホスト	ファシリテーション	
SA古居	共同ホスト	ブレイク内サポート	Aチームメンバー参加
SA土川	共同ホスト	ブレイク内サポート	

●出席人数 17名

●実施内容

14:30～	事務局最終確認	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定 15:20～：事前開放 ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
15:20～ 15:35	イントロ (15分)	●録画開始 ●評価・履修についての説明（荻野先生） ●今後のチームの確認
15:35～ 16:05	実習の振り返り（30分）	●アイスブレイク（5分）ブレイクアウト ●ステップアップシートへ記入（10分） ●全員一言共有 ●まとめ 両立家庭について
16:05～ 16:20	チームで実習確認（30分）	●グループワーク：15分 ブレイクアウト ※Aチーム Cチーム 喜多村
16:20～ 16:40 (20分)		●全体ワーク（2問）ワークシート記入&共有（大野先生） 設問1：公園で砂場遊びをしよう♪と誘ったら 「砂場遊びはイヤ！」と言われた

		<p>Q. 子どもがそう思った理由・背景は? 設問2: 2歳の女の子 ママからなかなか離れません Q. 子どもがそう思った理由・背景は?</p>
16:40～ 16:50	次回実習について	<ul style="list-style-type: none"> ●課題について 大野先生 ●実習について 喜多村
16:50		荻野先生

【振り返り】

- ・実習の振り返り～次回のお子さんとの関わりについての時間の中で、議論が活発化し、具体的な進行や時間配分まで意見を交わしていた。
- ・オンラインでのコミュニケーションということもあり、子どもとどのように仲良くなればいいのか？検討したプランで子どもが乗ってくれるのか？といった話があった。
- 準備を複数しておくことをアドバイスしたが、学生の中からはオンラインをつなぐときのポイントとして画面に顔が映る際の明るさや表情などにも気をつけた方がいいという話が出た。オンラインだからこそその観点であり共有したい。
- ・子どもとの接点があまりない学生は自己紹介の方法から検討、意見交換を始めていた。学生からの開示が必要ではないかとアドバイスをした。
- ・先日のヒアリング情報からお子さんが好きな動物を使ってクイズを検討しているグループがあった。子どもに合わせ、間違い探しや絵しりとりなど遊び方を検討していた。
- ・チームによってはサンプルを準備して画面共有するなど具体的にディスカッションが行われていた。
- ・役割分担も検討して、次回に向けて、時間配分、自己紹介の内容なども具体的に計画しているチームがあった。チームで検討する意義もあるが個別担当を決めて準備をするやり方をとっているチームがあり、少し残念ではあったが、チームで決定して進めているので承知した。

【授業 PPT の抜粋：第八回】

「共働き」と一言で言っても、状況は様々

Sour ire

【自分の特徴】 × 【子どもの特徴】 × 【サポート環境】

●キャリア・スキル
●体調・年齢
●価値観
-キャリアへの考え方
-子育てへの考え方
-金銭感覚

●性格
●発達
●人数

●パートナー
●両親・親戚
●会社
●地域/サービス

仕事と育児の両立の【壁】を知って、どんなサポートが必要かを考えよう！

© sourire. All Rights Reserved.

巻き込みながら家庭を作ることが大切

Sour ire

☆こどもは、ママパパの笑顔が一番☆
～人やモノ、会社を巻き込みの家庭にあったサポートを検討、拡大家族を～

【親・親戚】
【ベビーシッター】
【家のアウトソース】
【家電】
【働き方】

© sourire. All Rights Reserved.

まとめ

Sour ire

「共働き」という画一的なものがあるのではなく、環境因子を考える事が重要

【自分の特徴】
【子どもの特徴】
【サポート環境】

パートナー
子ども

© sourire. All Rights Reserved.

子どもの行動▶背景を考えるワークショップ

Sour ire

3歳の男の子
公園で砂場遊びをしよう♪と誘ったら
「砂場遊びはイヤ！」と言われた

Q.子どもがそう思った理由・背景は？

みんなで考えてみよう

© sourire. All Rights Reserved.

【11月23日（月） -課題1- オンデマンド形式での課題実施】

中間課題として設定した課題I「多様な働き方：—「MEET ME BOOK」から考える「なりたい姿と今できる一歩」の準備—」について報告する。

1. 目的

課題Iでは、神奈川県のライフキャリア教育支援教材「MEET ME BOOK」を用いて、学生がこれまでの講義内容やグループワーク、実習（社会人へのインタビュー、第1回家庭体験）での学びを改めて整理すること、「MEET ME BOOK」に掲載されている他者をモデルとし、キャリアから学び、さらに理解を深めることを目的として実施した。

2. 課題への取組みと成果

具体的には、上記「MEET ME BOOK」に掲載されているモデルから1名を選び、ライフイベントとキャリアの接合や日常生活の実践を、4領域に振り分けて分析させた。それをもとに「ジェンダー問題がどのように関わっているか」、「ワークライフバランスがどのように実現されているか」という視点により、さらに4領域を「統合」して「10年後」の姿を詳しく記述することを指示した。

《以下、学生のコメントを引用》 -----

・私が選んだAさんはAさんご自身でクラブを立ち上げていますがご自身が立ち上げたクラブが地域と子ども（愛・家族）との繋がり（統合、関り）をつくっているのと同時に、専業主夫の仕事である家事と育児に行き詰ったとしても、このクラブが息抜きをさせてくれる場となっているということが分かりました。そして、このクラブは参加されている他の人のためになっているだけでなくAさんご自身のためにもなっていること、Aさんにとっても大切な存在であるということがワークライフバランス実現のための重要な部分の一部なのではないか気付きました。（モデルの名前を匿名化している）

・Bさんの人生背景とワークライフバランスも考えた上で、私のワークライフバランスを考えると就職が重要になると思った。家族を金銭面から支える為にも、就職をしてから家族を持つというライフにつながると考えた。就職活動は今日の前の事だけのように感じるが自身の今後の人生に大きく影響すると感じた為、今行っている就職活動は今後の家族を持つというライフのことも視野に入れより一層力を入れようと思う。今までワークとライフのバランスを考えた事がなかったが、就職活動真っ盛りな今考えることによって、就職先の事業内容、福利厚生など見る項目の視野が広がった。（モデルの名前を匿名化している）

学生はこの課題の取組みを通し、家族や周囲の人々以外の様々な社会人モデルのキャリアとライフに触れることができ、自分自身の将来を考える上で意義深い取り組みとなったようだった。また4領域が個人のライフとキャリアにおいて独立したものとして存在しているのではなくて、それぞれに関連していることを学び取ることができた。そして就職や妊娠・出産、子育てなどのライフイベントに直面した際に、家族や個人によってワークライフバランスが意識され、合理的な選択がなされながら、主体的に人生の歩みをすすめていることを認識できていた。

3. 今後の方向性

上記のとおり、学生は他者のキャリアを分析しながら、自らのキャリアへの考えを深めていくことができた。しかし4領域の重なり合いや「統合」をどのように考えるかについて、更なる情報提供や指示のスマールステップが必要のように思われる。例えば、講義時間内に行う課題説明の際に、具体的に「MEET ME BOOK」の中からモデルを1名選び、クラス全体で実際に分析し「4領域シ一

ト」に書き込むという作業が考えられる。これにより「統合」を考えるための具体的なヒントが提示され、学生たちの取り組みやすさの向上やキャリアに関する視野の広がりが可能となるだろう。

参考：神奈川県ライフキャリア教育支援

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/fz3/cnt/f532110/uni.html> (最終取得 2021 年 1 月 14 日)

＜課題内容＞

受講生のみなさん

全 12 回の授業もいよいよ後半に入りました。最終発表に向けて、あなた自身の「なりたい姿」と「今（大学生活の中で）できる一歩」の準備に取り掛かりましょう。この課題 1 では、神奈川県のライフキャリア教育支援教材「MEET ME BOOK」を用いて、これまでの講義やグループワーク、実習（社会人へのインタビュー、第 1 回家庭体験）を通して学んだことを整理し、さらに理解を深めていきます。

「MEET ME BOOK」とは？：神奈川県が作成している大学生向けライフキャリア教育支援教材です。ライフキャリアについて考えるきっかけとなるように、様々な職業や生き方を選択した社会人の皆さんのライフキャリアが紹介されています。以下の URL からアクセスし、目を通してください。

「MEET ME BOOK データ編」

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/47546/meetmebookde-ta202003.pdf>

「MEET ME BOOK ロールモデル編」(vol. 1)

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/47546/917487.pdf>

「MEET ME BOOK ロールモデル編」(vol. 2)

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/47546/2019role2.pdf>

神奈川県 大学向けライフキャリア教育支援

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/fz3/cnt/f532110/uni.html>

※締切は 1 月 7 日（月）23:59

※「提出フォーマット」に書き込み、dot キャンパスから提出してください。

<word 様式>

所属・お名前

1. ① 「MEET ME BOOK ロールモデル編」 (vol. 1、vol. 2) の中から3人選んでください。共感した人や関心を持った人だけではなく、「なぜこのような選択をしたのか気になる」人や「わたしの描く生き方とは違うけどなんだか楽しそう…！」な人も、ぜひ選んでみてください。

✓ 選んだ人：①_____ / ②_____ / ③_____

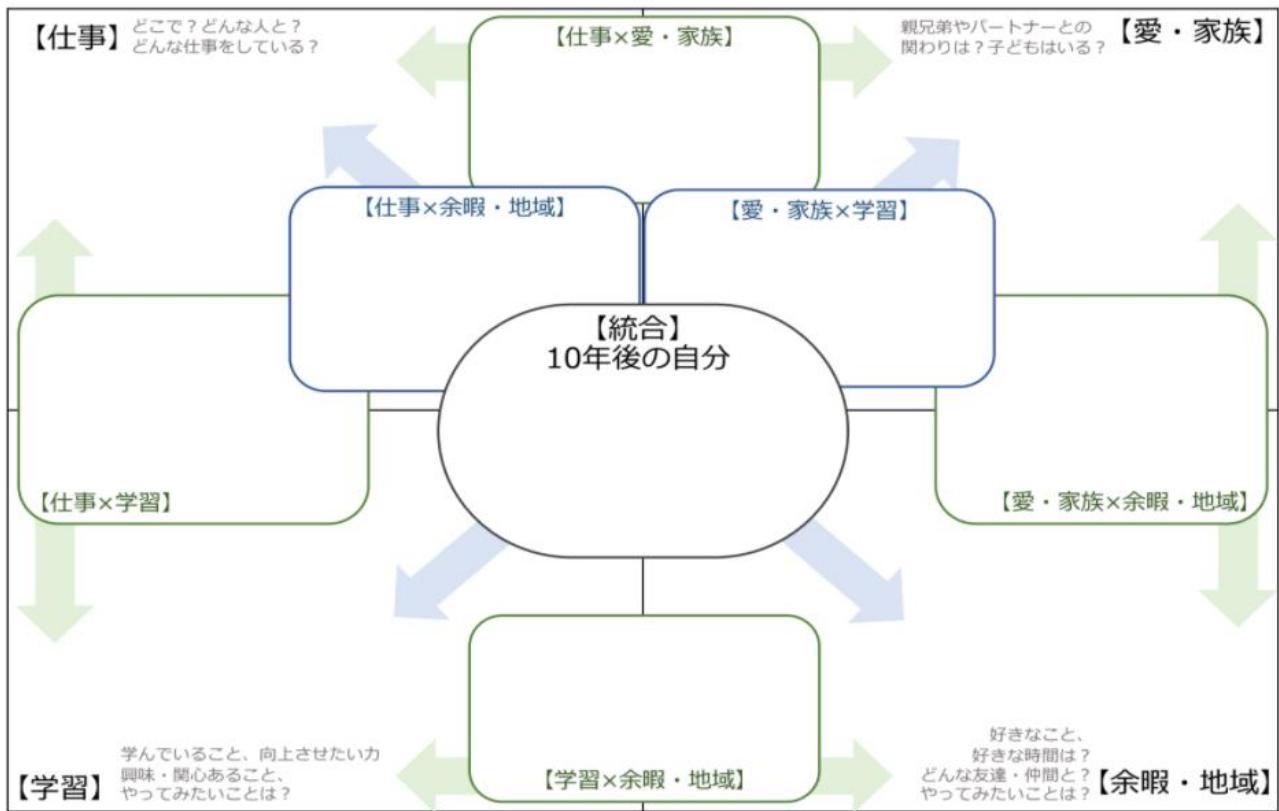
② ①で選んだ人の中から1人選び、以下の「4領域シート」に書き込みながら、整理してみてください。 選んだ人：

【仕事】 どこで？どんな人と？ どんな仕事をしている？	親兄弟やパートナーとの 関わりは？子どもはいる？ 【愛・家族】
【学習】 学んでいること、向上させたい力 興味・関心あること、 やってみたいことは？	好きなこと、 好きな時間は？ どんな友達・仲間と？ 【余暇・地域】 やってみたいことは？

- ③ 下の図のように4領域で重なる部分を意識し、書き込んでください。

考えるヒント：8回目の授業内容を振返ってみよう

- ✓ ライフイベントにジェンダー問題がどのように関わっているでしょうか。
✓ ワークライフバランスがどのように実現されているでしょうか。



2. 書き込んだ「4領域シート」を見て、ワークライフバランスの実現のためにどのような工夫がなされていると考えますか。あなた自身のワークとライフのバランスについても考え、気づいた点をまとめてください。 (800字程度)

【第九回 11月 29日（日）10:00～11:30 第2回実習】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
井上先生	共同ホスト	G ブレイク内サポート 冒頭挨拶・録画	
大野先生	共同ホスト	B ブレイク内サポート・録画・出欠確認	
吉田先生	共同ホスト	E ブレイク内サポート	
鈴木先生	共同ホスト	H ブレイク内サポート	
SA 古居	共同ホスト	D ブレイク内サポート	
喜多村	共同ホスト	ファシリテーション	
伊藤	共同ホスト	A ブレイク内サポート	
由上	共同ホスト	C ブレイク内サポート	
小松原	ホスト	ブレイク設定他	

●出席人数 16名

●実施内容

9:30～	事務局最終確認	<p>事務局最終確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事務局自己紹介 ～大学・スリール ～ご家庭 ～流れの確認 <p>役割分担、出席者確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホスト：共同ホストに設定 <p>9:50～：事前開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
10:00～ 10:15	イントロ& アイスブレイク (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ●録画開始 ●本日の流れを確認（5分） <ul style="list-style-type: none"> ●出欠確認（大野先生） ●アイスブレイク（5分）<ブレイクアウト：ご家庭はホストで待機> <p>—チームごとに分かれてチェックイン 今日やることの確認</p>
10:15～ 10:40	共通体験 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> —学生自己紹介 —お子さんの自己紹介 —共通体験を実施 <p>残り5分（ブロードキャスト） —終了まで残り5分です</p>

10:40～ 11:10 (30分)	振り返り ご家庭より感想	●各チームご家庭より一言 →ヒアリングの感想 印象的だった質問など →子育て体験の感想 お子さんの様子や感想 ●各チーム学生より一言 →印象的体験 うまく行った点・もう少し工夫が必要だった点
11:10～ 11:20	ステップアップシート記入	
11:20～ 11:30	次回について	

【振り返り】

<ご家庭・学生からのコメント>

Aチーム

ご家庭

板谷さん：色々と工夫してくださって、クイズとか質問とか年齢に合わせて工夫してくださった。恥ずかしがり屋だけど、楽しめるようにしてくださっていた。大学生との関わりがよかったです。

佐倉さん：（お子さん）なぞなぞが楽しかった！またやりたい！（お母さん）オンラインだけど工夫してくださっていた。意外にもこのようつながりができると新たな気づき。

学生

A クイズそれぞれみんなで用意してきた。お子さんがすぐにといてしまったけど。お子さんとコミュニケーションが取れて楽しかった。

B クイズを出した後、お子さんからもクイズを出してもらった。年齢差のある兄弟だったけど、お兄ちゃんが弟に声かけをしてくれていて、小さい子供と話す機会がないので、良い時間だった。お互い楽しい時間が過ごせた。

Bチーム

ご家庭

矢板さん

盛り上がって楽しんでいた。子どもたちも楽しんでいた。

学生

A お子さんに鬼滅の刃の話をたくさんしてもらって楽しんでもらったので、よかったです。

B ピアノを引いてもらったり、好きな鬼滅の刃の話をしてもらったりして、楽しかった

Cチーム

ご家庭

増田さん

色々ゲームを用意していただきて、子どもも楽しんでした。

学生

A ちょっと難しいなと思っていたけど、楽しんでもらえてよかったです。バイバイできなくて残念。

（うまく行かなかった点）ポケモンがたくさんいて、お互いわからないポケモンもいて、戸惑った。オンラインゲームを使ったが、レベルに合わせればよかったです。

B 子供とコミュニケーションが取れてよかったです。

D チーム

ご家庭

浜田さん：2つゲームをやった。娘1人にしたけど、楽しそうな声が聞こえてきてよかったです
お子さん：しりとりが楽しかった。自分のおうちのものでしりとりしたのが面白かった

学生

A 遊びの進行をやった。説明がうまくできなかつたが、お子さんの方が汲み取ってくれて楽しんでもらえてよかったです。

B 短い時間だったか、とても楽しめた。パワーをもらった。

C ゲームを考えているときに、楽しんでもらえるか心配があつたが、画面の前から飛び出して探してくれている様子を見て、楽しんでもらえてよかったです。

E チーム：

ご家庭

出口さん：楽しかった！前回のときにヒアリングをしてくださったときに子どもが好きなものを持ってきてもらったので、子供が楽しんでいた。リアルじゃないと難しいのではと思っていたが、オンラインでも楽しんでいたので、こういうのもできるのだなと思った。

学生

A 2人とも物知りで、こちらが教えられた。コミュニケーションの取り方も、大変だけど楽しくて良い時間を過ごせた。

B 実際会ってみないと難しい部分もあるのかなと思っていたけど、画面越したと色々工夫が必要なので、こういうのもいいのかなとも思った。でもやっぱりリアルで会ってみたかった。

G チーム

ご家庭

坂口さん：間違い探しをして、楽しかった。またやりたいです！

（お母様）事前にポケモンが好きという話をしていたので、ポケモンのゲームを用意してくれたのがよかったです。

学生

A 画面共有ができなくて、事前に用意していた問題を提示できなくて、残念。お子さんからクイズを出してもらって、楽しい時間を過ごせた

B 画面共有がうまくできなくて、グダッつてしまったところもあったけど、楽しめた。

H チーム

ご家庭

岩代さん：この環境の中で、やれることが限られていた中、動物クイズと、間違い探しで、とても盛り上がっていた。クイズの中で豆知識を教えてくれたり、難易度のコントロールしてくれたりしていただいてよかったです。

太田さん：簡単なものから難しいものまで、選ばせてくれたり、私もびっくりの動物の知識を教えてくれたり、子供も前のめりで楽しんでいた。

（お子さん）クイズとか間違い探しとか、とても楽しかった！

学生

A 個人的な感想としては反省が残る。視覚に凝つたが、沈黙が続いてしまうということもあったので、もっと話せることを用意しておけばよかったです。

B 画面共有のためにスライドを用意したが、解くのが早くて、たくさん用意しておいてよかったです。

<振り返り>

A チーム：お子さんのやりたい方を聞くといっていたが、オンラインだとそれは難しいと伝えた。

最初はバタついたが、オンラインでも遜色なくお子さんとの関わりができると感じた。8才のお兄ちゃんが4才の他の家庭のお子さんにも話しかけていて、よかったです。あだ名で積極的に話しかけ、オンラインだからこそ打ち解けようと努力していた。

学生もお子さんに「頭いいな～」など子どもの心をつかむような対応で積極的に話しかけていた。着実にやってきた学生にとっては、参加度の低いチーム内の学生がうまくやっているのを見て感じることもあると思われる。

B チーム：1名通信機器のトラブルで、参加が遅れた。携帯のトラブルだったため、連絡先の交換はしていたものの、連絡が途絶えてしまうという物理的な問題が生じてしまった。参加できる状況を自ら作り時間には遅れたが、途中から参加することができた。実習準備がよくできていたので巻き返すことができた。もう一名の学生が先に開始していたが、指示もうまく、シルエットクイズなども画面越しでうまくできていた。一方で、子どもの温度感を画面越しだと掴みきれなくて、そのあたりは難しい。お子さんが若干飽きているような雰囲気もあるが、学生が読み取れていないかなと感じる部分もあったことが残念。リアルであればこのような雰囲気もキャッチできるのではないかと感じた。

ヒアリングの際に、ピアノが得意であると聞いていた。お母さんから促していただき、お子さんがピアノを弾いてくれて、学生が「すごいジャン」と声かけをしていた。このような関わりも良かったです。

C チーム

オンラインのゲームを利用したポケモンクイズとキャラクター探しのゲーム。

森の中のポケモン探しが、想像していたように進められなかったが、学生が工夫をして、やり方を変えて、お子さんの温度感も感じながらできていた。お子さんが、画面越しにおもちゃを見せていくところに、気づくことができずに関わることができなかつたことがあった。リアルだとわかる部分が、オンラインだと気づけないという部分もあった。

1人の学生は、ポケモンを知らないので、得意不得意があると、得意な方が関わりやすく、不得意だと関わりにくさを感じる。チーム内での調整やコミュニケーションが必要であると感じた。

終了時間になって、お子さんは最後バイバイが残念だと、言ってくれていたことから、いい時間になつたのではないかと感じた。

お子さんとの関わりの中で、既成のオンラインゲームを使用することの可否は検討事項である

D チーム

お子さん1人で親御さんが離れた状態で参加していたが、お子さんの受け答えもしっかりしていたので雰囲気よく進めることができていた。ゲームは、2種類を実施。

最初のゲームは1人が思い浮かべたものに対して、質問を繰り返して、何を思い浮かべているか当てるゲーム。

2つめは、うちの中のものを使用したリアルシリトリ。オンラインだけどアクティブで、動き回ってできて、お子さんも楽しんでいる様子が見受けられた。

Aさんが進行役で、リアクションが良く、明るく話しかけていたのが、打ち解けやすくて良かった。

Bさんは時間管理などのサポートをしていて、携帯タイマーを画面にしっかりと見せて、声かけをするなどわかりやすく楽しみにやすい環境を積極的に作っていた。

Cさんは普段大人しく、授業参加度も低いため心配していたが、お子さんを前に積極的にそして一緒に楽しんでいた。Cさんは普段のグループワークなどではやりにくそうにしていたが、Cさん自身もやりにくさがなくできていた。

E チーム

ヒアリング時にお子さんの興味が専門的であることがわかつてていたので、絵や写真を見せて当たり、お子さんはその場で書いて見せたりしながら、お互いに深い関わりになっていた。魚のことについても、戦国時代のことについても、昆虫の話にしても、とても詳しく専門的な内容話で盛り上がっていた。学生の準備も巧妙でお子さんたちの方が、そこに乗り、兜を持参し学生にクイズを出すなど、盛り上った。

元気なお子さんであったから、オンラインでのコミュニケーションに心配があつたが、学生がアクションをすると、お子さんから反応があり、学生がお子さんの次の行動を待つなど、慣れないながらもお子さんのテンポに合わせて行動をしていた。

オンラインだから、一方的に情報を出していこうとする学生がいたが、オンライン上だからこそ表情や声のトーン、間の取り方など気を付ける必要があると気づいた。

兄弟がいる場合年齢への配慮が必要となる。

G チーム

画面共有ができないなどトラブルはあったものの、うまくお子さんとのコミュニケーションができた。また、学生の内1名が学童サポーターをしておりお子さんの扱いには慣れていたよう、最初の自己紹介の段階から盛り上がっていた。

実施内容には多少の工夫や配慮が必要な部分も見受けられたが、柔軟に対応しながらお子さんと関わることができていたことが印象的。

最後は、お子さんたちから、大学生に伝えたいことが出てきて積極的に画面の前にものを持ち出すなどして見せてくれた。画面越しにお互いの部屋の様子を伺いながら話すシーンもあり、楽しい時間となった。最後には名残惜しい様子も見受けられた。

H チーム

準備を率先してやっていた学生が欠席となり、他の学生が慌てていた。連絡手段を持ちチームメンバーと欠席のやりとりをするなどのマナー周知が必要。

出席した学生は、お子さんとのやりとりもスムースで、それぞれが準備してきた遊びを実施。難易度の段階を作ったり、当たったところを示したりなどの配慮もあり、子どもたちがいい反応をしていた。

3名で準備してきたが、2名で実施したため最後時間が余ってしまったが、学生が飼っている猫が画面に映り込み、猫の話をして柔軟に場を過ごすことができていた。

学生1名が、緊張からか画面に映る表情が固かったことが残念であった。

画面の明るさ、表情にも心使いが必要

【受け入れ家庭より】取り組みに対するご意見・感想

学生にとってはあまり想像がつかない生活に触れられる機会があることは、今後のキャリアプラン作成の1つの材料としてとても重要と感じますので、ぜひこの取り組みを続けて欲しいと思います。学生のインタビューを受けてみて、事前の交流がない分、学生にとってはこちらから提出するシートが質疑応答のベースとなるので、もう少し夫婦の時間軸や、お互いの時間の使い方を表現できるように工夫して記載できればよかったですと感じました。学生と子どもたちはとても楽しく過ごしていて、画面越しでもこんなに楽しめるのだ〜！と感じました。オンラインで五感を使うというのは本当に難しいことかと思いますが、学生さんたち皆さん工夫していて、よかったです

貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。学生と子育て家庭を繋ぐという、ただでさえ難儀なことを今回はオンラインでの試みに挑戦されたこと、本当に素晴らしいと思います。子育て家庭としては、子供の予定などもあり、なかなか調整できずご負担おかけしてしまいましたが、そこも考慮して対応していただいたことに、感謝しております。この実習経験はこれから

の未来に生きるということも、経験された方からの体験談やその方の経歴を拝見し感じております。来年世の中が落ち着いていれば、リアルで学生の方と繋がれたらうれしく思います。

【取り組みについて】

自分自身が学生の時には、このような視点での情報を受ける場がなかった。独身女性でバリバリ働いている方へのOG訪問、もしくは立ち止まっての復学者からの情報だけで、社会人に入つてから選択したり諦めたりして進んできた。このような場を提供するのは、とても良い試みだと思う。

【学生のインタビューを受けて】

自分の体験が誰かの役に立てることが嬉しかった。

【大学生とお子さんとかかわる姿を見て】 大学生の方、よく頑張ってくださいました！子供たちがこんなにノリノリで遊んでいる姿を見て、とても楽しかったです。子どもたちも喜んでいました。接してくださった大学生、きっと素敵なお父さんになると思います。

取り組みについて→時代のニーズにあった素晴らしい取り組みだと思う。学生にも受け入れ家庭にも学びがある。学生のインタビューを受けて→リアルで実施していた時と比較すると、質問の内容が浅くやり取りが1往復で終わってしまうので、学生の気付きという意味では浅いまになつたしまつた可能性がありそうと感じた。大学生と関わる子どもについて→オンラインでもスムーズにコミュニケーションはとれた。子どもにも成長が見られて親としては有意義な時間だった オンラインでの実施について→前述の通り難しさはある。また、授業時間という制限があるので、例えば家庭での実習は2コマ分使うなどカリキュラムの中で柔軟に対応した方がよいのかな、と思った

今回は参加させて頂き、ありがとうございました。オンラインでの開催となり、色々とご苦労もあつたかと思います。お疲れ様でした。学生のインタビューは急遽学生3人に対して3家庭になったのですが、色々なパターンを知ることができて、学生にとっては良かったのではないかと思いました。1家庭だけだとそれが全てになつてしまうところ、様々な家庭の意見を聞けたことで視野も広がつたのではないかと思います。子どもとの関わりについては、オンラインでのゲームを中心となつてしまつたのでどこまで子供との関わりになつたかは分かりませんが、子供は楽しそうにしていたので良かったと思います。オンラインの良さはもちろんあると思いますが、オンラインだと受入家庭は参加しやすいと感じました。

【授業 PPT の抜粋：第九回】

 ①関心を持つ	 ①関心を持つ	
<p><u>子どものやっている事に関心を持つ</u></p> <p>●好きなものや、今やっていることを聞いてみましょう。 「どんなキャラクターが好き？」 「今日はどんな遊びをした？」 「学校でどんな勉強やってるの？」</p> <p>●もし好きなものが一緒なら「それ、私も好き！」など、 共通点を見つけていきましょう。</p> 	 ②共通点を見つける	 ②共通点を見つける
<p><u>共通点を見つけよう</u></p> <p>●自己紹介しよう 「わたしは～と言います。～って呼んでね。」 「～はサッカーが好きなの、～くんも好き？」</p> <p>●未就学児の場合 「～ちゃんと同じ事はあった？教えて」</p> 	 ③共通の体験をする	 ③共通の体験をする
<p><u>子どもに「先生」になってもらおう！</u></p> <p>●教えて！見せて！と子どもを主体にしよう 「学校の勉強、どんな風にやっているか教えて」 「使い方、やり方、場所、教えて」 「やって見せて！」</p> 	 共通体験の進め方	 共通体験の進め方
	<p>①学生自己紹介 ▶名前・呼ばれたい名前</p> <p>②おこさんの自己紹介</p> <p>③学生企画の体験遊びを実施 ※進行は学生のみなさんお願ひします！</p> <p>うまくいっても、いかなくとも、 楽しい時間にしてください！</p>	 

【第十回 11月 30日（月）4限 15:20～17:00 第2回実習振り返り】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	共同ホスト	冒頭挨拶	
井上先生	共同ホスト	録画	
大野先生	共同ホスト	ファシリテーション	
吉田先生	共同ホスト	ブレイク内サポート	
鈴木先生	共同ホスト	ブレイク内サポート	
SA 古居	共同ホスト	ブレイク内サポート	
SA 土川	共同ホスト	ブレイク内サポート	
喜多村	ホスト	ファシリテーション・ブレイクアウト設定	

●出席人数 17名

●実施内容

14:30～	事務局最終確認	事務局最終確認 ～流れの確認 役割分担、出席者確認 ●ホスト：共同ホストに設定 14:50～事前開放 ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
15:20～ 15:30	イントロ（10分）	●録画開始 ●本日の流れを確認（5分） 荻野先生 ●出欠確認（細井さん） ●これまでの学びの共有（喜多村）
15:30～ 16:05	体験気づき（35分）	一個人ワーク ワークシート記入学生記入（15分） 一グループワーク 記入内容をブレイクアウトで共有（6分） —10年後統合 記入（10分）
16:05～ 16:40	プレゼンテーマ設定（35分）	●解説 5分 ●個人ワーク 8分 ●共有 5分 ●プレゼンテーマ記入 8分 ●共有 5分
16:40～ 16:50	プレゼン講座（10分）	●プレゼンフォーマットの確認 →個人フォルダ内にフォーマットがあります
16:50～ 17:00	次回について	プレゼンテーションについて プレゼンテーションシート提出場所の確認 プレゼンテーションの構成

【報告】

○授業の目的と内容

第10回目の授業の目的は、授業全体及び第1回及び第2回体験実習の振り返りを行うこと、最終発表のテーマを設定しプレゼンテーションについて学習することであった。

○授業進行

- ・イントロダクション（10分）第1回から第9回までの理論および体験実習を通した実践的な学びを全体で振り返った。。
- ・体験の気づき（45分）まず授業受講前後および体験実習を経て、「4領域」（仕事、愛・家庭、学習、余暇・地域）に関するイメージや認識の変化を各自記入した。次にグループワークとして、グループ内で各自どのような変化があったかを共有し、さらに各自内容を深めた。最後に「4領域統合シート」を使い、「統合」の視点を導入することで10年後の自分自身の姿を具体的に描くことを目指した。
- ・プレゼンテーマ設定（35分）最終プレゼンテーションのテーマ「10年後の理想の姿を実現するための私の第一歩は」を伝え、学生に対しスマートフォンを提示しながら、テーマ設定について説明した。本プログラムを昨年受講したSAからの体験談を交えながら、個人ワークとグループでの共有を通し、各自のテーマ設定を試みた。次にプレゼンテーションで使用するスライドフォーマットの構成を示し、発表の具体的なイメージを示した。
- ・次回について（10分）最終プレゼンテーションに向けた準備や当日の進行、課題提出物などを確認し終了した。

○授業後の課題提示

授業後の課題として、ステップアップシートの入力及び個別にプレゼンテーション作成を指示した。

【振り返り】

○課題

体験実習の後で講義形式によって振り返りをしたことで、プレゼンテーションシートを作成できるかどうかが懸念された。またグループでの意見交換において、積極的に発言する学生がいる一方で、受講のオンライン環境等によって発言が少ない学生もいることが分かった。そして体験実習の経験について言及がなく、これまで学習した内容がいかされず個人的な思いばかりを強調する学生もいた。さらに「10年後の理想の姿」のために課題解決が強調されてしまうと、案を出すことが難しい面も見られた。

この後フォーマットにしたがってプレゼンシートの作成を進めてもらうことになるが、振り返りシートに記入できている学生も多いので一旦、提出を待つこととする。

○今後の課題

- ・今後の方向性として、体験実習を振り返る手法を見直すとともに、個人だけではなくグループ内で学びを振り返る時間を重視する。学生たちが自ら人生設計し、困難の背景を含めた考察をしっかりと行えるようになるように工夫する必要があるだろう。
- ・今回の受講者はモチベーションの高い学生が多い印象であったが、オンライン環境の違いやリアルな肌感覚が伝わらない分、気軽にディスカッションができない印象を持った。

学生の心理として「共感」されているかが気になるようだが、オンラインであることで、情報共有ができたのか？共感してもらっているか、もしくは共感していることが伝わったかなど、反応が読み取れずコミュニケーションを遠慮してしまっている印象を受けた。チーム以外の人との意見交換がしてみたいという話も出ていた。今回は、グループで深めるということを主眼に同じチームでの関わりにとどめたが、今後場合によってはグループメンバーを変えるなど、検討が必要。

【授業 PPT の抜粋：第十回】

Sourire

キャリアについて 4つのLキャリアの概念 ワークとライフのデザイン 社会人インタビュー	両立について 歴史的背景 子育ての価値観変化
ジェンダーについて 性にまつわる固定概念 社会にある意識	自分について なりたい姿ワーク 強みワーク
子どもについて 成長と関わり 行動と背景	両立家庭の実習 両立されている家庭 子どもとの共通体験

© sourire. All Rights Reserved.

体験気づき

Sourire

© sourire. All Rights Reserved.

プレゼンテーション講座

Sourire

プレゼン≠報告 「 相手に「伝わり、行動してもらうこと 」「 伝える 」裏に「 行動 」がひもづいている 明確に行動を提示することで、相手の行動を促す 「 今回の目的 」 自分への協力者や情報を求める！	プレゼン≠伝わる 「 伝わるとは？ 」 相手に「 利益になる・興味がある 」と思ってもらわなければ聞いてもらえない 相手のニーズに応えて始めて、聞いてもらうことができ、行動に繋がる 「 今回の聞き手のニーズ 」 将来にたいして協力できることがないか？
--	--

© sourire. All Rights Reserved.

Sourire

インターンシップを行って

●プログラムの前後で
イメージが変わったこと
素敵だな～
こんな工夫いいな～
もっとこうならいいのにな？疑問
(5個)

- ・仕事・働く環境
- ・結婚・子ども
- ・住まい・地域環境
- ・プライベート

＜以前のイメージ＞
＜変化後のイメージ＞

© sourire. All Rights Reserved.

課題解決プログラム

Sourire

**10年後の理想の姿を実現するための
私の第一歩は
というテーマでプレゼンを実施**

© sourire. All Rights Reserved.

4:提案を実現することで達成できる社会～

Sourire

☆聞き手が求めること
提案が実現したら、どんな自分になっているのか？

「実際に提案が実現した」
前提で、そのサービスを利用している
様子などをデモで行いましょう。
具体的なイメージが湧いてきます。

- 誰がどういう状況で使う？
- 操作方法は？
- どんな風に解決してくれる？
- 実際に使った人はどう思う？

自分たちの提案を見直す上でも
作ってみるとイメージしやすい

© sourire. All Rights Reserved.

【12月7日（月）4限 15:20～17:00】

課題2

●最終プレゼンテーションに向けて、プレゼンシートの作成を個人個別に実施

●出席人数5名

●実施内容

授業時間は教員が待機し、プレゼンテーションに関する質問に回答。

任意でプレゼンテーションの練習を実施した。

担当：荻野先生・井上先生・大野先生・喜多村

【第十一回 12月14日（月）4限 15:20～17:00 プレゼンテーション1】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	共同ホスト	・統括（最初・最後）	
井上先生	共同ホスト・録画	全体講評	
大野先生	ホスト・録画	録画	
吉田先生	共同ホスト		
鈴木先生	共同ホスト		
細井さん	共同ホスト	出欠確認	
喜多村	共同ホスト	ファシリテート	
SA 古居	共同ホスト	PPT 共有	
SA 土川	共同ホスト	PPT 共有	

●出席人数 17名

●実施内容

14:30～	事務局最終確認 （5分）	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定 15:20～：事前開放 ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
15:20～ 15:25	イントロ (5分)	●録画開始 ●授業開始 荻野先生挨拶
15:25～ 15:35 (10分)	アンケート回答 授業内容振り返り	
15:35～ 16:40 (63分)	個人プレゼンテーション	解説5分 ●個人プレゼン 7分／人 ※感想・気づき・共感するポイント・実現のための提供情報・アイディアを入力 チャットに以下入力
16:45～ 16:55	講評	井上先生より (10分)

【振り返り】

- ・発表者によってよく検討して書いているものと、そうでないものがあったように感じた。日頃から内省している学生や他者への観察力の高い学生と、そうでない学生との間に個人差が生まれているのではないかと考えられる。
- ・あくまでこの授業では、自分のライフキャリアを検討するためのきっかけとなってくれれば良いが、少し残念であった。

- ・プレゼンテーションの様式を決めて提出を求めたが、少し自由に個性が出るような形でプレゼンテーションの作成を求めて良いと感じた。自由に表現して見せることもプレゼンテーションでは大事な要素の一つである。また、様式が決まっていることで、浅いプレゼンテーションもある程度よく見えてしまうことがある。
- ・ワークとライフを掛け合わせて描く将来像について、課題が個人的なことに終始していて、深さが足りない学生が見受けられた。受講者の専攻をみても、将来像が具体的な方が多い傾向にあると感じたが、もう少しわくわくするような少し飛ばした将来像を描く人導きがあっても良い。また、課題も社会課題くらいに広い視点で捉える学生がいるともっとよかったです。
- ・他者との意見の共有やディスカッションの時間が足りないため、視点の広がりにかけてしまった可能性もある。オンラインでの限界を感じる。
- ・就職に直面する3年生はより具体的に発表していたし、1年生は漠然とした内容を発表していた。学年によって差がある。

【第十二回 12月21日（月）4限 15:20～17:00 第2回実習振り返り】

●当日担当

名前	ZOOM	役割	その他
荻野先生	共同ホスト	・統括（最初・最後）ブレイク内ファシリテーター	講評をお願いします
井上先生	共同ホスト・録画	ブレイク内ファシリテーター	
大野先生	共同ホスト・録画	ブレイク内ファシリテーター	
吉田先生	共同ホスト	ブレイク内サポート	
鈴木先生	共同ホスト	ブレイク内ファシリテーター	
細井さん	共同ホスト	出欠確認	
喜多村	共同ホスト	ファシリテーター	
SA 古居	共同ホスト	ブレイク内サポート	PPT 共有 JAM
SA 土川	共同ホスト	ブレイク内サポート	PPT 共有 JAM
小松原	ホスト・録画	メイン ブレイク操作、時間管理	

●出席人数 17名

●実施内容

14:30～	事務局最終確認	事務局最終確認 役割分担、出席者、投票などの確認 ●ホスト：共同ホストに設定 15:20～：事前開放 ●参加者対応：参加者が来たら、チェック&対応 ●スライド表示・音楽流す
14:50～ 15:20	文科省視察	【ご挨拶、自己紹介、本日の流れ確認、授業の概要ご紹介、中間提出への講評】 ※学生が入室してきたら待機室へ。 ※質問対応が必要な場合には、大野先生と学生をブレイクアウトに設定。必要に応じ吉田先生、鈴木先生ご対応お願いできますでしょうか。 SA 古居さん・土川さんは15時20分入室
15:20～ 15:25 (5分)	イントロ	●録画開始 ●授業開始 荻野先生挨拶
15:25～ 16:25 (60分)	個人プレゼンテーション	解説5分 ●個人プレゼン 7分／人 (8人→56分)
16:25～ 16:45 (20分)	ディスカッション	●ブレイクアウト JAMボードにファシリテータもしくは学生に記入をお願いする
16:45～ 16:55 (10分)	全体共有	●チーム内で話した内容を一言発表 1チーム 2分
16:45～	講評	荻野先生より (5分)

16:55		<p>●記念撮影 「10年後なりたい姿」を一言 A4用紙に大きく書いて画面へ投影 写真撮影※学生をピン留めして撮影</p>
17:00～ 17:15		<p>①前段紹介者以外の紹介 (SAのお二人、ご参観者) ②講評を伺う ※授業終了：学生からの質問がある場合はブレークで大野先生、ご対応お願いします></p>

【振り返り】

最終プレゼンテーションを聞いて（横浜市より）

・男女差があまり感じられないという感想をもった。現段階ではそうだが、10年後に実際に自分が経験してみるとまた変わってくるのかもしれないという印象を受けた。

・一部性的役割分担を感じたが、この点特効薬はないので、模索しながら横浜市も取り組んでいく。若い世代に早い段階から知つてもらうことが大切で中高生などにも伝えていくことが必要。

（文科省の方より）

・性別役割分担意識は年配の方よりも、若い方の方が、意識の変化を感じる。

・小中生に向けても、教育に向けて、予算をとっている。

・学生の貴重な意見を聞いてよかったです。1年生の段階でこういう授業を受けることは、今後の考え方方が変化していくと考えられる。また、意識の変化を授業の中で感じることができたことは参考になった。

・今後の計画の立て方についても参考になった。

（運営者より）

・性別役割分担意識については、伝え続けていくことが大切であり、学年によっても考え方方が違っている。3年は就職活動もあり、しっかりとした考えを持っているが、1,2年生の学生の方が柔軟性はあると感じた。

・オンラインでどうなるか不安があったが、遠隔でできてよかったです。遠隔だからこそできることもあったので、対面で実施したい気持ちもあるが、リアルの良さとオンラインの良さ比較し良い形を検討したい。

・ジェンダーを自分の問題として理解するために、キャリアを題材にするのはとても良いことだと思う。

・ディスカッションの時間を授業の中でとったことは、リアルで実施ができない中で意味深い時間になったのではないかと思う。

・仕事と家庭の両立されている社会人の方やお子さんとの関わりが、オンラインであっても実施できたことは本当に大きな意味があった。オンラインとリアルのいずれの場合でも、世の中の動きに合わせて柔軟に進めていきたい。

・学生の発表を聞いていて、夫婦の中で、家族の中で、という枠に囚われていた者が、ベビーシッターや社会を関わりにまで広がりをもって考える学生がいたことが成果だと感じた。

【授業 PPT の抜粋：第十一回、第十二回】

本日のプログラム Sourire

- アンケート回答 (10分)
- 授業内容の振り返り (5分)
- 学生によるプレゼンテーション (7分×9名)
- 講評～井上先生～ (10分)

© sourire, All Rights Reserved.

振り返り Sourire

自己理解 10月19日

【社会人ゲストトーク】
—多様な生き方を知る
—脇谷さん、豊田さん、中村さん



子育てに対する男女の意識や「働く」柔軟さ
就職するにあたっての意識の変化

© sourire, All Rights Reserved.

振り返り Sourire

キャリア&ジェンダー 11月12日

【ジェンダーとキャリアデザイン】
一ハンセンの4領域（仕事・家族・学習・余暇、地域）と統合



性的役割分担意識やキャリアについて考え
長期的な視点でキャリアを捉えた

© sourire, All Rights Reserved.

プレイカウトセッション Sourire

【チームについて】
お名前の頭にあるアルファベットのチームで
アイディアをブラッシュアップするセッション

【ファシリテートについて】
各チームに担当が入ります

振り返り Sourire

自己理解 10月5日・12日

【キャリア概論】
—共働きの歴史
—キャリアとは

【目標設定】
—10年後の
「なりたい姿」ワーク



現在の両立家庭を取り巻く事柄の背景
キャリアのあり方を考えた

振り返り Sourire

キャリア&ジェンダー 10月26日

【ジェンダーとキャリアデザイン】
—ジェンダーVSセックスから性の四相へ
—LGBTIsへの配慮からSOGIの視点へ
—多様性の称揚のみでいいのか？



性の四相とそれとの多様性
実は境界はあいまい—グラデーション、レインボーブラック

ジェンダーとキャリアの関係性
すごくや講義で学んだ

© sourire, All Rights Reserved.

＜テーマ＞ Sourire

10年後の理想の姿を
実現するための私の第一歩は

- プレゼン時間
7分／人
- ※途中でも切れます！

＜聞き手のポイント＞

- ①共感する点
- ②自分の持っているアイディアや情報

© sourire, All Rights Reserved.

グループでの対話の手順 Sourire

- ①プレゼンテーションの「感想・気づき」
(グループ全員) *ジャムボード
- ②実現のための「アイディア・情報」「共感したこと」をディスカッション
- ③グループで話し合った内容を、全体共有

お約束

- アイディアについて評価判断はしないでください
- 「実現したい姿」は変えずに実現する方法を考えてください。
- 前向きで積極的な話し合いをお願いします。

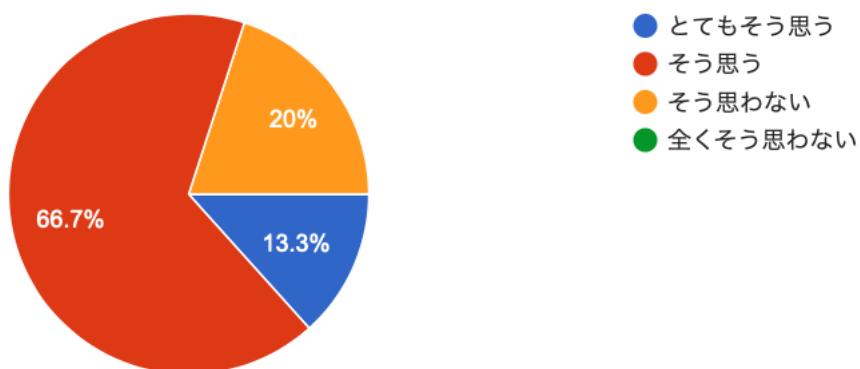
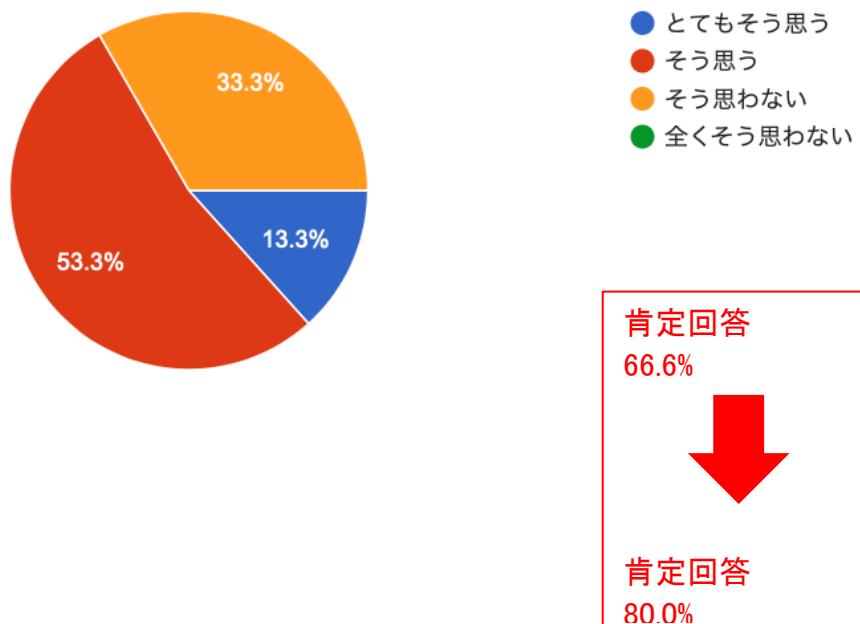
© sourire, All Rights Reserved.

(4) プログラムの効果測定結果

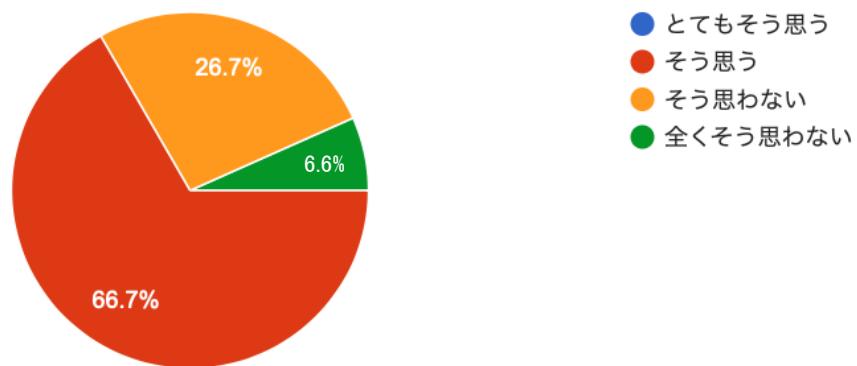
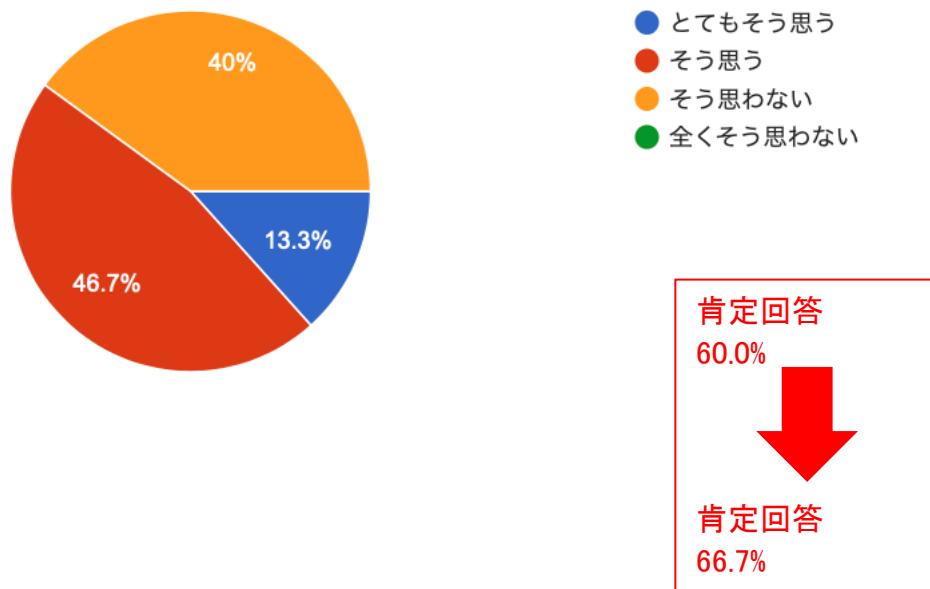
1. 仕事、子育てに関する意識の変化

【事前事後の意識変化】

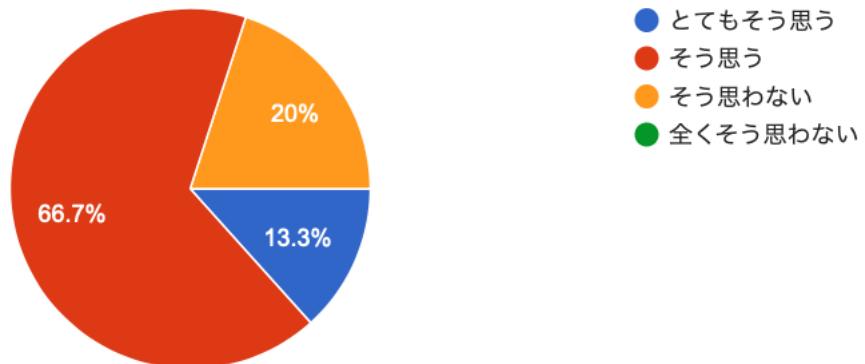
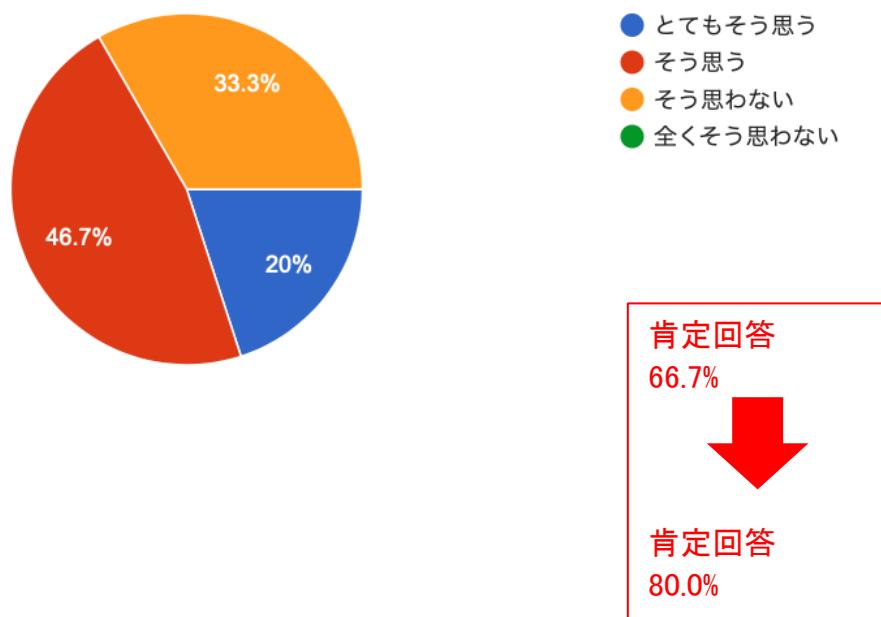
社会人になることが楽しみだ 肯定回答 66.6% → 80.0% (13.4%ptUP)



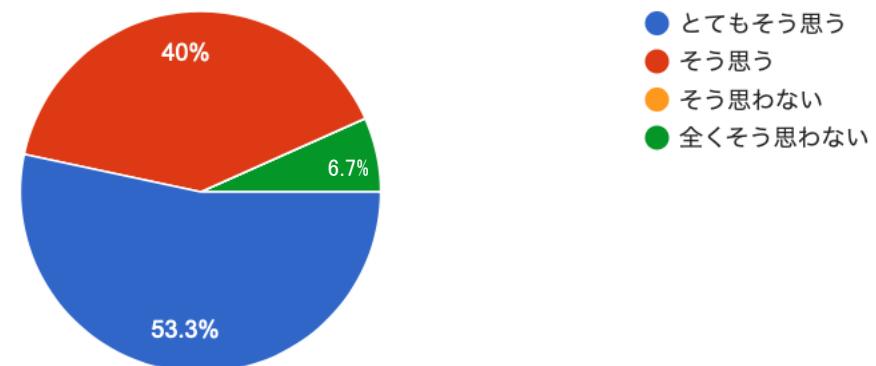
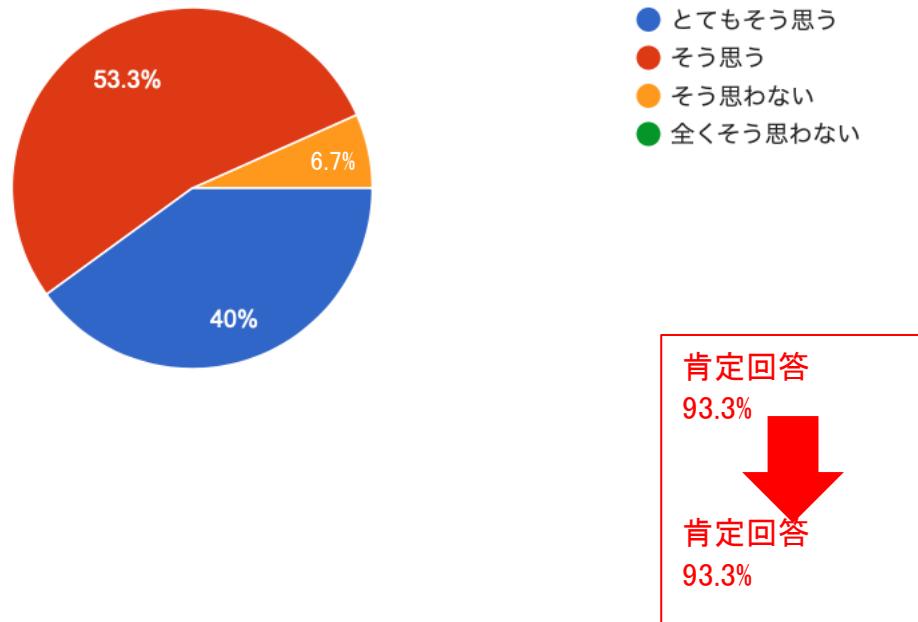
2. 子どもがいる生活を具体的に想像できる 肯定回答 60.0% → 66.7% (6.7%ptUP)



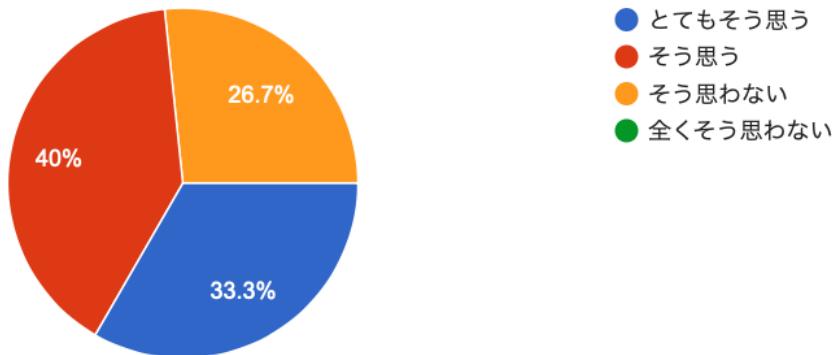
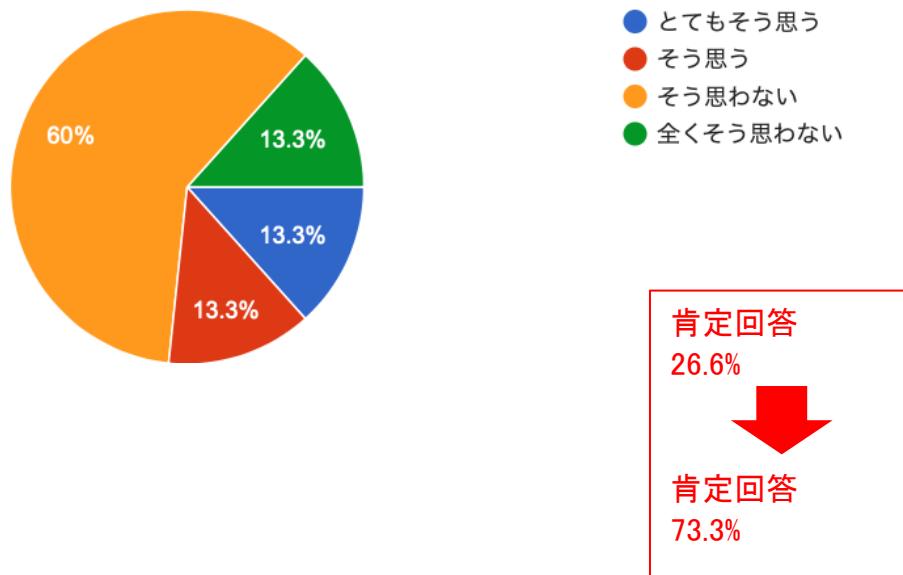
3. 将来の子育てに対して、悩みながらもこなしていく自信がある
肯定回答 66.7% → 80.0% (13.3%ptUP)



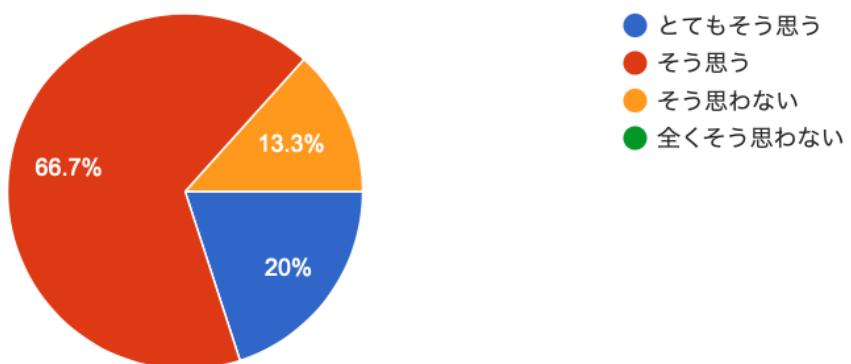
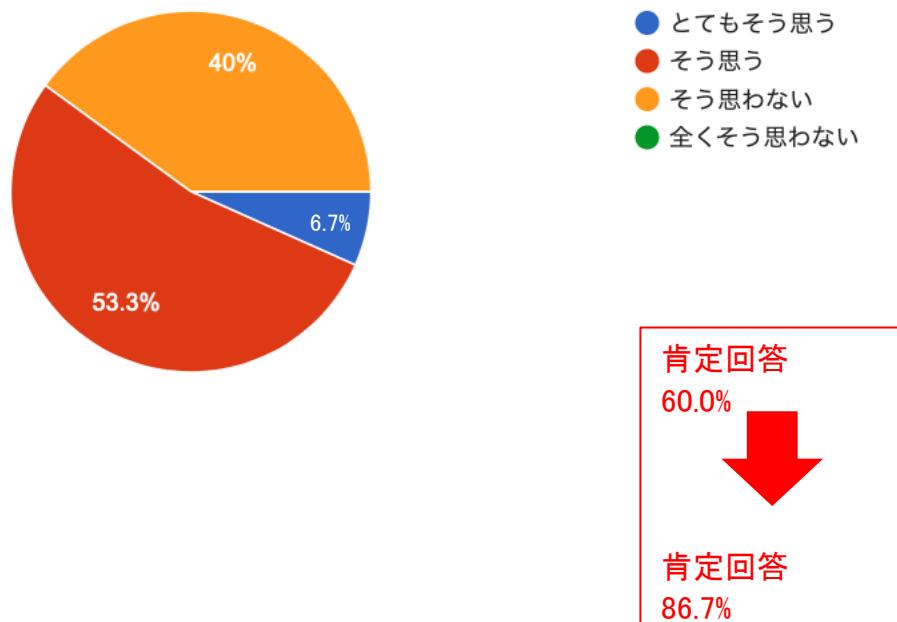
4. 仕事を続けながら子どもを育てたいという意欲がある
肯定回答 93.3% → 93.3% (0%ptUP)



5. 制度が整っていない会社でも自分次第で仕事と子育ての両立を可能にする自信がある
肯定回答 26.6% → 73.3% (46.7%ptUP)

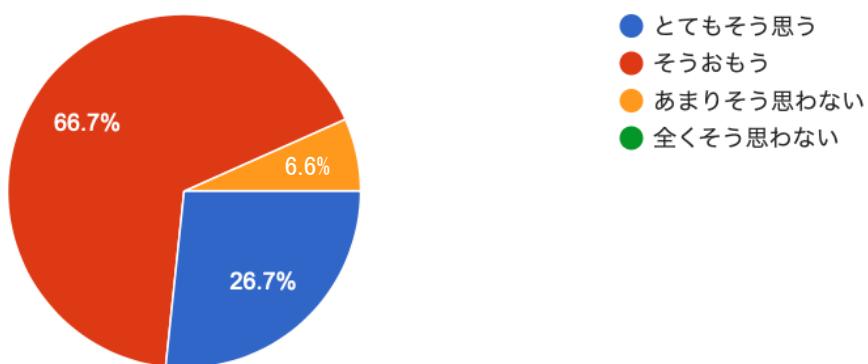


6. 自分の将来なりたい姿に向けて何をすべきか具体的なイメージがある
肯定回答 60.0% → 86.7% (26.7%ptUP)



【終了後の感想】

このプログラムを通して長期的に働き続けるイメージがつきましたか？



(回答理由)

- ・ライフィベント時に仕事を「辞める」ことだけが道じやないとわかった。
- ・キャリアをその時に応じて変更する重要性とメリットを学べたから。
- ・これから仕事につくための就活や結婚などのイベントをヒアリングを通じ深く考え、体験談などを深く聞くことができた。
- ・授業を通して、私生活を充実させながらの働き方を、社会人の方々の話を聞いてイメージすることができたから。
- ・社会人の方や、ご家庭の方から、アドバイスをたくさんいただけたからです。
- ・自らの得意なことを仕事にして行ければ出来るようなイメージが湧いた。
- ・自分の意志を強く持つこと。今の社会での男女のあり方や、性についての考え方を今後の生活に役に立つだろうし、社会人になっても関わってくるものだと感じたから。

「両立体験プログラム」を行った感想を、あなたの言葉で教えてください。

- ・自分が社会人になった後、どのような道筋を辿るのかを想像することに役立った
- ・今後のライフプランを考えるきっかけになったと同時に、考え方も変わった
- ・今までに体験しなかったようなプログラムであったので、準備やプログラム中も計画を立ててしっかりと進めることができた。自分のキャリアを多角的に捉えるきっかけになった。
- ・自分がこれから迎えることになる事柄や、ライフィベントを前もって知ることができた。ライフィベントによるモチベーションの変化や体験談を聞くことができ、それを元に自分もこのような人生を送って見たいと感じ、ここががんばりどころなのかな？と自分なりに深く考えて見たりなどができる。
- ・子育てとの両立というと大変難しい事もあったように感じるが、それを補えるように努力して行きたいと感じた。
- ・子供に実際に触れ、家庭を持つとはどのようなものか実際に感じることができよかったです。
- ・様々な方と関わることができ、とてもいい経験になった。この経験をいかそうと思う。
- ・様々な人と交流ができる、とても楽しかったのと、とても勉強になりました。
- ・子供と触れ合う機会が無いので貴重な時間になった、実際の家庭を見ることで将来のビジョンも見えてくると思った。
- ・同じ共働き家庭でも、自分の家族とは違う考えを知ることができて大変興味深かったです。